

伯爵

上杉茂憲君題辭

本居豐穎先生題歌

南摩綱紀先生序

畠山健先生序

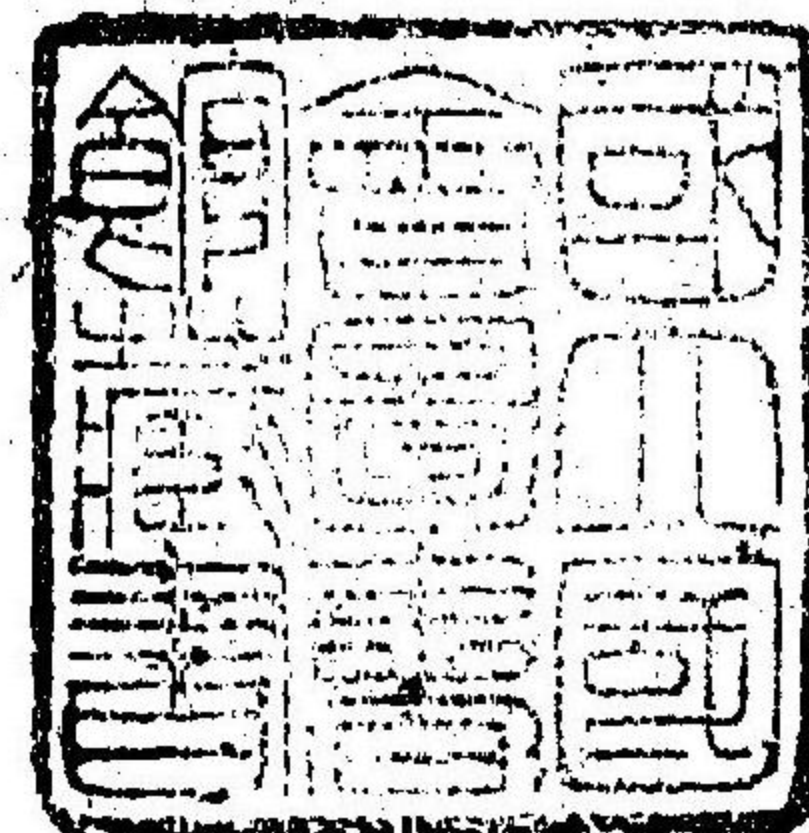
內田慶三編纂

米澤言音考

東京

目黒書店發行

818.25 U8194



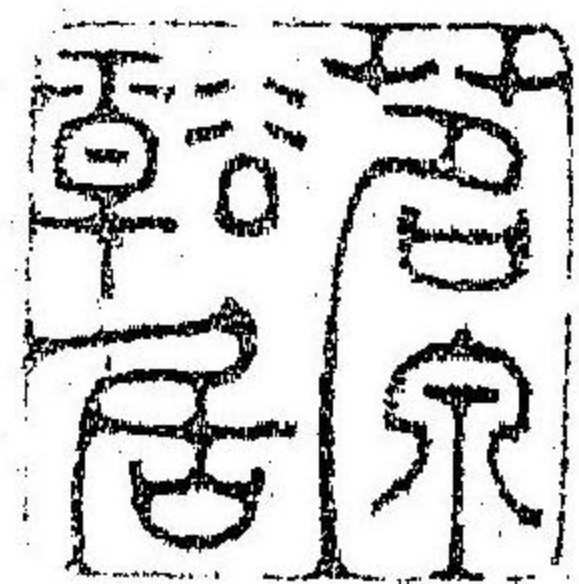
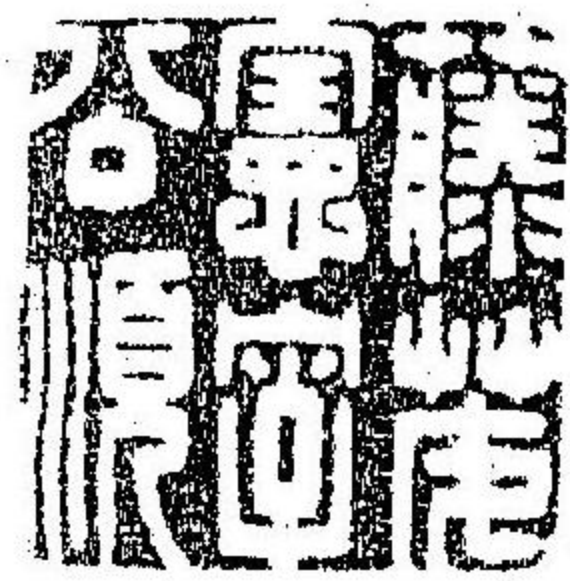
260921



福与连

心正

宣统伯爵后文



米澤言音考卷之二

おけいけいせいせい

兼てはに安ん心 安ん心

あ〜 安ん心 安ん心

安ん心 安ん心

おしん

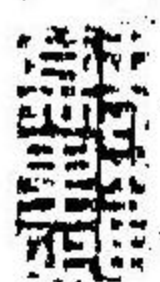
おしん 安ん心 安ん心

おしん 安ん心 安ん心

おしん 安ん心 安ん心

おしん 安ん心 安ん心

米浮言音考序



程子曰人心之動因言以宣凡人有所
思非言不能宣，而不通則事皆
謬所係重且大矣我邦各地方言
不相通者頗多余曾歷遊清國至
肥薩終日交言而不相通者十七
八矣昔者封建爲國各藩分疆不

由來往故各地方言不通亦不甚
害事今也四海一家來往頻繁曰
政治曰教育曰互市其他百般之
事言不通則其害有不可勝
言者不可不速改定也改定之方如
何曰集各地方言爲一書任教育
之責者參互考較正其誤同其

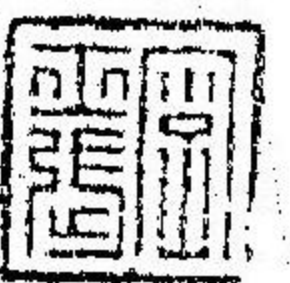
異自大中少學始漸次普及庶幾得
成功矣米淳人內田慶三夙學其鄉
多方言難通者欲改定之及爲新潟
縣女子師範校教師益有所感其
書其意蓋亦與余所見符焉書成請
余言余嘉之曰是爲改定方言嚆矢
矣海內教師皆續此各自著書以改

定嗣必見其大故豈可不為國家
稱贊哉因一言叙茲且德源之

明治三十四年三月

高等師範校教授

從五位南唐鑑元識時年七十又九



月田慶二君の著作の久きよりお徳源文
を修めりしもの久きより其の
郷里の志望を記し集めて諸君交遊
用ひ書義示を寄由し考くをむらぬ
るが今にしまりて故に諸君に
ち友は考ひてすむるに
考と類しとの後、お徳源文

流の系統を同くする著者があつた事
 河内郡を村にさへばわく事ある事
 きよと求むる事ありし事ある事
 かんとき

西暦一九二一年一月 高 山 健
 一 〇 〇 〇 〇

凡 例

- 一 我郷里米澤ニハ、五十音圖、阿行ノハハ江(E)ト云ヒ、屋行ノエハ衣(YE)ト云フ。例ヘバ、善いイナ、いいト云フ場合ニハ、えい(YE)ト云フ。依リテ、書中ノトエトノ音ヲ區別シテ使用ス。
- 一 佐行ノセハ、皆いいト云ヒテ、SEノ發音ナシ。依リテ書中、セノ音ニハ、いいヲ用フ。例ヘバ、みいせ(店)ナ、みいトシタルガ如シ。濁音亦同シ。例ヘバ、かいぜ(風)ナ、かいトシタルガ如シ。
- 一 通常ノ濁音ハ、假名ノ右肩ニ二點ヲ施シタルコト、普通ニ同シク、がいぎぐけいごノ如シト云ヘドモ、語頭ニ、ん音ヲ帶ブルモノ、がいぎぐけいごノ如ク、ういぐひいす(驚)は、がいき(端書)ノ類ハ、通常濁音ト區別スル爲ニ、かいきぐけいごノ如ク、假名ノ右方ニ、一個ノ黒點ヲ施ス。書中之ノ濁音ナ、第二濁音ト云フ。

凡 例

一語彙中ノ各語ハ、發音ノ儘之ヲ記ス。是レ其ノ眞ヲ寫サンコトヲ務メタルニ依ル。例ヘバ、たふれる(倒)ヲたおれる、酒に酔ふヲさげによろ、結ぶ、言ふヲゆうトシタルガ如シ。

一語彙ノ各項ノ上部ナル、一段太キ活字ヲ以テ擧ゲタルハ、方言ニシテ、其ノ直下ニ擧ゲタルハ、普通語ニシテ、時トシテハ、二三ヲ記シタルモノアリ。而シテ其方言ノ用例ヲ示スキニハ、一ノ直線ヲ以テ、之ヲ代表ス。

一促音ハ、文字ノ間ニ、短キ直線ヲ施シテ、其ノ標トス。

一形容詞ヲク活しく活ニ二分シ、ク活ハ、各語ノ下ニ、クトシ、しく活ハ、シクトス。

一動詞ニハ、各語ノ下ニ、其ノ活用ヲ記入ス。例ヘバ、加行四段ハ、カ四トシ、多行上一段ハ、タ上一トシタルガ如シ。

米澤言音考

緒言

世ノ進歩變遷ニ隨ヒテ、人ノ思想感情、漸ク高尙複雜トナリ、之ヲ表示スル所ノ言語文章、亦自ラ伴ヒテ變遷セザルベカラズ。即チ、古事舊物ノ廢セラレタルモノハ、其ノ言語サヘ不用ニ歸シテ、死語廢語ヲ生シ。又新事物ノ起レルモノニハ、名稱熟語ヲ作り、或ハ古語ノ義ヲ變ヘテ之ヲ適用シ、又ハ其ノ義ヲ擴メ、或ハ他國語ヲ採用シテ、以テ遺憾ナク其ノ觀念ヲ發表セントス。サレバ言語文章ハ、年數時代ヲ定メテ、革命變易スルニハアラズシテ、間斷ナク、生長發達スルモノナリ。故ニ、精密ニ言フ時ハ、十年前ノ言語文章ハ、今ノ言語文章ニアラズ。今ノ言語文章ハ、又十年後ノ言語文章ニ、アラズト云フヲ得ベシ。然レドモ、是レ敏捷ニ、文化ノ影響ヲ感受スル所ニ就キテ言フコトニシテ、其ノ感受作用ノ遲緩ナル所ニ於テハ、長ク舊觀念ヲ存シ、言語文章亦古語ヲ襲用ス。是レ自然ノ理ナリ。サレバ、交通機關ノ發達セザル所ハ國ノ内外ヲ問ハズ、皆此ノ状態ヲ免レズ。

我國上古ハ、言文殆ト一様ニシテ、言フガ儘ニ之ヲ記録スレバ、即チ文ヲナス。又字數ヲ限リテ之ヲ詠出スレバ、即チ歌謡ヲナス。是ヲ以テ、文字ナキ庶人モ、尙能ク歌謡ヲ詠ズルヲ得タ

リシハ古書ニ徴シテ明ヲカナリ。文ノ章ヲナスニ至リテハ、多少言語ニ曲節ナカルベカラズ。トイヘドモ、少シク文字アルモノ、之ヲ記スルノ易キコト、現今ノ、文法ヲ學ビ、作文ヲ習ヒ、辛ウシテ綴ル比ニアラズ、之ヲ要スルニ、其ノ輕易ナリシハ、談話語及ビ文章語ノ差別ナク、言ヘハ即チ歌文ヲナセハナリ。中古以來、漢語佛語等ノ外來語、漸ク國語ニ混入シ、次第ニ同化セラレテ、言文ノ差異ヲ生シ、其ノ善ク歌文ヲ屬スルモノヲ、歌人文人ト稱スルニ至ル。是ニ於テ、文學ハ所謂專門ノ事業トナリ、高尚ニ進ミタレドモ、其ノ社會ニ行ハル、範圍ハ漸ク狹小トナレリ。鎌倉室町時代ニ至リテハ、所謂武士詞言文ノ間ニ混シ、言語ハ愈變化シ文章ハ異様變體ノ擬漢文製作セラレ、又同體ノ尺牘文起ルニ至ル。一面ニハ、狂言ノ如キ、言文一致ノ文アリト雖ドモ、實用ニ供セラレタルニアラズ。唯其ノ伎藝ヲ行フモノ、此ヲ口ニスルニ過ギス、益言文ノ畛域ヲ高メ、文學ハ愈狹隘ノ範圍ニ追縮セラル、ニ至ル。徳川氏ノ時ニ至リ、學問大ニ勃興シ、有ラユル文學隆盛トナリ、談話語ヲ以テ綴レル書冊サヘ、出ヅルニ至リタレドモ、言文ノ一致ハ、到底復古スルコト能ハズシテ、以テ今日ニ至ル。而シテ往古ノ住民、各所ニ居テ定メテヨリ、地ノ東西、山海ノ形勢氣候ノ寒暄ヨリ、其ノ感情及ビ生活上種々ノ差異ヲ生シ、元來同一ナ期望スベカラザル發音言語ノ、自由自在ニ發達變化シ、年ト共ニ、各所其ノ差異ノ度ヲ増シタルコト、疑ヒナシ。交通繁ク、學術ノ淵叢タル、帝都ノ如キハ、

年々、死語廢語ヲ生シテ、新語之ニ代リ、思想言語上ノ新陳代謝盛ニ行ハルトイヘドモ、僻遠ノ地ハ、古來ノ言語ヲ襲用シテ、以テ毫モ、思想交換ノ要具ニ、缺クル所無シトス。是ヲ以テ、一步國境ヲ出ヅレバ、譯ヲ以テ、僅ニ通ズルガ如キ奇態アルハ、常ニ見聞スル所ナリ。是レ皆地方割據ノ然ラシメタルモノニシテ、亦人智發達ニ、大ナル差異アル所以ナリ。何トナレバ、言語ハ、思想ヲ載スル所ノ輿車ナルヲ以テ、其ノ言語ノ發達ノ度ヲ以テ、其ノ智識ノ深淺ヲ測知スルヲ得ルヲ以テナリ。

顧ミテ思フニ、我米澤ハ、南岩代ノ境ニ、吾妻ノ山嶺高ク蒼空ヲ摩シテ蟠延シ、其ノ脈東北ニ屈折シテ、家形山栗子山トナリテ、所謂奥羽ノ中央山脈ヲナシ、岩代磐城陸前ノ界ヲ劃リ、以テ東南二方ノ通路ヲ絶ツ。西方越後岩代ノ境ニハ、飯豊山屹立シ、其ノ脈北ニ走リテ、朝日嶽トナリ、以テ越後ノ通路ヲ塞グ。唯北ノ一方僅ニ山形ニ通ズル一路アルノミ。然レドモ、嶺丘陵起伏シテ、人馬ノ往復便ナラザリキ、往年鐵道ハ、東京仙臺ヲ聯絡シ、福島ヨリ分岐シテ、今ヤ米澤ヲ貫通シテ、北方山形ニ達スルニ至ル。是ヲ以テ、往古一藩ヲ建テ、天下ニ介在スルニ當リテハ、山河懸絶、兵勇ニ籍ラズシテ、外寇ヲ禦グコトヲ得、所謂形勝ノ地ト稱スルモノナリ。

王政維新ノ後、歐米文明ノ輸入ニ依リ、我國ノ文化益進ムニ當リ、海陸交通ノ便利ナル所ハ

曩日輸入ノ新説奇論モ、今日之ヲ實用シ、昨年ハ精巧良案ト讚賞シタルモノモ、今年ハ之ヲ凌駕スル物ヲ得ルニ至リ、見聞思想日ニ月ニ進歩推移ス。サレバ此ノ如キ境遇中ニ在ルモノハ、或ハ持重明確ノ思想ニ乏シキ愛ナキニハアフズトイヘドモ、亦殆ト社會ノ文明ニ後レザルモノナリ、顧フニ、古昔所謂形勝ノ地ト稱シタリシ所ニ於テハ、用フル所ノ器物、行ハル、所ノ風俗慣例ハ、數十百年前ノ舊物習慣、口ニスル所ノ言語ハ、古人ガ用ヒ捨テタル廢語方言、見ル所ノモノハ、昔ナガラノ山川原野ニシテ、一トシテ、舊態古物ナラザルハナシ。之ノ所謂形勝ノ地ニ生育セラル、モノハ、自ラ愛郷ノ心深クシテ、祖先ノ恩ヲ記スルコト、概ネ厚シトイヘドモ、郷關徹セラレ、全國ヲ通ツテ、同風タラシムベキ時ニ當リ、徒ラニ、一郷思慕ノ情ノミ厚ケレバトテ、深ク嘉賞スベキニアラズ。徒ラニ、懷郷ノ情熾ニシテ、郷關ヲ出ツルヲ好マザルモノ、及ビ、他郷ニ在リテ、思慕止マザルモノハ、其ノ由來スル所、複雜ナル觀念ヨリ起ルトイヘドモ、惟フニ、言語風俗ノ差異、其ノ主因ナリト云フヲ得ベシ。何トナレバ、已レ言語ノ發音、不正ニシテ且ツ方言多ク、自由ニ思想ヲ發表スルコト能ハズ、人ノ言フ所、亦其ノ意ヲ悟ルコト能ハザランニハ、自然思想ノ齟齬ヲ生シテ、事ヲ誤リ機ヲ失ヒ、其ノ極、失望落膽シテ、復、事ヲ執ルニ、躊躇スルニ至ルヲ無キニアラズ。風俗モ亦之ニ異ナラズ。生活上、往々支障ヲ生シ、自ラ悔イテ思ヘラク、郷里ナランニハ、斯カル徒勞モナカリシナト。此

ノ如キ幾微ノ動機ヨリ、慣レテ親シキ郷里ノ、寤寐ノ際ニモ、思慕追懷シテ、忘ル、能ハザル所以ナリ。

此ノ懷郷ノ情、徒ラニ熾ナルトハ、縦ヒ郷關ヲ辭シタルモノモ、心ヲ學問事業ニ潛ムルヲ能ハズ。郷里ノ事物、眉目ノ間ニ往來シテ、精神ヲ攪拌シ、學問事業ノ進歩ヲ沮害スルヲ少ナカラズ。志ヲ確立シタルモノハ、此等ノ情ニ動カサル、ヲナカルベシトイヘドモ、亦人情ノ免ル、ヲ能ハザル所ナリ。世ニ曰ハク、奥羽九州ノ人ハ、概ネ郷里ヲ慕フヲ深シト。余以爲ヘラク、其ノ理當ニ然ルベシト。即チ言語風俗ノ差異、甚シキノ致ス所ナリ。然レドモ、惜シイカナ。此ノ懷郷ノ情ハ、即チ退嬰的ニ屬シテ、眞ノ愛郷心ニアラズ。何トナレバ、唯已レガ生活交際上ニ、不便ナルニ依リテ、已レガ言語習慣ト等シキ、一小郷ヲ思慕スルニ止マレバナリ。寧ロ、此ノ退嬰自守ノ習慣ヲ脱却シテ、廣ク社會ニ馳騁スル勇氣ヲ養成スルハ、今後ノ要務ナリ。我郷、東北ノ山間ニ在リテ、交通不便、且ツ積雪數尺、寒氣酷烈ナルヲ以テ、古來常ニ文化ニ後レ、思想亦新タナルコト能ハズ。且ツ發音重濁、言語ニ不通ノ、方言多シ。言語學者ハ云フ。氣候寒冷ナル所ノ人ハ、自然ニ呼吸器ヲ保護スル必要ヨリ、務メテ口ヲ閉ヂ、鼻孔ヲ以テ呼吸シ、發音モ、多ク鼻ニ依ル、譬ヒ口ヲ開クトモ、自ラ小ナルヲ以テ、口内發聲機關ノ運轉、不十分ナルニ由リ、鼻聲多ク發音不正ナリト。果シテ然ラバ、我郷氣候ノ寒冷ナル限リハ、遂ニ發音矯

正ノ望ミナキカ。否然ラズ。冬期ノ寒氣ハ酷烈ナレドモ、他ノ三時ハ、氣候中和ナリ。此ノ時ニ於テ、十分發聲機關ノ運轉ニ熟セシメバ、譬ヒ冬期身體ノ自衛ヨリ、發聲機關ノ運轉、完全ナラズトスルモ、必ズ矯正ノ實效ヲ收ムルヲ得ベシ。又況ンヤ、嚴寒中、正シク發音スルモノ、悉ク其ノ侵害ヲ受クルニアラザルニ於テチヤ。サレバ、我郷發音言語ノ矯正、望ミナキニアラズ。矯正ノ任ニ當ルモノ、意ヲ疆クシテ可ナリ。又我郷ハ、本居贈正四位ガ所謂古語ノ殘レる國ニシテ、言語ノ外形、既ニ大ニ異ナルノミナラズ、發音不正ニシテ重濁、拗曲ニシテ濁澁ナルヲ以テ、異郷ノ人ニ接スレバ、輒スク對話スルコト能ハズ。是レ豈ニ言語ノ用ヲ辨ズルモノト云フヲ得ンヤ。余數々、之ヲ先進ニ聞ク。曰ハク、我輩發音正確、言語明晰ナランニハ、今日ニ至ルノ間、其ノ勞苦ヲ半減シタリト。是レ皆、我郷人ノ、感テ同シクスル所ナラン。往昔彼我ノ交通稀ナル時ハ、則チ已ム。當今、交通自由ニシテ、青年ノ、策チ東都西京ニ負フモノ、年々ニ増スニ當リ、舊來ノ方言鄙語ヲ株守シテ顧ミザルハ、郷里ノ福利進歩ヲ企圖スル所以ニアラズ。是ニ於テ、先進ノ輩、大ニ之ガ矯正改善ニ盡力シ、我郷里ノ言語ヲシテ、雅馴高尚ニシテ、明正ナラシメ、隔靴搔痒ノ憾ミナカラシムルヲ勉ムベシ。或ハ云フ、必要ニ迫レバ、自ラ之ヲ改ムト。嗚呼、是レ何ゾ思ハザルノ甚シキ。數十年來、郷里ヲ辭シテ他郷ニ在ルモノ、幾百人、皆言語ノ不通ニ苦ミ、改善ノ必要ニ迫ラザルモノナシ。誰カ直チニ、之ヲ矯正シ得タルモノ

アル。或ハ一二年ノ間ニ、矯正シ得タルモノアラバ、是レ非常ノ勉強家ナリ。然レドモ、概ネ、先輩ト感テ同シクスルモノ、比々皆然リ。是レ決シテ、余ガ私言ニアラザルナリ。縱ヒ、之ヲ能クストイヘドモ、在郷ノ時ヨリ、之ガ矯正ニ盡瘁スルコト、何ノ不可カ之レ有ラン。又況ンヤ、悉ク郷里ヲ出テザルモ、矯正シテ、遂ニ其ノ害アルヲ見ザルニ於テチヤ。

其ノ矯正ノ方法、許多アルベシトイヘドモ、學校ニ於テ、教師ガ、力ヲ極メテ、矯正改善スルヲ以テ、最モ效驗アリトナス。我郷、既ニ方言ヲ調査シテ、矯正ヲ務ムルニ至レルハ、最モ喜ブベキコトナリトス。中學校及ビ高等女學校ニハ、縱ヒ少數ナリトモ、他郷ノ人在ルヲ以テ、矯正上、多少便利ナルコトアルベシトイヘドモ、小學校ニ至リテハ、之ニ反シテ、其ノ便利乏シキヲ免レズ。又方言鄙語ハ、廣ク普通語ニ對照スルニアラザレバ、之ヲ甄別スルコト易カラズ。而シテ方言鄙語ニアラザルモ、古語廢語トナリ了レルモノハ、之ガ使用ヲ止メザルベカラズ。此等ノ調査、完全ニシテ遺漏無キ時ハ、着々矯正ノ歩ヲ進ムルコトヲ得ベシ。文科大學ニテモ、府縣廳ニ依頼シテ、方言ヲ蒐集セラレタリトイヘドモ、其ノ結果ヲ見ルコト能ハズ。或ハ有志ノ輩、之ヲ蒐メテ、印刷ニ付シタルモノ、無キニアラズトイヘドモ、尙僅々ノミ。我郷亦委員ヲ舉ゲテ、方言及ビ不正發音ヲ調査シタルコト有リト聞ク。余不才ナリトイヘドモ、夙ニ之ノ企圖アリ、然レドモ、之ノ事業タル、一朝一夕ノ、能ク爲シ得ベキニアラズ。明治二十六

年以來、公務ノ餘暇聞クニ隨ヒ得ルニ任セ、片言隻語ヲ拾收シテ、以テ今年ニ至リ、積ンテ冊子ヲ成シタリトイヘドモ、尙落葉ヲ掃フガ如ク、從テ收ムレバ從テ得、到底其ノ終期アルヲ見ズ。所謂九牛ノ一毛タルニ過ギズ。殊ニ、余今獨リ他郷ニ寓シ、郷人ノ談話ヲ聞クコトナク、全ク蒐集ノ便ヲ缺ク。依テ今茲ニ、暫ク其ノ局ヲ結ビ、米澤言音考ト題シ、先ヅ、郷里ニ行ハル、言語ノ語典ヲ舉ゲ、次ニ、言音ヲ集録ス。素ヨリ、矯正ノ參考ニ資スルニ足ラズ、覆舊ノ片紙ニ過ギズトイヘドモ、大方ノ君子、余ガ所謂、退嬰的懷郷ノ情之ヲシテ、然ラシメタルニアラズ。愛郷ノ念、一ニ余ヲシテ、筆ヲ執ラシメタルヲ、察シ給ハ、幸甚ナリ。

米澤言音考目次

緒言

第一	音	一
第二	言語	一
一	名詞	三
二	代名詞	三
三	數詞	五
四	動詞	五
五	形容詞	〇
六	助動詞	一
七	副詞	七
八	關係詞	九

九 感歎詞……………三五

十 敬語……………三六

十一 首辭……………三八

十二 尾辭……………三九

語彙

第一 名詞……………四一

一 天地神佛歲時所場ニ關スル語……………四二

二 人倫……………四五

三 動植物……………六四

四 支體……………六七

五 家屋被服調度……………七〇

六 飲食調理……………七六

七 雜……………七七

第二 代名詞……………九〇

一 人代名詞……………九〇

甲 自稱 乙 對稱
丙 他稱 丁 不定稱

第三 動詞……………九二

一 自動詞……………九二

二 他動詞……………一〇四

第四 形容詞……………一一七

一 性質形狀及度合……………一二七

二 情緒感覺及其他……………一二三

第五 助動詞及其接續……………一二八

第六 副詞……………一二九

一 時間及經過……………一二九

二 狀態方法及性質……………一三二

三 分量度合……………一七〇

四 雜……………一七九

第七 關係詞……………一八一

一 接續詞……………一八一

二 後置詞……………一八二

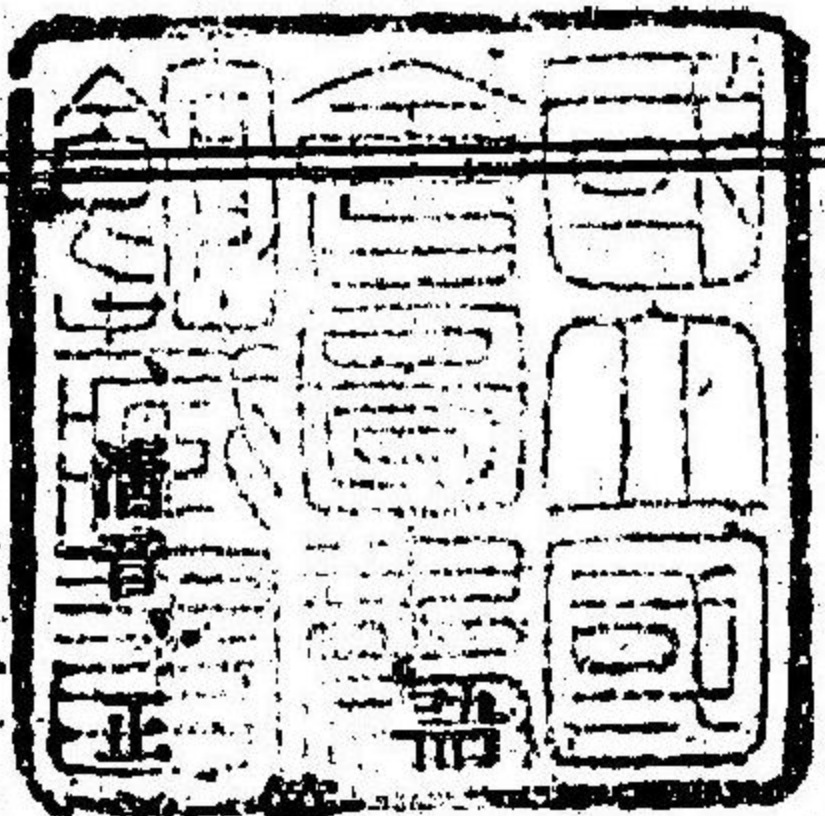
三 拔萃詞……………一八三

第八 感歎詞……………一八四

第九 句……………一八六

目次終

米澤言音考



第一音

トノ、ニツアリ。而シテ、一字ニ、此ノニツヲ兼
 スルモノト、正音ノミクモノト、訛音ノミ存スル
 モノトノ、三様ニ別ル。

(一)正音

阿行

あ あし(足) あめ(雨)ノ如シ。
 い い嬉し、悲し、いゝる(鱒)ノ如シ。
 う うし(牛) うと(嘘)ノ如シ。

米澤言音考

内田慶三編纂

ね おと(音) おれ(己)ノ如シ。
 加行

か かさ(笠) かま(釜、鎌)ノ如シ。
 き きた(北) さね(杵)ノ如シ。
 く くすり(薬) くさ(草)ノ如シ。
 け けさ(今朝) けむ(煙)ノ如シ。
 こ こま(獨樂) こと(琴)ノ如シ。

佐行

さ さ(笹) さま(様)ノ如シ。
 し した(舌、下) しま(島、綿)ノ如シ。
 す すな(砂) すみ(炭、墨)ノ如シ。

りそで(袖) そと(外)ノ如シ。

多行

たたま(玉) たな(棚)ノ如シ。

ちちから(力) ちり(塵)ノ如シ。

つづめ(爪) つる(蔓)ノ如シ。

ててら(寺) てま(手間)ノ如シ。

どとら(虎) となり(隣)ノ如シ。

奈行

ななす(生) なみ(波)ノ如シ。

ににし(西) には(垂)ノ如シ。

ぬぬま(沼) ぬる(塗)ノ如シ。

ねねる(寝) ねぎ(葱)ノ如シ。

ののはら(野原) のど(咽喉)ノ如シ。

波行

ははら(原、腹) はま(濱)ノ如シ。

ふふた(蓋) ふし(節)ノ如シ。

へへび(蛇) へら(篋)ノ如シ。

末行

まます(樹) まね(真似)ノ如シ。

みみそ(味噌) みす(雛)ノ如シ。

むむし(虫) むすめ(娘)ノ如シ。

めめし(飯) めたま(眼球)ノ如シ。

ももり(森) もの(物)ノ如シ。

也行

ややぶ(藪) やま(山)ノ如シ。

いむくら(報、酬)ノ如シ。

ゆゆめ(夢) ゆり(百合)ノ如シ。

にきえた(消)ノ如シ。

よよる(夜、寄) よそ(外)ノ如シ。

良行

ららしーや(羅紗) はら(原)ノ如シ。

りりんご(林檎) ちり(塵)ノ如シ。

るはる(春、張) うる(賣)ノ如シ。

れだれ(誰) かれ(彼)ノ如シ。

ろほろ(母衣) ふろ(風呂)ノ如シ。

和行

かわし(鷺) わら(蕨)ノ如シ。

右也行ノ音ハ、口ヲ扁平ニシ、舌端ヲ、口蓋骨ノ下、上前歯ノ後部ニ、殆ト水平ニ置キ、輕ク、上下唇ヲ開キ、口蓋軟骨ト、舌ノ中央トノ間ヨリ、氣息ヲ送レバ、喉頭ニ於テ生ズルナリ。然ルニ、我郷ニテハ、之ヲ言フニ、舌ニカヲ加ヘ、左右縁、及ビ、前端ヲ下曲シ、上下唇ニ、氣息ヲ觸レシメテ、發スルニヨリ、其ノ音重ク、じや、じ、じゆ、じえ、じ

よノ如ク開ユ。

良行ノ諸音ハ、舌端ノ翻轉、足ヲザルガ爲ニ、其ノ音、十分ナラズ。即チLノ音ヲ發ス。又甚ダ不正ナルハ、其ノ父音ノ、殆ト脱落セルガ如キモノアリ。殊ニリノ音ニ於テ然リトス。

(二) 訛音

(イ) 清音ヲ、他ノ清音ニ云フモノ。

阿行

あ おト云フ場合。扇ヲおおぎ、逢ムヲおおト云フ類。

い いト云フ場合。十中八九ハいト云フ。糸ヲいと、犬ヲいぬ、池ヲいけト云フ類。

う んト云フ場合。埋めるヲんめるト云フ類。梅ハ、んめト云ヒテ、うめト云フコトナシ。

は えシヤ行ノ正 ト云フ場合。江戸チエド、江部チエベト云フ類。

又、進撃ノ便ヨリ、爲得なねチ、ししせなねト云フ。

加行

か こト云フ場合。觸體チこおべ、

佐行

さ しヤト云フ場合。されかうべチ、しやれこおべ、機敷チ、しやじき、三味線チ、しやみしーねん、才子は無いチ、しやねこあなねト云フ類。

し ちト云フ場合。し^{上チ}、促^{ムル}時、し^チちト云フ。苦し^イチ、く^ーつら^イ、で^ーつしり^チ、で^ーつちりト云フ類。

せ しーねト發音シテ、せト云フ音ナシ。疝氣チ、しーねんき、扇子チ、しーねんす、蟬チ、しーね

み、關チ、しーねぎ、煎餅チ、しーねんべねト云フ類。此ノ他、皆然リ。

多行

ち 促メテ云フ場合。勝ちてチ、か^ーつて、立ちてチ、た^ーつてト云フ類。

つ 促めて云フ場合。奴チ、や^ーつこト云フ類。

波行

は わト云フ場合。人は、君は、花は、月は等ノは、皆わト云フハ、普通語ト同シ。又此ノわチ、あト云フ。人わ、君わ、花わ、月わ等ノわチハ、常コわト云フ。

ひ ふ^ーひト發音シテ、ひト云フコナシ。火チ、ふ^ーひ、人チ、ふ^ーひと、関チ、ふ^ーひまト云フ類。此ノ他皆然リ。

波行活用動詞ノ語尾、ひナルトキハ、皆わト

云フ。拾ひチ、ひろね、思ひチ、おもね、習ひチ、ならねト云フ類。

促メテ云フ場合。言ひてチ、ゆ^ーつて、思ひてチ、おも^ーつてト云フ類。

ふ おト云フ場合。匂ふチ、におお、倒れるチ、たおれる、扇チ、おおぎト云フ類。

ラト云フ場合。思ふチ、おもら、習ふチ、ならら、醉ふチ、よラト云フ類。

ハ 波行活用動詞ノ語尾ナルハ、皆ハト云フ。思へばチ、おもねば、與へてチ、あたねて、添へてチ、そねてト云フ類。

又連聲上ヨリ、しーねト云フ。教へチ、おししーねト云フ類。

は おト云フ場合。顔チかお、匂ふチ、におおト云フ類。

末行

み んト云フ場合。好みてチ、このんで、悲みてチ、かなしんでト云フ類。

也行

い 皆阿行ノイト同シク、ねト云フ。

ゆ ねト云フ場合。お粥チ、おかねト云フ。然ルニ、おノ首辭チ去ルトキハ、かゆト云フ。

え 阿行ノねト同音ニ云フ。火あ燃ねだ、良く覺ねだノ如シ。

よ えト云フ場合。善^イチ、えねト云フ類。

良行

ら ろト云フ場合。文語、又ハ、漢字音チ、其ノ儘ニ云フトキニ限ル。笑ふ門にはチ、わろおかどにはト云ヒ、郎チ、ろお、蠟燭チ、ろおそ^トト云フ類。此ノ他、洗^スふ、笑^スふチハ、

わらう、わらうトヤウニ云フナリ。

リ 促メテ云フ場合。知りてチ、しつてト云フ類。

る ト云フ場合。蛙^{カヘレ}チ、がねろ、雪汁^{シユ}チ、ゆ

ぎしろトイフ類。

和行

め いた云フ場合。大井田、井伊ノ井チ、いと云フ類。

ねト云フ場合。井戸チ、ねど、蟻^{カモリ}類チ、ねも

り、藍^{アヲ}チ、あね、新井チ、あらねト云フ類。

う 皆、阿行ノラニ同ジ。

ゑ 也行ノエト、同音ニ云フ場合。書書チ、え

がぎ、繪馬チ、おえんま、巴チ、ともえ、植

ゑるチ、うえる、験^{エミ}いを、えどねト云フ類。

よト云フ場合。酔^ユふチ、よおト云フ類。

を おト云フ場合。岡チ、おか、踊チ、おどり

ト云フ類。總ベテ、正音ニハ云ハズ。阿行ノ

おニ、變ジリタリ。

ぼト云フ場合。尻尾^{シツビ}チ、しつばト云フ類。

(ロ) 清音チ、濁音ニ云フモノ。

加行

か 菓チ、はが、袴チ、はがま、岡チ、ねが、

咲かないチ、さかなね、赤いチ、あがねト云フ類。

き 秋チ、あぎ、穿物チ、はぎもの、帯チ、は

おぎ、莖チ、くぎ、柿チ、かぎ、咲きチ、さ

ぎト云フ類。

く 書くチ、かぐ、掃くチ、はぐ、憎いチ、に

ぐね、焼くチ、たぐ、解くチ、とぐ、肉チ、

にぐト云フ類。

け 池チ、ねげ、竹チ、たげ、桶チ、おげ、酒

チ、さげ、時計チ、とげね、負けるチ、まげ

るト云フ類。

乙 章魚チ、たご、此所を、こご、床チ、とご、

猫チ、ねご、箱チ、はご、蟹チ、むごト云フ類。

多行

た 痛いチ、ねだね、見たいチ、みだね、板チ、

ねだ、旗チ、はだ、沙汰チ、さだト云フ類。

ち 形チ、かだち、蜂、鉢、チ、はぢ、口チく

ぢ、落ちチ、おぢ、町チ、まちト云フ類。

つ 靴チ、くづ、節チ、せづ、松チ、まづ、打

つを、うづ、勝つチ、かづ、鐵チ、てづト云

フ類。

て 扱チ、さで、籠手チ、こで、蹴てチ、けで、

見てチ、みで、煮てチ、にでト云フ類。

と 跡チ、あと、外チ、そと、鳩チ、はど、悟

りチ、さどり、的チ、まどト云フ類。

(ハ) 清音チ、撥音ニ云フモノ。

良行

ら 降らないチ、ふんなね、分らないチ、わが

んなね、取らないチ、とんなね、織らないチ、

ねんなね、照らないチ、てんなね、張らない

チ、はんなねト云フガ如ク、此ノ種類、皆然リ。

れ 呉れないチ、くんにやね、晴れないチ、は

んにやね、足れないチ、たんにやね、恐れ

ないチ、おそんにやね、されないチ、さんに

やね、書かれないチ、かがんにやね、讀ま

れないチ、よまんにやね、生^イきられないチ、

ねぎらんにやね、見られないチ、みらんに

やねト云フガ如ク、此ノ種類、皆然リ。

右ノ如ク、阿行ノね、佐行ノせ、波行ノひ、和行

ノぬら系をノ七音ハ、故ラニ、意チ用ヒテ言フキ

ハ、言ヒ得ヌニハアヲザレドモ、通常ノ言語上ニハ、全ク消滅シテ、使用セラル、コトナシ。而シテ、同行ノ音ハ、既ニ消滅シタレドモ、也行ノ音、轉訛シテ、何トナリテ存スルヲ以テ、現今、清音ハ、四十四音アリ。然ルニ、又同行ノ音、也行ノ音ハ、相混ヲテ、實際ノ使用ハ、一音トナレルヲ以テ、尙ホ一音ヲ減ヲテ、現在四十三音アリ。

又第二音以下ニ、加行多行ノ音アルトキハ、概ネ、之ヲ濁ルコト、前ニ擧ゲタルガ如シ。其ノ正シキ清音ノ如キハ、北、舌、萬、蓋、深、さかな等ノ數語ニ過ギズ。是レ米澤言語ノ、重濁ナリト非難セラル、所以ナリ。

又清音ヲ、撥音ニ轉訛スルハ、言語ヲ不明ナラシムル主因ニシテ、且ツ米澤言語ノ、鼻聲ナリト非

難セラル、所以ノ一ナリ。

二、濁音、清音ト同ク、正音ト、訛音ト、二ツアリ。而シテ、亦一字ニ、正音ト、訛音ト、兼ネタルモノト、正音ノミノモノト、訛音ノミノモノトアリ。

(一) 正音、

加行

前ノ、清音ヲ濁音ニ呼フモノ、例ハ、詞トシテハ、不正ナレドモ、其ノ音ハ、加行元來ノ正音ナリ。依リテ、彼ノ例ヲ以テ代用ス。多行モ亦同ク。

佐行

ぎ 座敷チ、さしぎ、笹チ、ざるト云フ類。
じ 自分チ、じぶん、時節チ、じせつト云フ類。
ぢ 枝條チ、すわね、芋莖チ、すわぎト云フ類。
ぞ どんざね、ぞろりとト云フ類。

波行

ば 倍チ、ばね、馬場ノ上ノば、罰チ、ばちト云フ類。

び 鼓チ、びつこ、琵琶チ、びわト云フ類。

ぶ 豚チぶた、武士チ、ぶしト云フ類。

べ 別チ、べつ、紅チ、べにト云フ類。

ぼ 繻縷チ、ぼろ、牡丹、紐釦チぼだんと云フ類。

(二) 訛音、濁音ノ語ハ、大抵、更ニ其ノ濁音ノ頭ニ、

微ニ、んノ音ヲ加ヘタル、濁音ニ變化セリ。是

レ、即チ、鼻聲多ク聞ユル所以ノ二ナリ。然レ

ドモ、一音及ビ二音以上ヨリ成レル語ノ、初ノ

音ノ、正シキ濁音ヲ發スル例アルハ、既ニ、前

ニ擧ゲタルガ如シ。而シテ、之ノ濁音ヲ記スル

文字無キヲ以テ、此ノ書、假リニ、清音ノ右旁

ニ、一點ヲ加フルコトトシ、又通常ノ濁音チ、

第一濁音、此ノ濁音チ、第二濁音ト稱ス。

(一) 第一濁音チ、第二濁音ニ云フモノ。

加行

か 罽釜チ、つばかま、鏡チ、かかみ、御互チ、こだかね、齒痒セツイチ、はかりト云フ類。

き 萩チ、はぎ、鍵チ、かぎ、大角豆チ、さ

さき、播木チ、すりこぎ、ト云フ類。

く 鷲チ、うくねす、剃ぐチ、はく、恵むチ、

めくむ、滑ぐチ、すすくと云フ類。

け 禿チ、はげ、焦るチ、こける、下るチ、

さける、公卿チ、くげト云フ類。

こ 双六チ、すごろく、駕籠チ、かこ、顎チ、

あて、手心チ、てこころト云フ類。

さ 交るチ、まざる、風下チ、かさしも、吳

佐行

座チ、ござ、刻くむチ、さららむト云フ類、
 し 始はるチ、はしまる、富士の山チ、ふしの
 山、虹チ、にし、鯨チ、くしらト云フ類。
 す 數チ、かす、疵チ、さす、筭チ、はすト
 云フ類。

せ 此チ、じじと云ヒチ、んんじじト云ハ
 ズ。錢チ、せに、風チ、かせ、何故チ、な
 せ、是非ともチ、せひとも、進せるチ、し
 んせるト云フ類。
 り 士族チ、しそぐ、謎チ、なそ、小僧チ、
 こそおト云フ類。

多行

た 抱たくチ、わたぐ、果物チ、くたもの、肌
 着チ、はたき、涎チ、よたれト云フ類。
 ち じト區別ナシ。

つ ずト區別ナシ。
 て 腕チ、うて、袖チ、そて、小網チ、さて、
 迄チ、まて、雪て、なてト云フ類。
 ぞ 窓チ、まと、角チ、かと、踊チ、おとり、
 江戸チ、えとト云フ類。

波行

は 馬場チ、ばは、蕎麥チ、そは、巾チ、は
 はト云フ類。
 ひ 錆チ、さひ、帶チ、おひ、足袋、旅チ、
 たひ、頸、首チ、くひト云フ類。
 ふ 負ふチ、おふら、蕪、株チ、かふ、吐チ、
 わふト云フ類。
 へ 壁チ、かへ、鍋チ、なへ、くへる入クレト
 統へるト云フ類。
 は 疣チ、わは、紐チ、ひは、窪みチ、くは

みト云フ類。

(ロ) 第一濁音チ、撥音ニ云フモノ。

波行

び 飛びてチ、とんて、遊びてチ、あそんて、
コ轉びてチ、ころんて、ト云フ類。

(ハ) 第二濁音チ、撥音ニ云フモノ。

多行

て 其てないチ、そんなねト云フ類。

三、次清音 云フベキコトナシ。

右ハ、一音毎ニ就キテ、其ノ發音ヲ述ベタルモノナ
 ルガ、左ニハ、同音ニ呼ブモノチ、類別シテ舉グ。

一、シト云フモノ、

- (一) い 錆るチ、さる、嬉し、悲しト云フ類。
- (二) む 大井田チ、おおいた、井伊チ、いいト云フ類。

二、ラト云フモノ、

(一) う 牛チ、うし、臼チ、うすト云フ類。

(二) む 思ふチ、おもう、幕ふチ、したう、逢ふチ、
 わうト云フ類。

三、ハト云フモノ、

(一) い 糸チ、いど、犬チ、いぬ、石チ、いしト云
 フ類。

(二) ね 他ノ音チ、ハト變シタレドモ、元來ノハノ
 音チハ、也行ノエト變ジタリ。

(三) ひ 拾ひ物チ、ひろいもの、手習ひチ、てなら
 い、思ひチ、おもいト云フ類。

(四) へ 添へてチ、そいで、與へてチ、あだいで、
 蠅へチ、はは、前へチ、まいト云フ類。

(五) え 燃えるチ、もいる、覺えたチ、おはいだト
 云フ類。

- (六)の 蝶餅チ、ゆもり、藍チ、あね、井桁チ、ゆげだト云フ類。
- 四、おト云フモノ、
- (一)あ 扇チ、おおき、逢坂チ、おおきガト云フ類。
- (二)お 音チ、おど、己チ、おれト云フ類。
- (三)お 句入チ、におお、倒れるチ、たおれるト云フ類。
- (四)お 顔チ、かお、句ひチ、におねト云フ類。
- (五)お 桶チ、おげ、岡チ、おが、竿チ、さおト云フ類。
- 五、エト云フモノ、
- (一)え 縁チ、えん、榮耀榮華チ、えよおえにかト云フ類。
- (二)え 善いチ、えねト云フ類。
- (三)え 書工チ、えがぎ、越後チ、えちこ、敵いチ、

えこねト云フ類ナリ。

右ハ、其ノ主ナルモノニシテ、此ノ他、はチわ、わチわ、るチろ、うチん(埋めるチ、んのであるト云フ類)ト云フコトアレドモ、其ノ場合、極メテ少ケレバ、之チ略ス。

此ノ外、撥音、促音、拗音、通音、通韻、約音、伸音、略音、音便等、特ニ掲出スベキコトナシ。唯、各語ニ差異アルノミ。而シテ、是等ハ、語彙ノ部ニ出セリ。

第二 言語

老人小兒、及び、婦人間ニハ、一種ノ言語アリテ、其ノ社會ニ行ハルレドモ、他ノ社會ニハ、行ハレザルモノアリ。サレドモ、此等特別ノ言語ニ對シテハ、特ニ、論述スルコトナサズ。以下、一般社會ニ通用セラル、言語ニ就キテ、之チ論ズ。

一、名詞

特ニ掲出シテ、論ズベキコトナシ。

- 二、代名詞
- 一、人代名詞
- 自稱
- 貴人ニ對シテハ、わだぐし、
- 中稱、卑稱ニハ、おれ、おら、(おらハ、元、おれわト云フ複語ナレドモ、全ク、おれト云フ單語ト、同意ニ用フ)。
- 我輩、又ハ、我等ガ身分ナド云フ意ノ自稱ハ、おねら、(おねらノ轉)、おらづれ、(已等連ナリ)こちと(此方人ナリ)ト云フ。
- 對稱
- 尊稱ニハ、おまね、(御前)おまね様、複數ニハ、共ニ、下ニ、かだ又ハだぢチ添フ。

中稱ニハ、おまね、複數ニハ、前ニ同シ。

卑稱ニハ、われ、おみ、(御身) おま、(貴様)複數ニハ、われニラチ添へ、おみ、ままニハだぢチ添フ。

尚ホ一層、卑シメテハ、うぬ、(奴) やろお(野郎)ト云フ。複數ニハ、うぬだぢ、やろおめらト云フ。

夫ノ妻チ呼ブニ、こら又ハこれわト云フ語アレドモ、代名詞ニアラズシテ、注意チ與フル呼聲ナルチ以テ、今之チ省ク。

他稱

貴人ノ代名チ、貴人ノ前ニ云フニハ、あのかだ、あの先生、

貴人ノ代名チ、等輩ノ前ニ云フニハ、あのかだ、あの先生、あの人、

等輩、及ビ、等輩以下ノ代名ヲ、貴人ノ前ニ云フニハ、あれ、
 妻ノ、夫ノ代名ヲ云フニハ、うぢ、おらわどと、
 (己の所ナリ)
 中稱ニハ、あれ、あはづ、女は、あのひとト云フ。現在ノ人ヲ指シテハ、このかだ、この先生、女ハ、女又ハ男ヲ指シテ、このこ、(此の御ナリ)ト云フ。
 卑稱ニハ、あなはろお、(彼の野野ナリ)こなはろお、そなはろお、(其の野郎ナリ)ト云フ。
 不定稱
 貴人ニハ、どなた様、
 中稱ニハ、だれ、
 卑稱ニハ、どれ、どなた、どなたはろお、
 二、指示代名詞 左に表示す、

右ノ表中、かゝる、さゝる、あはづノ三語ノ下ニ、くらゐ(位)ト云フ語ヲ加へ、之ヲ連約シテ、かゝるがゝるな物、(かゝる位な物ノ連約) さゝるがゝるな物、あゝるがゝるなのナド云ヒテ、極メテ、悪シザマニ云フ時、用フルナリ。
 又、右ノ表ニ掲ゲタル外、地位ノ遠稱ニ、あの邊、不定稱ニ、どの邊ノ語ヲ用フルコトアリ。又、地位ノ中稱を云フ、そぞら又そぞらト云ヒ、不定稱を云フ、どぞら、又ハ、どぞらトモ云フ。思

方	地	事	近
角	位	物	稱
こ	こ	か	こ
ち	ち	は	ち
そ	そ	は	そ
つ	つ	は	つ
ち	ち	は	ち
あ	あ	は	あ
つ	つ	は	つ
ち	ち	は	ち
ど	ど	は	ど
つ	つ	は	つ
ち	ち	は	ち

フニ、コノそを云フ、そを云フト云ヒ、とを云フ、とを云フト云フハ、古語ニ、底ヲそこひ(そこひなき淵やはさわぐト云ヘルガ如シ)ト云ヘルト同例ナリ。
 三、數詞
 ふたつ、みつ、よつ、むつ、やつ、以上、五ツノ數詞ヲバ、促メテ、ふたつ、みつ、よつ、やつ、むつ、むつ、やつト云フ。ひとつモ、ひとつつ、促メテ云フ場合アレドモ、數詞ニハアラズシテ、副詞ニ用ヒラレ、ひとつつも無ナド云フナリ。他ニハ、云フベキ程ノ事モナシ。
 四、動詞
 動詞ノ活用、正格變格ノ二種アリ。而シテ、正格活用ニハ、四段、上一段、下一段ノ三種アリ。變格ニハ、加行ノ一種アルノミ。左ニ、之ヲ表示ス。
 一、四段活用

上圖ノ如ク、四段ノ形態ヲ存スレドモ、第二段ハ、佐行ヲ除外ハ、皆ナ、其ノ音變ジタリ。波行ハ、清音活用ト、濁音活用トニヨリテ、音ノ變化ニ差異アリ。濁音活用ハ、皆ナ之ニ準ズ。例ヘバ、飛ぶ、遊ぶナドノ如シ。
 名詞法ノ時ハ、各行、音ヲ變化スルコトナシ。

降	住	學	逢	死	立	押	咲	第一
ら	ま	ば	は	な	た	さ	か	不定
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	用法
つ	ん	ん	ん	ん	つ	し	は	中止
る	む	ぶ	ぶ	ぬ	つ	す	く	名詞
る	む	ぶ	ぶ	ぬ	つ	す	く	終止
れ	め	べ	べ	ね	て	せ	け	連體
れ	め	べ	べ	ね	て	せ	け	假定
								命令
								法

ばト云ヒ、第二段來たりハ、爲來たりト云ヒ、第三段來たりハ、承知シタリト云フ場合ニ、よし來たりト云ヒ、來たるト云フ語ハ缺ケ、來たれト云フ已然法ハ、下ニ、ばノ接續詞ヲ添ヘテ、往つて來たればト云フ、而シテ命令法ナシ。

動詞ノ活用ハ、右ニ擧ゲタルガ如ク、四段活用ニハ七種、上一段ニハ九種、下一段ニハ十種、變格ニハ一種、合セテ二十七種アリ。(來たらト云フ、轉用動詞ヲ除キテ)就中、最モ語數多キハ、四段動詞ニシテ、之ニ次グハ、下一段動詞ナリ。

命令法ハ、上一段活用ニハ、この變格活用ニハ、ハニテ添フルチ常トスレドモ、是レ下輩ニ對スル語ニシテ、尊長、及ビ、同輩ニ對シテハ、一種希望ノ語法アリ。左ノ如シ。

一、尊長ニ對シテハ、

(一)第二段連用法ニ、なほト云フ語ヲ付ケテ用フ。コノなほハ、なさね、なさねハ、なされノ轉)ノ、さチ略シタルモノナリ。

お書きなほ お立ちなほ、お讀みなほ、お見なほ、下りなほ、

(二)名詞ノ下ニハ、なほト云フ語ヲ付ケテ用フ。手習なほ、湯治なほ、掃除なほ、

斯様ニ云ヒテ、佐行上一段爲ニ、(一)ノ如ク、なほヲ付ケテ、手習しなほ、湯治しなほ、掃除しなほトハ、多クハ云ハズ。

(三)和行上一段居ニ、なほヲ付ケテ、おほなほトハ云ハズ。なチ、たトシテ、おほたほト云フ。(おほたほお出で有れノ轉ナリ)ハ、又來て下くださほノ意ニ用フ。

(四)良行下一段動詞呉れニモ、なほヲ付ケテ、呉れなほト云ハズ。是レ、呉れ無ほト混ズルヨリ、

云ヒ分クル必要上、下ほト云フ。下さほノ、さチ略シタルモノナリ。

下一段阿行佐行也行ニハ、コノ希望ノ語ナシ。

二、同輩ニ對シテハ、

(一)第二段連用法ニ、やほト云フ語ヲ付ケテ用フ。

コノやほハ、有れチ、やれト轉シ、再ビ、やほト轉ジタルモノナリ。是レ、在村ニテハ、市中ニテ、やほト云フ場合ニハ、やれト云フ所以ナリ。

押し	上ノ如ク、やほヲ付クルニ、お
お立ち	書きヨリお伸びニ至ル五語ハ、
お讀み	やほ 其ノ語尾、さ、し、ち、み、び
お伸び	ヨリ、やニ連ナル時、さ、や、し、
お見	や、ち、や、み、や、び、やト云フ
下り	拗音トナルヲ以テ、此ノ類ノ語

ハ、皆ナ拗音ニ云フナリ。即チ、おがぎやほ、おしやほ、おたぢやほ等ノ如シ。お見やほノ如キハ、おノ下ニ、んノ音ヲ加ヘテ、おんみやほト云フ。(お上りやほお上りノ意)ノ、がりチ、きト約メテ、おあさやほトシ、其ノさヤノ所チ、拗音ニ、おあさゝわほト云フガ如キハ、殊ニ甚シ。

是レ、米澤言語ノ、拗曲ナル所以ナリ。波行四段清音動詞、及ビ、良行下一段動詞ニハ其ノ語根ニ、直ナニ、やほヲ付ク。

お逢やほ、思やほ、お呉やほ、
(二)佐行上一段動詞爲、和行上一段動詞居ニ、やほヲ付ケテ、しやほ、おやほト云フハ、商人、在村間ニ限ル。市中ニテハ、しやほト云フベキチ、みさほ、(召されノ轉)おやほト云フベキチ、御座ほト云フ。

下一段阿行佐行ニハ、コノ希望ノ語ナシ。
三、同輩以下ニ對シテハ、

前ノ、第二段連用法ニ付ケタル、やれト云フ語
ナ、やりトシテ用フ。即チ、左ノ如シ。

書	押	立	爲	讀	居	見	下
き	し	ち	み	み	り	り	り
				やり			
		上ノ如ク、コレモ亦、書きヨリ		讀みニ至ル類ノ如キハ、皆ナ、			
		揚音ニ、かぎやり、おしやり等		ト云フ。居やり、見やり、下り			
		やりハ然ラズ。					

五、形容詞

形容詞ノ活用、左ノ如シ。

用活くし	用活く	
欲* 樂 嬉	高 善 寒	第一段 第二段 第三段 第四段 第五段
しく	く	不定法 連用法 終止法 連體法 假定法
しく	く	
①しい	①い	
②きしい	②い	
しいけれ	いけれ	

用例、左ノ如シ。

- 一、不定法 寒くわ、ま一つと、衣裳着ろ。
- 二、連用法 寒くて、こらねらんによね。
- 三、副詞法 寒く思ふ、嬉しく遊ぶ、
- 四、終止法、即チ、定言形容詞、ああ寒わ、ああ

嬉しい、普通通ニテ、よしあしだト云フコトチ、
よしあしだト云フ。

五、連體法、即チ、附屬形容詞、寒わ日た、嬉し
い事た、欲しい物た、

六、假定法、それでも善ければ、持つて往け、欲
しければ買わ、右ノ如ク、第一段ニ、ばト云フ
接續詞チ付ケタルト、同意ニ使用シ、唯、其ノ
語異ナルノミ。

稀ニ、文語ノ、良行變格動詞有リニ、轉用シテ用フ
ルコトアリ。然レドモ、唯其ノ不定法ノミ。
それでも善がらば、くれべわ、

六、助動詞

助動詞ヲ分類スル法、種々アリ。今先ヅ、其ノ所屬
ニ依リテ、分類スルコト、左ノ如シ。
第一段不定法ヲ受クルモノ、

能動	受動	使役	打消	
(一)	(二)	(三)	(四)	(五)
れ	られ	せ	らせ	なぐ
れ	られ	せ	らせ	なぐ
れる	られる	せる	らせる	なぬ
れる	られる	せる	らせる	なぬ
れれ	られれ	せれ	せられ	なけれ
		せ	せ	

第一段 第二段 第三段 第四段 第五段 第六段
不定法 連用法 終止法 連體法 假定法 命令法
（一）ト三トハ、四段活用動詞ヲ受ケ、（二）ト四ト
ハ、上下一段、及び、變格動詞ヲ受ク。但シ、
佐行上一段動詞シト、阿行下一段動詞トヨ
リハ受ケズ。（五）ハ、總ヘテノ動詞ヨリ受ク。
第二段連用法ヲ受クルモノ、段及び、法ノ
名ヲバ略ス。

過去	
(七)	(六)
だら	て
だ	て
だ①	
だ②	
だれ	

其ノ性質ニヨリテ、其ノ連續スル助動詞、各同ジカラズ。今、之ヲ左ニ舉グ。

第一式 式トハ、動詞ノ肯定否定ヲ現スチ云フ。肯定ノ場合ハ、文語ト同ジク、動詞直ニ之ヲ現シ、否定ノ場合ニハ、なほ、まじノ二ツヲ用フ。

第二、性 性トハ、動詞ノ作用ノ自他、及び、其ノ關係ヲ云フ。

一、能動 自ラ作用シ、又ハ、自ラ作用シ得ル義ヲ現ス。例ヘバ、讀む、書くト云ヘバ、自ラ作用スル意ヲ現シ、讀まれる、書かれる、下りられる、掛けられるト云ヘバ、自ラ、作用シ得ル意ヲ現スガ如シ。コノ自ラ、作用シ得ル義ヲ現ス助動詞ヲ、變動ノ助動詞ト稱セバ可ナランカ。コノ助動詞ノ名目ハ、前ニ舉ゲタレバ、之ヲ略ス。以下、皆同シ。

二、被動 他ニ作用セラル、義ヲ現ス。例ヘバ、讀まれた、書かれた、見られた、捨てられたト云フガ如シ。而シテ、四段活用動詞ハ、れ、他ハ皆、られヲ附ク。但シ、左行上一段シト、阿行下一段得トヨリハ、受ケザルコト、前ニ云ヘルガ如シ。爲られたト云フベキチ、されだト云フ。

三、役動 他ニ作用チナサシムル義ヲ現ス。例ヘバ、讀ませる、啼がせる、下りらせる、來らせるト云フガ如シ。而シテ、四段活用動詞ハ、せる、他ハ、らせるヲ附ク。シハ、前ノ如ク、させるト云フ。

四、被役動 他ニ役動セラル、義ヲ現ス。例ヘバ、讀ませられた、啼がせられた、下りらせられた、來らたられたト云フガ如シ。

第三、時 動詞ハ、現在ヲ除ク外、直チニ、時ヲ現スコトナク、必ズ、助動詞ヲ添フ。而シテ、時ニ

ハ、過去現在未來ノ三ツアルコト、文語ニ同ジトイヘドモ、其ノ語數、極メテ少シ。今、之ヲ、單純時ト複合時トノ、二種ニ區別ス。

單純時ノ助動詞、左ノ二ツノミナリ。

過去 た、 未來 べ、

複合時ニハ、完了過去、完了未來ノ二ツアリ。完了過去ニハ、動詞ヲ加ヘテ、之ヲ補フ。即チ、左ノ如シ。

完了過去 てあつた、てしまつた、たけ、
完了未來 たべ、

完了現在ノ助動詞無ケレバ、單純過去ノ助動詞ヲ付ケタル、動詞ノ上ニ、今ト云フ副詞ヲ添ヘ、又、下ニ、ばかりト云フ關係詞ヲ付ケテ、之ヲ補フ。

例ヘバ、「今往つた」、「來たばかりた」、「今讀んだばかりた」ト云フガ如シ。

右完了過去ノ、てあつたハ、文語ノたりけるニ當ル。即チ、東京に往つてあつた時ハ、文語ノ、東京に行きたりける時ト云フガ如ク、てしまつたハ、にき、にけり、てき、てけり、たりき、たりけりニ當ル。即チ、讀んでしまつたハ、右にき以下ノ、助動詞ヲ受ケタル、文語ニ同シ。たげノけハ、文語ノ過去ノ助動詞ナル、きノ變ジタルモノト覺シクテ、其ノ意、全く同ジク、使用ノ場合、亦同ジ。例ヘバ、文語ニ、見にき、見てき、見たりきト云フ場合ニハ、見だけト云フガ如シ。

第四、法 主格ノ、動作ノ有様ヲ現ス動詞ノ用法ヲ云フ。法ニ三種アリ。

一、直說法 今行ハル、動作、又ハ、行ハレ得ベ

キ動作ヲ、直説スル法ナリ。其ノ助動詞ハ、時ニ關スル助動詞ニ限ル。是ニ、時六ツアリ。

- (一) 現在 讀む、
 - (二) 完了現在 今讀んだ、
 - (三) 過去 讀んだ、
 - (四) 完了過去 讀んでしまつた、
 - (五) 未來 讀むべ、
 - (六) 完了未來 讀んだべ、(文語ノ、讀みたらん、讀みてんニ當ル。)
- 二、推量法 事物ヲ推量シテ言フ法ナリ。コノ助動詞ハ、時ト法トニ、關スルモノヲ併用ス。
- (一) 現在 讀んで居だべ、
 - (二) 過去 讀んだべ、(文語ノ、讀みけん、讀みしならんニ當ル。)
 - (三) 完了過去 讀んでしまつたべ、讀んでしま

つたらし、
(四) 未來 今から讀むべ、
三、約束及ビ假設法 事ノ實行ヲ、假定スル法ナリ。

- (一) 現在 雨の降れば、 湯治すれば、
雨の降つても、 湯治しても、
- (二) 完了現在 雨の降つたらば、湯治したらば、
雨の降つたても、湯治したても、
- (三) 過去 雨の降つたがら、湯治したがら、
雨の降つた程に、湯治した程に、
- (四) 完了過去 雨の降つてあつたがら、
湯治してあつたがら、
雨の降つてあつた程に、
湯治してあつた程に、

雨の降つてあつたげんても、
湯治してあつたげんても、
右のげんてもハ、けれどもノ轉訛ナリ。

七、副詞

動詞、形容詞、助動詞ノ使用、不十分ナル所ニテハ、自ラ、多ク副詞ヲ用ヒテ、其ノ意ヲ補足ス。其ノ副詞チ、多ク用フルニ從ヒ、又、其ノ多キ副詞チ、形容スルガ爲ニ、副詞ノ使用、愈、多キヲ加フル所以ナリ。

人情敦厚、風俗淳朴ナル所ニテハ、應對言語鄭重ナルガ故ニ、亦、副詞ノ使用多シトス。我郷、比較的、此ノ長短有ルガ故ニ、副詞ノ數、頗ル多シ。

副詞ニ、本來轉成ノ二ツアリ。

一、本來副詞

- (一) 自然ノ音聲形態ヲ象リタルモノ、

かさく、がさく、かんく、がんく、
ばたく、ばだく、ごやく、どやく、
かたんく、がだんく、さくらく、
ぎくらく、くたらく、ぐだらく、

此ノ種類、最モ多シ。

右ノ如ク、清濁相對スルトキ、清音ノ副詞ハ、小ニシテ輕ク、美麗ニシテ清潔ナルヲ表シ、濁音ノ方ハ、大ニシテ重ク、鈍澁ニシテ不潔ナルヲ表スナリ。

- (一) 詞ヨリ成レルモノ、

みんな、(皆) おおがた、(大方) そのうえ、(其上) あんまり、(餘) さつね、(嚴シ意ナリ。)

二、轉成副詞

- (一) 名詞ヨリ轉成セルモノ、

昨日、去年、ひひて、(日一日)

下ニ、にテ添ヘタルモノニハ、
てんべに、(上にノ意) どのけに、(最後にノ意)
はじに、(端にノ意)

右ノにテ、常ニ、さト云フ。即チ、左ノ如シ。
うしろさ置いだ、前さ來ね、上さ上げだ、下さ
置げノ如ク、場所を指示スルトキニ限ル。(仙臺
地方ノ、の爲にノ意ナル、運動さ來ね、遊びさ
來ねト云フ場合ニハ用ヒズ。)又、之ヲ促メテ、
ちヤト云フ。

こつちヤ、あつちヤ、そつちヤ、どつ
ちヤ、

(二) 代名詞ヨリ轉成セルモノ、

こつちヤ、あつちヤ、そつちヤ、どつ
ちヤ、そんぢや、そこぢや、あそぢや、あぢ
こぢ、そこぢこぢや、

(三) 數詞ヨリ轉成セルモノ、
わ一つち、(一ヲ促メタルナリ。第一ノ意。) わ
つべん、(一日ノ意。)

(四) 形容詞ヨリ轉成セルモノ、
ちつちヤ、(小さく) おつき、(大きく)
くつち、(若しくヲ轉訛シタルナリ。) 露ぼ
ぐ、しづがに、

(五) 動詞ヨリ轉成セルモノ、
あんまり、かわる、かわる、けして、(決してナリ。)
のべに、(常にノ意。) たづに、(立にノ意。)(わ
つつけ、(其ノ内にノ意。)(ねちりづげで、(押し
付けてノ意。)

(六) 漢語ヨリ轉成セルモノ、

さわく、(再々) ちよおと、(丁度) ちち、(無
地) 碌に、(わつばら) 一盃(わつばらに、こ

おきに、(豪氣に) けむきに、(形儀に) めつば

おに、(滅法に) 無差別に、 ぢよおして、(定し
て)

副詞中、下ニ、として、して、て、と、に、(なト云
フ場合アリ。)(さ等ノ助語、添ハルモノ多シ。

からつとして、すつかりとして、 さつぱりし
て、はつかりして、べつして、みしつて、
ぼろつて、わけで、はまつと、ゆるつと、
わざと、わつばらに、たつけに、ふたんに、
わつかな、(一向にノ轉ナリ。)
前さ、後さ、どつちや、こつちや、

八、關係詞

語ノ中間ニ在リテ、兩語ヲ連絡シ、種々ノ關係ヲ現
ス語ナリ。而シテ、助動詞ハ、活用シテ、動詞、又
ハ、助動詞ヲ助ケ、時法等ヲ現セドモ、關係詞ニハ、

ソノ作用ナシ。之ヲ、左ノ四種ニ區別ス。

一、接續詞 語句ヲ接續スルモノニシテ、動詞、形
容詞、助動詞ノ下ニ、添ヘテ用フ。

接續詞ニ、一語ヲ成セルモノト、然ラザルモノト
アリ。左ノ如シ。

(一) 一語ヲ成セルモノ、

又、そんぢやあ、(それではノ意。)(其のうえ、
一體、とおと、今一つ、おまつと、(もつと
ノ意。)(その次に、そおして、(おそなたがら、若
しか、(若しくはノ約) そんたら、そんたげん
ても、そたげんても、そおてなげれば、そてな
ければ、なじ、わたちうに、なんてそたちうに、
そおしてらちうに、なんのためたちうに、(おと
してらちうに、さりながら、しかしながら、中
ても、そればかりでなく、(そとて、そわづて、

かむづで、あむづで、事によると、それでも、
そんなら、

は、ば、ても、か、に、を、なから、がら、ど、
ども、ても、

(二) 一語チナサ、ルモノ、

其ノ一語チナサザルモノ、接續ノ状、左ノ如シ。

段 一 上	用 活 段 四	第一 段
わ 落 爲 着 鑄	降 住 逢 死 立 押 書	
にちしきい	らまはなたさか	
	ば	
にちしきい	つりんみつひんにつちしねき	第二 段
ても なから	ても ても ても なから	
にちしきい	る む う ぬ つ す く	第三 段
たて ど	ども とも たて ど	
にちしきい	る む う ぬ つ す く	第四 段
にかわ	がら お に かわ	第五 段
にちしきい	れ め ね て せ け	
は	ば	

第二段ノなからハ、正音活用チ受ケ、てもハ、四段ノ奈行、末行ヨリハ受ケズ。其ノ代リニ、此ノ二行ヨリハ、てもト續クナリ。

第三段ノともノ、四段活用チ受クルハ、其ノ

形 動 轉 動 變 用 活 段 一 下 用 活	形 動 轉 動 變 用 活 段 一 下 用 活	形 動 轉 動 變 用 活 段 一 下 用 活
寒 來 ⁺ 來	塞 ⁺ 吳 ⁺ 消 ⁺ 嵌 ⁺ 備 ⁺ 跳 ⁺ 捨 ⁺ 困 ⁺ 掛 ⁺ 得 ⁺	居 ⁺ 下 ⁺ 見 ⁺ 伸 ⁺
く たら ころ	へれえめねてせけね	わりみび
く たり き	へれえめねてせけえ	わりみび
わ	ても なから	ども
ね たり くる	へれるめるねるてるせるけるねる	わりみるびる
ど	ども とも たて ど	ども とも
ね	へれるめるねるてるせるけるねる	わりみるびる
わ、か、	がら お に かわ	がら お
けれ たら	へれえめねてせけね	わりみび
は	ば	

ノ場合至テ少ク、死ぬども放されなむ、降るどもふんなねどもナド云フ類ナリ。

形容詞ノ第五段ニ、てもチ付クルトキハ、けれチ、げんと轉ッテ、寒にげんて

詞		動		助		詞容
ル受ク	第三段ナ	ル受ク	第二段ナ	ル受ク	第一段ナ	嬉
			だて だら	な ら せ ら れ	せ ら れ	しく
			だて	な ら せ ら れ	せ ら れ	しく
			てもわ			ても
らしぐ			だ	な ら せ ら れ	せ ら れ	しい
			どたど もて			たて ども
ましい	まね べね		だ	な ら せ ら れ	せ ら れ	しい
ども	ど		だ	な ら せ ら れ	せ ら れ	しい
			がら	が ら に か わ	か わ	に、お がら
			だれ			しけれ
			ば			ても

も、嬉しいげん
ても等ト云フ。
たてハ、とてノ
轉ナリ。

二、後置詞 名詞代名詞ノ下ニ添ハリテ、其ノ位置

ヲ現ス語ナリ。其ノ種類、左ノ如シ。

の、人の物、日本の國、

か、君か爲、雨か降る、コノかハ、其ノ父音ヲ略

シテ、母韻ノミヲ用フルコト多シ。雨あふる、
人あくる、花あ咲ぐ、鳥あ飛ぶ、おれあもの、
だれあ物、
を、書物を讀む、字を書ぐ、通常、此ノをヲ略シ

テ、上ノ語尾ノ、母韻ヲ引伸ベテ、代用ス。是
レ、言語ノ不明ヲ致ス所以ナリ。書物ヲ讀む、
字いかぐ、道いあるぐ、飯い食う、筆取る、
靴うはぐ、草あ刈る、池を堀る、衣裳お着る、
味噌お煮る、

に、兄に聞く、人に貸す、猫に取られた、野原に
なる、大層に、コノに、場所方角ヲ指示スルト
キニハ、例ノ如ク云フ。山を往く、とておわく、
そこをおげ、東京をわく、あつちをやる、コノ
をハ、古語ノ、さまハ、まヲ略シタルモノト思
ハル。さまトハ、其ノ方ヲ云フ語ナリ。宇治拾
遺物語、伴大納言、應天門をやく事ノ條ニ、應
天門をまに、走り行く。平治物語、待賢門の軍
ノ條ニ、能つ引ひて、追ひまに、管のかくる
る程、射込みたり。又、のけまに倒る。ナド

アルさまハ、皆、是レナリ。サレハ、山をわくハ、
山をまに行く、東京をわくハ、東京をまに行く
ノ意ニテ、文語ノヘニ似タリ。
普通語ニテ、のにト云フ場合ノ、文語ノにマ、
おうにト云フ。例ハ、
ぬきみだる、人こそあるらし、白玉の、まなく
も散るか、袖の狭きに、コノにマ、狭なうに
ト云ヒ、

庭のおもは、まだかはかぬに、夕立の、空さり
げなく、すめる月かな、コノにマ、かわがな
ぢうにト云フガ如シ。序ニ云フ。コノにハ、形
容詞助動詞ヲ受ケテ、種類異ナルガ如クナレド
モ、前ノハ、狭き袖の上に、後ノハ、かはかぬ
間にノ略語ニテ、全ク、コノにナリ。
コノにヨリ、文語ノ、良行變格動詞ノ、有リニ

轉用セシメテ、次ノ如ク、活用變化ス。

第一	第二	第三	第四	第五
なり	なり	なる	なれ	なれ

第一段ならハ、其ノ儘ニ、昨日な

らばよがつた、今日ならわるにナドト云ヒ、第二段ハ缺ケ、第三段ノなりハ、變ジテたト云フ。月た、花た、お前た、そおた、ナド、云ヒ、第四段ノなるハ、るヲ略シテ、單ニ、なト云ヒ、又 たトモ云フ。即チ、君な時あ、又、君た時あナド云ヒ、第五段なれハ、ならト同義ニ用フ。へ、そつちへ往け、あつちへ往け、コノちへ往メテ、ちやトシ、又、往け、ねチ續ケテ、ちやねトシ、けチ一ツ離シテ添へ、そつちへ往け、又、あつちやねけト云フ。コノへチ、斯様ニ促ムルコト、他ニハ、餘リ用例ナシ。

又、コノへチ、なト云フコト、前ノニ同シ。きて、東京まで往く、とまで往く、ナホ、ほどノ意ノ、までト、をもノ意ノ、までトアリ。ほどノ意ノまでハ、それまで言つても、聽かなむ時あ、をもノ意ノまでハ、それまで知らながつた、より、よりも、あれより外になれ、假字より外にわ、知らなれ、それよりもえね、山よりもおつさい波、から、がら、昨日から、もどから、とつちから、誰がら、それがら、東京がら、あそがら、見で(後)がら、逢つて(其の後)がら、故にノ意ノからハ、接續詞ナリ。ど、人と遊ぶ、花と鳥ど、

三、拔萃詞

は、春はえね、物はほしい、

コノはハ、常ニ、ホト云フ。春あえね、物あほし、

も、こどもも来た、秋もえね、あれもこれも、でも、今でもえね、われても往け、

接續詞ニモアレドモ、使用ノ場合、同ヅカラズ。

さへ、君さへよぐあ、あすさへ降れば、往さへすれば、くれさへすれば、コノ往き、くれ、共

ニ、動詞ヲ居名詞ニシタルモノナリ。

はがり、これはがり、君はがりた、

コノばがりチ促メテ、多クハ、ばつかりト云フ。

たげ、今日たげ、それたげ、

きり、これきり、今日きり、

右ノ、ばがり、たげ、きりノ三ツハ、殆ド、同ジ

キ場合ニ使用ス。

ぞ、これぞど、思おもものあなね、よぐぞ、こながつた、

こそ、これこそあ、善ねとおもつた、お前こそあ、知つてだべ、あねづこそあ、逃さんにはやね、

四、疑問詞

が、君が、雪が、誰が、そが、讀むが、爲るが、來るが、見られるが、見だが、見まねが、

五、反動詞

もんか、ものかノ意ナリ。讀むもんか、讀めるもんか、讀まれるもんか、善ね人なもんか、

べね、べねあの、あねづあ、何知つてべね、何知つてべねあの、

九、感歎詞

事物ニ感ジタルトキ、發スル聲音ヨリ成ル。其ノ基本トナルハ、左ノ八音ナリ。

んな事あ、有らうものかノ意、ト云フ。
依リテ思フニ、此ノシハ、ぬしノ、ぬチ略シタル
モノニテ、今尙ホ、此ノぬチ、奈行ノ各音ニ通ジ
テ、なし、ぬし、のし等ト云ヘルモノナリ。サレ
バ、前例ノシハ、悉ク、此ノぬしノ意ナリ。當テ
徹メテ、悟ルベシ。其ノ意ハ、一旦、語ヲ終止シ
テ、然ル後、ぬしト喚ビ懸クルモノナリ。コノぬ
シテ、あなたト換ヘテ見ルトキハ、一層、心得易
カルベシ。

十一、首辭

名詞、動詞、形容詞等ノ、語頭ニ接シテ、單語トナ
ル。

一、名詞ニ接シテ、尙ホ、名詞トナル例、

ぬげ、 ぬげつら、ぬげ根性、
ねり、 おそ懶巧、

こ、 こ理窟、こ懶巧、こ面倒、
こつ、 こつ大概、こつつぐだま、
す、 す顔、す足、す手、すあだま、
すつ、 すつつね、すつつばたが、
の、 のつら、
ま、 ま心、
まつ、 まつさがり、まつ北、まつくろ、
まん、 まん中、まん西、

二、動詞ニ接シテ、尙ホ、動詞トナル例
ねぢら、 おそらたまつてる、
ねり、 おそ煮ね、おそ寝、おそ覺ね、おそ漬り、
さらね、 さらねかもおな、
つん、 つんのめる、又、つんのめぐる、つんた
す、 つんぬげる、

三、形容詞ニ接シテ、尙ホ、形容詞トナル例、

ぬげ、 ぬげしめね、ぬげするね、ぬげすかなね、

ねり、 おそかしこね、

かがつ、 かがつばやね、

かいつ、 かいつばそね、

こ、 こしとめなね、

すつ、 すつばやね、

ずん、 ずん長ね、

ずんつこ、 ずんつこ短ね、

づ、 づぶどね、づ長ね、

つつ、 つつ高ね、

つる、 つる高ね、

ど、 ど黒ね、

どす、 どす黒ね、

十二、尾辭

語尾ニ接シテ、單語トナルモノ

一名詞トナル例、

かび、 出かび、取りかび、炊きかび、搗ぎかび、

かた、 お前かた、貴様かた、

きつかね、 途轍さつかねも無ね、たわねさつ

かねもなね、さつかね
ハ境ナリ。

しゆう、 若ねしゆう、家中しゆう、

たぢ、 お前たぢ、おらたぢ、

たらげ、 血だらげ、水だらげ、塗けニテ、ま之チ
みる事

轉マテ、ばかりノ意ニ用フ。草たらげ、鬚たら

けな顔、あがたらげ、

て、 食ねて、取ねて、答ヘン
約轉、

ども、 ものとも、ばがとも、

ほね、 火のほね、

ほね、 れちほね、しんほね、

み、 んまみ、にがみ、からみ、

めら、野郎めら、ばがめら、がぎめら、

二、動詞トナル例、

か、嬉しかる、面白かる、見だかる、
か、居やかる、爲やかる、けづかる、
食わかる、見やかる、之ノやかると云フ語源
ハ、考ヘ得ザレドモ、極メテ、賤メテ云フ語ナ
リ。

ほむ、黄ばむ、青ばむ、

めねだ、春めねだ、秋めねだ、

三、形容語トナル例、

だね、見だね、聞きだね、
づらね、居づらね、食わづらね、寝づらね、書
きづらね、
にぐら、居にぐら、食らにぐら、寝にぐら、書
きにぐら、

四、副詞トナル例、

かであら、遊びかであら、湯治かであら、
づつ、ひとりづつ、三つづつ、
なから、御馳走なから、御邪魔なから、思ひな
から、
なご、おれなど、菓子など、
ほご、見るほど、聞くほど、
やが、花やが、ときやが、
ら、平ら、

語典終

米澤言音考

内田慶三編纂

語彙

第一、名詞

一、天地神佛歳時場所ニ關スル語
あさげ。朝。朝明ノあサ脱ス。文語ニハ、朝食、又
ハ、朝飯ヲ炊ク意ナリ。『一に往ク』
あしたあさげ。明朝。あしたあさわけノ略。あさげ
ノあ音、亦將ニ、略セラレントス。『一に、しべ
おはあ』(明日ノ朝ニシヤウノ意。)
あたり。又、おらあたり。當町。わたしの町。君が
あたりト、歌ニ詠メルあたりニテ、近邊ノ意ナリ。
あご一つ。あま。日月神佛等ヲ、尊ビテ言フ童語。

吾親父様ノ義ナリ。サレバ、又、あどどまトモ
云フ。古語、吾チ、あトモわれトモ云ヘリ。『一
おかもす』(日月ナドヲ、拜ムコト)』
あらね。又、あらね雪。霰。れチ、ねト轉ヲタルナ
リ。
あわぶぐ。水ノ泡。『一あ浮ぎでだ』
ねりのうち。奥の家。入りノ方ノ家ノ意。
おつぎさま。月ノ童語ナリシナテンチ、今ハ、一般
ニ云フ。
おひさま。日。
おほごびさま。佛。

かべつち。粘土。壁ニ塗ルニ、適スルヨリ云ヘリ。
かたぢ。又、かたぢあめ。驟雨。夕立。雷立ノ、ん
チ脱ス。夕立ハ、雷鳴リ立チテ、降レハナリ。
かなこけり。氷柱。金氷ノ意。——あさかいつた」
かみさま。神。

ぞか。積雪ノ上ニ、櫛ヲ挽キナドシテ、極メテ、滑
ラカナル所。——あつねだ」ぎがく」ト云フ副詞
ハ、蓋シ、是ヨリ出ツ。

くさぶど。又くさぶどやら。草藪。

くぼたま。又、くぼみたま。又、くぼたみ。窪所。

窪撓ナリ。撓みチ、古言、たみト云フ。たまハ、

たみノ通音ナリ。——に水あ溜つた」

これど。場所。區域。耕土ノ意ナリ。仙臺地方ニテ

ハ、廣キ田野チ、耕土ト云ヒテ、志田郡ニ、大崎

耕土。栗原郡ニ、金成耕土ナド、稱スル所アリ。

「あの邊わ——あ廣に」

こんにや。今夜。

しか。氷。結束スルコトチ、しがふト云フ。夫木集
ノニニ、しがふべく、なりもゆくかな、きいすな
く、片野の御野の、萩の焼原トアリ。サレバ、水
ノ、寒氣ノ爲ニ、氷結セルニヨリテ、其ノ語根チ
取リテ、名詞トセルナリ。陸奥國ニテハ、しがま
ト云フ。——あはいつた」

しど。塵埃ノ立タヌヤウニ、道路ナドニ、撒ク水。

しとハ、古言小便ノコトナリ。今越後長岡ニテモ、

コノ語チ用フ。——うづ」

すしねど。末。末度ナリ。先月ノ——」

せんど。先日。先度ナリ。——あ御馳走になつて」

たび。他郷。吾ガ郷里以外チ總稱ス。——てあこお
しる」

つぢま。土上。ちべた。土間ノ意。家ノ中ノ、土ノ

間ナル時ハ、どまト云ヒテ別ツ。——に寢だ」

つんだし。衝當。衝出ノ撥音ナリ。人ノ物チ、突出

スヤウニ聞ユ。何町の——の店」

てんちぐ。又、ねでんちぐ。空。天竺ナリ。古ハ、

天竺國、即チ、今ノ印度ハ、天上ニ在リト思ヘリ。

てんみね。峯。天峯ナリ。

でろ。泥。どろノ轉。——あつねだ」

どど。所。こんとの——あわるね」今の——」

どつばづれ。端尾。はじ。外外レノ意。あの町の

——のうち」

どど。淀。水流チ、低ク支ヘテ、水ノ、其ノ上チ超

エテ、流レ落ツル場所。之チ作ルチ、かげるト云

フ。よとノ通韻ナリ。——かげる」

どでつばだ。土堤の端ナリ。

どたりす。通路。通筋ノ略。

なかしけ。霖雨。長濕ナリ。

なきれ。雪路ニ、櫛ヲ挽キテ、一方ノ、斜ニ傾キテ、

滑ラカナル道。斜切ナリ。

なて。雪類。なだれノ、たれノ約。てナリ。

なんまわく。禮拜ノ童語。佛ヲ拜ムトキ、南無阿

彌陀佛ト唱フマテ、小兒ノ、口ノ利カヌヨリ、な

んまわくト云ヘバ、直チニ、禮拜ノ童語ニ、用

ヒタルモノナリ。

はんげ。夕刻。夜。晩景ナリ。——になつた」

はらかた。原方。固有名詞ニシテ、市街ノ東南、田

舎ノ間ノ、一部落チ云フ。昔、市街ノ外、東南ニ

方ニ、多ク士族チ住居センム。其ノ風俗、全ク、

市街ニモ、田舎ニモアラデ、一種異様ナリ。サレ

ハ、コレヨリ、其ノ一區域ヲ、はらかだト云ヒ、其ノ人ヲ、はらかだ乗ト云フ。

びぢや。泥濘。ぬかるみ。びぢや〜スルヨリ云フ。

ひどあは。廂間。ひわはひ。變積間ノ轉ニシテ、物ト物トノ間、即チ、山ト山トノ間、又ハ、家ト家トノ間ナドノ、狭キ所ヲ云フ。

ひどろた。又、ひどろ。泥田。漬泥田ノ、ちどチ約シタルナリ。

ひのどぎ。日中。日ノ時ナリ。

ふぎ。吹雪。ぶノ音ヲ脱シタリ。

ほた。雪積リテ、途ナキ所。——こざぐ」
まあ。夜ノ童話。真闇ヨリ出ツ。——になつた」
まねど。昔。前度ナリ。

まま。又、まみ。岸。任、隨等ノ字ハ、其ノ有形ニ、

打任セ從フ意ニテ、古キモノニモ、「御隨身ばら、

涙を流して、塙のままに、伏しまるび」ナドモ見

ユレバ、海川形ノ隨ニ、水ノ流ルルハ、岸有ルガ爲

ナレバ、是ヨリ、岸ヲま、ト云ヒ、又、通音ニテ、

まみト云ヘルナルベジ。「まま積む」——石——

わ崩れだ」——あ高む」
みつあまし。洪水。水増ト云フベキヲ、水餘シト誤

レルナリ。餘シハ、他動詞ナレバ、不可ナリ。

ゆぎしる水。又、ゆぎしる。雪融水。雪汁水ノ轉ナリ。融後ニテモ、之ノ韻ヲ用フ。

ゆんべ。夜前。よんべノ轉ナリ。よべチ、よんべト云フコトハ、土佐日記ニ、舟子ノ歌ヒシ、欸乃歌ヲ載セテ、前よんべのうなむもがなト云ヘレバ、古昔ヨリアリ。

よながはつどぎ。夜更。夜中法度時ノ、と一ツチ

略シタルモノナルベシ。——、人のうちには、わく
あはるに、」

二人倫

ああふ。手水ノ童話。——しる」

あはまぢ。怪我。過ノ轉。——した」

あふしよ。嘘。其ノ聲ヨリ云フ。

あふし。盤坐。足座足ノ、らわノ二音ヲ、脱シタルモノナリ。

あごたね。悪口。惡對ナリ。——しる」——云ふ」

あはどり。餅ヲ搗ク時、白ノ傍ニ居テ、徒手コチ、白ノ中ナル餌ヲ、練リ廻ス業。聞取ナリ。

あねぎ。姉様。わねさん。姉様ノ、まチ脱ス。

あはげ。戯詠。あはけるト云フ 動詞ヨリ來ル。甘けるニテ、締リナク、戯ル、ナリ。

あぶらこ。假リニ、仲間ニ入ラレタルモノ。思フ

コ、油ノ、水ニ混ゼヌガ如キニ似タルヨリ、云フ

ナラン。信濃國松本邊ニチハ、鏡ナクシテ、人ノ買ヒタル酒ヲ飲ムチ、あぶら酒を飲むト云フ。其ノ意相似タリ。おれあ——た」

あんさ。兄様。あにさまノ轉。

あんだ。白痴。愚者。ばかノ意ナレドモ、語源不明。

或ハ、暗太、又ハ、暗多ノ字ヲ、用ヒタルモノアレドモ、恐ラクハ、當字ナラン。言海、わんだノ

條下ニ、板を編みて、架とし、竹を釣として、昇くもの、罪人、旅人、手負などを載す。篋輿。(古名編板の輿)ト見ユ。サレバ、或ハ、器物ノ名チ、

之ニ乗ル、罪人手負ニ、轉用シタルモノ、漸ク、語源ヲ忘レテ、當今ノ意ノ如ク、用フルニ至レルモノカ。

あやふしや。曖昧。あやふやト云フ。——な奴

た」

あんぱね。気分。安排ニテ、身體ノ加減。——のむるね」

あんじご。心配。案じ事ナリ。——しる」

いえもぢ。分家。家ヲ分ケ持テテ、一戸ヲナス。——にでだ。

ねさがね。争ひ。——しるな」

ねすかのねね。逆の方。反對の方。鴉ノ嘴ノ様ニ、

反スルヨリ、云フナルベシ。——お見でる」

ねだねび。可愛。小兒ノ、最モ、愛ラシキコト。痛

き氣ノ轉。痛きハ、心痛きニテ、愛スベク、悲ム

ベク、愛フベク、喜ブベキ、總ベテ、心ヲ動シ痛

マシムベキヲ云フ。此ハ、愛ラシクシテ、心痛キ

ナリ。——盛リ」

ねぢはんぼ。悪戯ノ首領トナリテ、腕白スルモノ。

又、傍若無人ノ舉動。一腕白ノ轉。——してゐる」

ねぢろね。一類ノ轉ニシテ、親族ノ事。

ねつくりかねつくり。彷徨。往つ繰り返つ繰り

ナリ。往キツ戻リツスルコトナリ。

ねどりやね。ねさがねニ同シ。

ねびだり。居浸。居ナガラ、兩便ニ塗ル、コト。

ねもつら。痘痕。あばた。痘痕面ニテ、文語ニモア

リ。

ねろさし。色合。顔色ヲ云フ。——わえね」

うぢべんけね。家ニ居ルトキノミ、勇氣アルモノ。

内辨慶ノ意。信州松本邊ニテハ、居辨慶ト云フ。

「——外味増」

ねがだ。妻。女房。御方ニテ、元來、貴人ノ妻女ノ

敬稱ナルヲ、轉ツテ、自他ノ妻女ヲ云ヒ、シカモ

賤稱ニ用フ。——の家元」うぢの——」

ねごりらん。又、ねごりつさま。奥様。おかみさん。

ねさねくらこ。おにごつこ。ツカマヘル事ヲ、方言、

おさへるト云フ。押へ競ナリ。

ねしたし。風采。押出ス權幕ノ意。——わの人わ、

わえね」

ねしやめ。女郎。娼妓。元來、綿羊ヲ、らしやめ

んと云ヒ、柔順ニテ、能ク飼養者ニ馴レテ、飼ヒ

易シ。依テ、轉ツテ、外妾ヲ呼ブ名トス。之ヨリ、

再轉シテ、娼妓ヲ云フコト、ナリ、同時ニ、其ノ

語サへ變ズルニ至ル。或人、男捨女ト書ケルハ、

全く、戯謔ノミ。

ねろびよれし。遅鈍。のろま。遅拍子ナリ。間拔

シテ、調子ノ遅キナリ。——な奴た」——て困る」

ねだぐきり。縮リモナク、盛ニ、戯謔ヲ云ヒテ、笑

ヒ興ズル事。たくハ、縮ル意ニテ、長キ物ヲ、引

寄スルヲ云フ。彼ノ、馬ノ手綱ヲ、掻イ繰ルコト

ヲ、たくト云フ。サレバ、縮リヲ切リテ、笑ヒ興

ズルコト、馬ノ手綱ヲ切リテ、狼藉セシムルガ如

キニヨリテ、云ヘリ。——ばがり、してゐる、」

ねだぢ。勸食。飲食ヲ饗應シテ、客ノ足レリト云フ

ニ係ラズ、尙ホ、切ニ、之ヲ勸ムルコト。コノ語、

達てト云フ副詞ノ、てヲ略シテ、用ヒタルモノナ

リ。達てハ、強ひて、押してナドノ意ナリ。餅の

——しる」

ねちさま。又、ねつさま。又、ねんつあま。おちよ

ん。年長ノ男子ヲ呼ブ語。

ねちばね。伯叔父。はねハ、物ノ端ヲ云フ尾辭ナリ。

サレバ、末ノ伯叔父ノ意ナリ。ねハ、添へタル語

ニテ、おち尾ナリ。尾ヲ、ばト云フコトハ、尻尾

目尾等ノ如シ。

おぢさん。祖父。おぢいさん。

おぢやん。茶ヲ以テ、人ヲ振舞フコト。

おつか。おかみさんト云フ程ノ意。老女ナドヲ呼

フ賤稱。「いなわが」田舎ニテハ、母ヲ呼ブ語。

おつかうづがね。心配。心遣。「——になつて」

——して来た。つて」

おつしよね。先生。師匠。藝道ノ師匠ニ限ラズ、

學校ノ教師ニモ、一般ニ云ヘリシガ、近來ハ、概

ネ、先生ト云フニ至ル。

おつち。睡。おしチ促メテ、云ヘルナリ。

おつぼね。又、おつぼ。押類。類ヲ觸レ合スルコ

ト。おしほはち、促メタルナリ。「——した」

おでらさま。僧。ばうさん。又、おしよおさまト云

フ。

おでんくるま。かたぐるま。人ヲ肩ニ乗セ、其ノ

兩足ヲ、肩ニ懸ケ、兩手ヲ以テ、額ヲ支持セシムル態。御手車ナリ。

おどげ。洒落。短歌ノ秀歌ノ如ク、時ニ應ズル、面

白キ詞。方言、しやれトハ、衣服ヲ着飾ルコトニ

ノミ用フ。又、どおげトモ云フ。「——云う人た」

おどごきれ。男切ニテ、男ノ片割ナド、云フ程ノ意

ナリ。「——あ、なれどこまるもんだ」

おどつつあま。又、おどつつおん。又、おど、

おらん。父。おとつつおん。田舎ニテハ、おど

——つおト云フ。

おにへね。人ノ危ナムコトヲ、猥リニ、進ミ胃シテ

スル。「——しる」——な奴た」

おぼさ。伯叔母。小母様ノ轉。

おぼさま。御婆様ニシテ、年長ノ女ヲ呼ブ語

おぼんらん。祖母。又、おぼんさまト云フ。

おぢさん。又、おつき。又、おんつあ。伯叔父。小父

様ノ轉。

おびひろまね。帯ヲ締メズシテ、着物ノ前ヲ、開キ

置クコト。帶廣前ナリ。

おふるまね。御振舞事。小兒ノ、食物ヲ持寄り

テ、振舞ノ直似スル遊ビ。

おぼい。子供。

おぼさ。世慣レヌ人ヲ云フ語。「あれあ、また——

た」

おやちかが。兩親。「あそこの——あ、やがまし」

おらあぢ。又、おらぢ。我家。己内ノウチ脱ス。

おらあぢ。又、おらぢ。我家。己所ノ、ろチ脱

ス。

おぼね。疝氣ニテ、陰囊ノ脹大セルモノ。

おぼむし。蚊遣。蚊嫌ナリ。

かが。妻。「うちの——」あそこの——」

かがあ。又、かがさ。母。おつかさん。「うちの——」

かがね。構造。抱ヘノ濁音ナルベシ。「あの人あ、——

——あえね」

かがり。搦ヘ。身體ノ搦ヘ方。文語ニモ、コノ語ノ

リ。即チ、家ノ搦ヘチ、家のかがりト云フ。「仕事

おしるに、——あわるね」

かがり。手寄。手持。「——あなね」

かがり。厄介人。食客。寄食人ナリ。

かたぐ。亂暴。子供ノ亂暴。「——しんな」

かたひた。又、かさひた。瘡蓋。

かつきつき。手球突。

かつつあはぎ。掻浚ヒテ取ル。油斷ナク働ク。「あ

の人あ、——た」

かつびぎ。對々。恰匹ニテ、力相等シキコト。「あ

恭打め、——た」

かいつぶく。恰幅。——あえね」

かに。勘忍。見逃ス。許ス。——しろなわ」——さ
んに「やね」

かどどり。見送。人ノ歸ルチ、門迄見送ル。門送り

ノ、おチ脱ス。——に立づ」

かばづ。粗暴。我發カ。——な奴た」——にしんな」

かほ。穢多。

かほまち。穢多町。

がんかく。用意。準備。勘覺カ。——あひとね」

かんかり。金具師。職業ノ音ヨリ云フ。

がんにん。我慢。——しろ」

がんちよね。丈夫。堅固。岩盤。又ハ、頑丈ナド

ト、書ケルモノアリ。

からくぢ。空口ニテ、食事ノ添物トセズシテ、唯其

ノ物ノミ食フチ。——てくら」ト云フ。

からてぶり。空手振。人ヲ訪問スル時ナド、贈品ヲ

モ持タズ、空手ニテ行クコト。

まこほし。着方。こなすハ、動詞ニテ、ソレレハ處

置スルコトナリ、サレバ、着物ヲ着テ、都合ヨク

取扱フコト。——あえね」

ぎせづ。絶交。義絶ナリ。

まごころね。又、まごごね。假寝。かりね。着床寝

ナリ。

きび。氣味。——あゐるね」

きんか。鹽。

きんま。猛シキ氣象。氣の儘ノ轉ナルベシ。

ぎよねふう。風采。行風ナリ。——あえね」

くしね。妊娠。妊娠ハ、婦人ノ癖ナリト云フ、意ナ

ルベシ。辭書ニ、癖ハ、嗜好之病ト云ヘリ。又、當

然ナルコトナモ、癖ト云ヘリ。共ニ通ズ。

くつたぐ。屈託。心配。そがねに、——しんな」

くろねにん。くろおと。苦勞人ナリ。

けねぎ。様子。顔色。景氣ニテ、顔色、又ハ、野菜

ナドノ様子ヲ云ヒ、辨内侍日記ナル。鳥羽殿の御

所の、景氣のおもしろさ、ナド云フ、景色ノ義ニ

ハ用ヒズ。この頃わ、——おわるね」——のえね

茄子た」

けむぢちやり。手足顔ナドニ、毛ノ多キコト。毛

朧し「やらナリ。

びろく。へど。嘔吐スル音ヨリ云フ、童語。

こどわげ。譯。事譯ノ轉ナルベシ。——お話す」

こぢゆう。小心。小衷ニヤ。——な奴た」

こつぎ。骨相。恰好付ノ略。あねづあ、肺病——た」

こつこつぎ。小々搗ニテ、玄米ヲ、輪ナモ入レズ、

唯、ザクリ〜ト、搗クチ云フ。——して食ラ」

ごつつねね。又、ごつつね。御馳走。——にな

つて、お笑止た「つたし」

ごつたぐ。又、ごつた。寢テ騒グ。混託ノ意カ。

「——かねす」信州ニテハ、唯、騒グコトヲ、——

ト云フ。

ごつちやど。又、ごつちや。事ヲ掻キ立テ、面

例ニス。あねづあ、——返した」

こつべね。小癩。年不相應ニ小癩。故批ノ轉カ。

次ノこびモ、殆ド、同義ナリ。——な事しる」

——な餓鬼た」

こび。小癩。故批ナルベシ。——た事、ゆる奴た」

「——たおぼた」

ごびんごがめ。人ノ、言ヒ損ヒチ求メテ、咎ムルコ

ト。語尾の咎めノ轉ナリ。

こぼの。子煩惱。子供好。——な人た。

こまぢやどれ。又、こま一つぢやどれ。こまじやくれノコト。

こまつがね。用達。小間使ナリ。萬葉集卷六、山部赤人ガ、敏馬浦ヲ過グル時、詠メル長歌ニ、みけむかふ、あはぢの島に、たむかふ、みぬめの浦の、云々間使も、やらすて吾は、いけるともなしトアリテ、コノ間使チ、古義ニ、かなたこなたの間に、通ふ使の謂なり、ト釋ケリ。小間使ハ、コノ間使ニ、小ノ一字チ加ヘテ、仕事ノ微細ナルチ、云ヘルモノナリ。

こわつらし。無駄骨折。方言、疲勞セルコトヲ、こわねト云チ。つらしハ、酷シナリ。疲レテ、酷キナリ。そんな事おして、——た。こはしやど。御辭儀。挨拶。御會釋ナリ。

さ。様。さんノ略。之ノサチ、苗字ノ下ニ用ヒズシ

テ、名ノ下ニ付ク。「一郎——お花——」

さねがど。才覺。周旋。世話。「嫁の——した」

さべり。談話。口調。「あの人の——あ、おもしろね」

さまど。さま。様工ニヤ。「その——あまひとね」

さんたど。仕度。思フニ、此ノ如キ詞アルニアラズ。

仕度ノ任ノ音ノ、數詞ノ四ニ等シキヨリ、藏レニ、

一個チ減ジテ、三度ト云ヘルモノナルベシ。「逃げ

る——しる」

さむつらし。徒ラニ、寒キ目ニ會ヒテ、徒勞ナルコト。

しから。始末。しがらむト云フ動詞ノ語根チ、名詞

トセルナリ。「——にこまる」

きたれ。臆病。卑怯。仕儀垂ナリ。又、しびたれ

トモ云フ。

しこり。肉塊。痺。肉凝ノ略。肩に、——あゐる」

したでこた。始末。——に、なんなねはとある」

しつこぢ。後口。後口ノ促音ナリ。「——あ澁

ね」

しつこむつつ。心ニ滿タヌコトアリテ、子供ノ、

煩悶スルコト。「——かねす」

じんだら。蹂ミテ、狼藉ナルコト。蹂たらナルベシ。

「犬あ島に——にした」

じんで。順手ノ訛リニシテ、ついで、又ハ、道順ト

云フコト。「あつちさおねげ、——た」

しんのね。辛勞。辛惱ノ轉。御——なさつた物お、

頂戴して」

しやねこなし。無用ノ事チスルモノ。才子無しニ

ヤ。「あねづあ——た」

じよれろり。淨瑠璃。

しよれあね。又、しよれわね。性質。性合ナ

リ。

じやが。痘痕。あばだ。じやかくシタルヨリ云

フ。

しゆたぢ。衆達。人達。「あそこの——」

しゆらね。入費。集禮ニテ、定マリテ拂フベキ代金。

元祿頃ノ語。

しりらど。素人ノ轉ナリ。

しろもの。代物。總テ、金ニナルベキ料ノ物ナルチ、

若キ女ノ事チ云フ語トナル。昔、野蠻ノ世、誘拐

チ事トセルモノ、又ハ、無慈悲ノ親ナド、子女チ

賣リテ、金錢トナシタルヨリ云ヘリ。

ざねく。髪チ剃ル童語。

すねらべ。音無キ屁。

すび、手段。術ノ轉^ス、ゆう——しらなほ」
せげごん。精勤。主トシテ、農作物ヲ、勵ミ作ルヲ云フ。

せつかぐ。折角。氣の毒。た。た。御馳走になつて、
——てあつた」人の叱られる所お、見でると、
——で」

ろろろはなし。又、ひろくはなし。私語。密談。
ろんこし。反對。逆。外振^{ソトコソ}ノ轉カ。——な事ゆう」
「——の方、見でる」

ろんびん。變物。「あはづあ、——た」——な事ゆう」
だあさ。又、だだ。又、だつつあ。母。おつかさ
ん。下ノ二語ハ、田舎語。

だあさま。おつかさま。嫁聲ノ、姑ヲ呼ブ語。
たがなり。高聲。高鳴ナリ。「——かはず」
だだ。女房又ハ嫁。舅、夫ノ、妻嫁ヲ呼ブ語。

だだ。小兒ノ、クネリムツカルコト。地踏^{チマダ}踏^タチ、音
便ニ訛^ナリテ、ぢだんだト云ヒ。又、んチ去リテ、
ぢだだトシ、然ル後、だだト云フ。又、ぢだだト
モ云フ。——こねる」

だだづ。不始末。驕^ヒノ字チ、だつと訓マス。サレ
ド、方言、驕^ヒル意ニハ用ヒズ。唯、不始末ナルヲ
云フ。——なうちた」

たばごやすみ。職人、又ハ、勞働者ノ、午前十時頃
ニ、烟草チ喫シテ、小憩スルコト。
たばね。浪費。ひだづかひ。情耗ナリ。「——な事お
しるな」

だんち。又、だんちこ。小兒ノ、兩足ヲ出シテ、箕
居スルコト。小兒ノ坐スル副詞ニ、だんとト云フ
コトアリ。之ヨリ出ツ。

たんぼ。小兒ノ、物ヲ請フトキ。兩手ヲ重ヌルコト。

賜はれチ、音便ニ、たうばれト云フ。コノ音便、
ラチ、んト撥ネ、れチ省キタルナリ。「——しろ」

ちよちよ。小兒ノ、兩掌ヲ拍ツコト。「——しろ」
ちよぼくぢ。口吻ヲ伸シテ、先チ少シク開キタル
形。小兒ニ云フ。

ちよねて。慣手段。定手ナリ。「あはづの——だ」
づぐなし。不伎倆。盡無^{ツツ}ナリ。づぐハ、金づく、力
づくナド云フ、づくト同シ。即チ、有ル限リチ、
盡サヌヨリ云フ。

づぐもん。づぐ——ゆうな」
つつつぎほ。又、つつつごほ。蹲居。膝チ前ニ屈
シ、臀部チ、踵ノ上ニ、載セテ居レコト。突衝^{ツツツ}坊^{バウ}
ナリ。「——しろ」

つつつご。坐シタル儘、前ニ伏ス、突俯^{ツツツ}ナリ。「——
しろ」

づごね。不注意。「——て困る」——な奴」
づぐくぐり。全ク、水中ニ潜リ込ム。づぐハ、づぐ
濡れノづぐト同マク、全キ意ナリ。

づぶぬれ。ひたぬれ。
つらたし。訪問。面出ナリ。「——して來た」
てはす。亭主。家ノ主人、及ビ、夫。

でねつ。出入。家ノ出入ノ客足。出通^{デツ}ナルベシ。又、
でねつらトモ云フ。「あそこのらぢあ、——あ多ね」
てどらかり。又、てどらかね。燈火チ、事チスル手
ノ方ニ置キテ、光チ受クルコト。手暗明^{テクラアケ}ノ略ナリ。

てご。職工。手子ナリ。「あそこの——」
てごこ。手當。又、手入。主トシテ、農作物ヲ作ル
ニ云フ。手許^{テサ}多ナルベシ。こごハ、こごらトモ云
ヒテ、許多ノ意ニ用ヒシ、古語ナリ。「——あえね」

てつご。年ニ似合ハヌ巧者。手子ノ促音ナルベシ。

手巧カトモ思ヒタレド、然ラズ。

ていつつ。手段。手附ノ轉ナルベシ。「あの——て、やられる」

ていつび。仕損シツコトひ。碁將棋ヲスルトキ、一旦置キテ、

之ヲ改ムルトキナド云フ。手引テヒキノ轉ナルベシ。

てびびび。手うるさね。てそづらしニ同ジ。出スマ

ジキ所ニ、妄リニ、手ヲ出スコト。てびハ、手非

ニテ、かびハ、唯添ヘクルノミ。——て困る」

てぼいつこ。片手不具ナル者。

てぼるかね。持テル物ヲ奪ラレテ、徒手トナレルコ

ト。てぼるかひノ轉ニテ、かひノ約音ハ、さナリ。

サレバ、手ぼろきナリ。ほろくとハ、揺ブルコト

ニテ、即チ、徒手ヲ振ル意ナリ。——になつた」

てまどり。人足。手間取ナリ。

てんか。癩病カシカン。「かぎ」

てんつ。又、てんぼ。虚言。天地ノ轉カ。虚言ハ、

天地ヲ顛倒スルモノナレバ、元ハ、天地を云ふト

云フコトニテ、反對ノコトナルチ、即チ、虚言チ、

斯ク言ヘルモノカ。

てやね。仲間。手合ナリ。手ハ、誰ノ手ノ人足、又

ハ、彼ノ手ノ雇人、ナド云フトキノ手ニテ、あひ

ハ、合、又ハ、間ニテ、仲間ナリ。「あの——にあ

つた」

てやねさしやね。應對振オウゴウビン。出會差會デサイカイニテ、差モ、出

ツルコトナリ。即チさし潮ナドノ如シ。サレバ、

出デ、人ニ應對スルコトナリ。「あそこの娘あ、

——あえね」

どれす。癩病。他ノ地方ニ、どすト云フ所アルチ以

テ思フニ、どす黒く穢きヨリ云フカ。

としよれり。年寄。「うちの——」

どいつかね。取返ナリ。「わ、つかね」

どいつばつじこ。過事。取外事トクゴトノ促音。「たがら、

しかたね」

どど。父。おとつつ。あん。爺ノ轉。

どびあがり。氣象輕躁ニテ、熟慮ナク、事ヲスルモ

ノ。飛上リナリ。

どひよれし。折悪シク、不都合ナルコト。樂器、

銅鈸ドビヤウ子チ、どひやうしト、清ミテ言フニ起ル。此

ノ樂器ハ、直鎗ニテ作り、他ノ樂器ト合奏スルニ、

其ノ聲高ク聞エテ、拍子ハヤシ、調ハエガ如キヨリ云フ。

どれせばんばん。小兒ノ、道ヲ塞ギテ、遊ブ遊戲。

通セ番々ナリ。

どまよね。途迷。寢惚ネボレテ、方向ヲ迷ヒ失フコト。

どんたく。登樓。蘭語ニテ、日曜日、休日チ云フ語

ナルチ、貸座敷ニ登樓スルコトニ用フ。

ながらなまじ。中間カクテナマ。よい加減。「な事ゆう」

なんかんもの。手ニ餘ル亂暴者ニシテ、難奸者ナル

ベシ。

なんくしね。非難ヒナン。難辯ナンベンナリ。「ゆう」

なんご。小石。銀杏ナドヲ擲ミテ、人ニ、其ノ數ナ

當テシムル遊戲。和漢三才圖會、嬉戯部ニ、擲石

ト云フ遊戲見ユ。文ニ曰ハク、按擲石、兒女取ニ碁

石十有餘、撒之、擲ニ於空、未レ墜中、與ニ所レ撒石

二三個、同擲ニ合之、其餘如レ之拾盡爲勝。夫木、石

などの、玉のおち来る、程なきに、過ぐる月日

は、替りやはする、西行、ト見ユ。サレバ、コノ

石なごノ名ハ、變ジテ、コノ遊戲ニ残り、石なご

ノ業ハ、がいつさつぎニ轉レリ。

なんども。人ノ歸ルチ送ル時云フ。何トモ有リ難ウ

ノ略。なんともはトモ云フ。

なんび。批難。「云う」
 なれこ。習慣。慣れ子ナリ。「になつてる」
 なれしぎ。習慣。なれこニ同マ。慣式ナリ。「に
 なる」
 にししやん。二思案ナリ。考ノ定ヲモト。「また
 した」
 にぢや。どつちつかず。「なごどゆう」
 ぬがつた事。手怪りの事。「した」
 ぬがり。怪り。手落。
 ぬすびど。又、ぬすど。盜賊。「おこねだ」
 ぬすみ。窃盗する。「した」
 ぬねづぼ。又、ぬねづ。小兒ノ、食指ヲ以テ、他ノ
 一方ノ、手掌ヲ指ス所作。手ノ盡ノ轉ナリ、
 ぬむかげ。假寐。居睡。睡態ノ略ナリ。
 ねんね。眠るノ童語。

のちこみ。すき見。覗込ノ、きチ脱ス。「かける」
 はきり。はぎしり。齒軋ノ略。
 はしん。裁縫。「お——」仕事「裁縫スル若キ女
 子チ」子ト云フ。
 はらん。修繕。破拵ト書ケルモノアリ。コレニテハ、
 破レテ拵フト見エズ。破リ拵フナリ。由テ思フ
 ニ、補拵ノ轉ナラン。
 はぢ。罰。學校ナドニテ、兒童ヲ戒罰スルチバ、ば
 ウト云フ。神佛ノ罰チ、ト云フ。「あ當る」
 はつかく。おしまひ。此レ限リニテ、外ニナシ
 ト云フ童語。こればかりくナ、略シタルモノナ
 ルヘシ。
 はつこ。糞ノ童語。
 はつこね。横領する。跋扈ノ轉カ。又ハ、暴行ノ
 轉カ。「しる」

はつちこ。又、ははつち。未子子ノ、シテ促メテ、
 ちトセルナリ。
 はつちや。伯叔母。末女ノ轉カ。
 はつちやわせ。鉢合。頭ト頭トチ、觸レ合ハスル
 ナリ。「した」
 はば。祖母。又ハ、老嫗。「となりの」
 はばさま。祖母。又ハ、老嫗。
 はんてかわり。順替。番轉替ナリ。羽陽叢書ニ見ユ。
 はんぼ。密賣婦。晚婦。又ハ、販婦ノ轉カ。
 はらだ。虚言。
 ひかだ。火ニ當リテ、皮膚ニ生ズル斑點。火形ナリ。
 ひどこ。人ノ缺片ト云フ程ノ意。「あひとり、ね
 ない」
 ひどろこ。唯一人。「になつた」てわつた」
 びつこ。跛。ちんば。

びつこなき。又、びつこなご。片足ニテ、跳チ歩
 クコト。
 ひつつり。火傷。火傷者「わの」
 ひつらひつぱり。いさかひ。引磨引張ナリ。又、
 ひつらひつぱりトモズ。「しんな」
 ひどてり。出はひり。人出入ノ略。「の、お、ね
 うちた」
 ひなだぼどり。ひなだぼごり。負喧。信州地方ニテ
 ハ、ひなたぼつこト云フ。
 ひまさね。ひまつ衣。隙塞ニテ、土佐日記ニ、も
 し海邊にて、詠ま、しかば、波立ちさへて、入れ
 ずもあらなんトアル、さへハ、即チ、塞ルナリ。
 「た」在村ニテハ、ひまたれト云フ。
 びんかね。便宜。調子。即チ、びんきノ延音。「
 あわるね」

ぶぎつちよれ。無愛想。佛頂ノ轉ニシテ、アムク

ト怒リテ、膨ラス顔ヲ、佛頂面ト云フ。サレバ、極メテ、不愛想ナルヲ云フ。——「な奴た」

ふてがし。醜惡。不器量。不出シナリ。——「な、おなこた」

ふてき。自棄。やけ。棄氣ナリ。文語ニテ、すてチ、ふてトモ云フ。

ふべん。貧窮。びんぼう。不便ナリ。——「なうぢた」

ぶま。不幸。間ノ悪クテ、不幸ニ逢ヒタル意ナリ。「今年あ、——「な年た」——なごどばがりある」

ぶんぬげ。痴鈍。倅リノ多キモノ。踏怪ナリ。貴様わ——「た」

ぶよく。火ノ童語。又、ぶよくト云フ。燃ユル様ヨリ、云ヒシナルベシ。——「あ、もねる」——

つける「燈火ヲ點ズルコト」

べろ。泣カントスル顔。めそ〜ト云フ泣ク副詞ノ轉。「——「つぐる」——「つら」——「くぢ」

べつちや。噤舌。べちや〜ト云フ噤舌ル副詞ヨリ出ツ。

べんちやら。輕薄ニ、心ニモアラヌ事チ、良キヤウニ云フ者。あはつあ、——「た」

へんなし。徒事。ツマラヌ事。又、——「しるツ」

へんぼれがらし。報復。しかへし。——「した」

へらす。不滅。入ラヌ口チ、タ、クコト。——「ゆうな」

はねご。乞食。布衣人ノ轉ニヤ。

ぼれがしら。人足頭。棒頭ナルベシ。

ぼれさ。ぼつちやん。坊様ノ略。

ぼれたね。ほうだいノ轉ニテ、本態ノ音便ナリ。ん

チ、ラト云フコト、柑子。勘事チ、かうヒト云ヒ。巫チ、かうなぎト云フが如シ。酒ニ酔ヒ、又ハ、睡リ居テ、本性ナキコト。——「さつぱり、——「わ、ながつた」

はつこかぶり。又、はつこねちり。頬甲被。又、頬甲振ナリ。手拭チ被リ、頬ニテ丸メ合スナリ。

はつびぎ。人数ダケ、長サ二尺四五寸位ノ、麻綱ヲ纏メ握リ、其ノ中、一本ノ端ニ、とつふト稱スル

鍾多クハ、寛永通寶。——「ナ着ケ、各、之チ引キ取リテ、どつふアル綱ニ、中レルチ勝トシ、賭物ナドチ取

ル遊戯。福引ノ促音ナリ。

ぼでふり。又、ぼでかぎ。ぼでチ昇ク人。ぼでハ、名詞器具ノ部ニアリ。

ぼんくら。ぼんやり。あはつあ、——「た」

はんまぢ。臍線。仕事ノ傍、私物トシテ、領スルコ

ト。——「金」かはつあ、——「た」

まねす。賄賂。諂諛。まねハ、まひノ轉。賄賂ノま

ひニテ、玉鋒の、道の神だち、まひはせんと云ヒ、まひなしに、ただ名ゆるべき、花の名なれやナド

云フまひハ、即チ、是レナリ。すハ、事ノ轉首ニ

ハアラマカ。ヒチサト云フハ、好事ノ例ノ如シ。即チ、まひすハ、賄賂ノ意カ。——「こぎ」お——

に、此々の事をした」

まつば。裸体。丸裸ノ略ニテ、童語。

までね。眞鄭ニテ、眞面目ニ、鄭重ナリ。——「な人た」

ままなぎ。吃。古言ニテリ。間々啼ノ意。

まめぞれ。口モ手モ、ウルサキ程、まめナルモノ。ぞおハ、男ノ名ノ下ニ、多ク用フルヨリ、意味ナク、付ケタルモノナルベシ。

まるぬぎ。酷似。容顔ノ、ソツクリ、其ノ儼ナルコト。おやぢに、——た」

みしめ。可愛そら。ムゴヲシク、氣ノ毒ニテ、見ルニ忍ビザルコト。——て、見でえらんに「やね」みよれしぎ。養子。苗跡ナリ。

みつあび。水泳。水浴ナリ。

むがさり。嫁娶。迎さリナリ。縁家ヨリ、迎ヘラルナリ。——あ、通る」——見にぬく」

むどり。轉用。外ヨリ贈ラレタルモノヲ、他ノ所ニ、贈ルコト。又、物ト物トヲ、交易スルコト。——にしる」

むしよれ。亂暴。無性ナリ。——な事を、しんなむつきらぼれ。無愛想ニテ、人付悪シキモノ。わねづわ——だ」

むでつか。手荒キモノ。無性ニ手荒キヨリ、轉セル

カ。

めつこ。眇。目子ニテ、子ハ、前ノ人ニナド云ヘル、コト同意ニテ、缺片ノ義ナリ。

めつた。婦女。賤メタル語ナリ。牝チ、めつちやト云フ所アルハ、牝者ノ轉音ナルベシ。コノめつちやチ、めつたト轉ジタルモノト覺ユ。猫犬ノ牝ニモ云フ。——犬」この猫あ、——た」

めつちや。眼病ニテ、眼ノクチヤクシタルモノ。めちやくちやシタルニヨリテ云フ。

めつぼ。目尻。目尾ノ促音ナリ。尻尾チ、しつばト云フニ同ジ。

めまし。瞬。目交ナリ。

めんご。かわゆき子。小兒チ慰ムルトキナド云フ。めご子ノ略ナリ。良き子ノ意ニモ用フ。めごしハ、古言めぐしト云フ。萬葉集、山上憶良ガ、令

反ニ感情「歌ニ、妻子見れば、めぐしらくしトアリ。方言中、形容詞ノ、めこね、又ハ、めんこねハ、即チ、此ノ古言、殘レルモノナリ。——盛じめ」——たなわ」

もねね。目がくらむ。曖昧ナリ。あまり忙しくて——しるよおた」

もんどら。物共等。この——、なにしる」

もんぼれ。老耄。老悖チ撥ネタルナリ。

むげつばだ。火傷。——した」

やびひつつり。前ノ、ひつつりをチ見ヨ。

やちがら。有ラン限リノ力。彌力ノ、イチ略ク。や重、や雲、や握穂ナドノやハ、皆、彌チ約メテ、云ヘルナリ。

やみあかり。病後。病揚リナリ。

ゆに。水煮。湯煎ナリ。

ゆうわり。夜業。よなべ。ゆふわりニテ、夕ニ、割リ宛テタル業ナリ。——しる」

ゆるねつら。馬鹿顔。油断。——してらぢに、奪られだ」

よね。互ニ、カチ貸シ合セテ、仕事チスル。與爲ノ轉カ。又、カチ通シチナスニヨリ、かよひノカチ、省ケルモノニモアラン。

よれせ。脆弱。弱勢ノ轉ナルベシ。——た」又、身體ナラデモ、物ノ弱キニモ云フ。

よるくぢ。よそご。外口ナリ。又、——たづし

よつたぐれ。よつばらひ。醉手線ナリ。

よびかり。よふかし。夜光リナリ。——の、朝寢チぎ」

よめぐら。盲鬼。夜目鏡ナリ。

よらりからり。ぶら／＼。よら／＼スル、形容ヨリ

云フ。——してゐる」

ろつぱん。争論。論判ノ促音ナリ。

わかさり。分家。分レテ、一家計ヲ立ツルコト。ハ

そごめ、誰の、——なそおた」

わどろり。小兒ノ、兩手ヲ、輪ノ如ク廻ス所作。輪

潜ナリ。

わしら。悪作。わるさノ轉ナリ。「——した」なに—

—しるッ」

三、動植物

あめふりばな。旋花。

うきこ。魚類ノ當歳子。浮子ナリ。

うらつぼね。梢頭。ハハ、添ヘタル語ニシテ、末穂

ナリ。又、しんばねトモ云フ。心穂ナリ。末生、

新生ノ轉カトモ思ハルレドモ、ナホ然ラズ。火焰

ノ尖端ヲ、ひのはねト云フハ、火ノ穂ニシテ、勢

ハ、息ノ穂ヨリ出デタリ。

ねなしび。稻ノ刈株。

ねばら。蓄微。文語ニ刺アル小木ヲ、らばら、又ハ、

らばらト云フ。即チ、コノ轉ナリ。

ねぎんましね。放熟。鹹瓜、又ハ、果實類ヲ、モギ

取り置キテ、熟セシムルコト、置熟セナリ。

ねごさま。蠶。御蠶様ナリ。

かねし。糞。兔糞ノ糞ノ如ク、乾燥セルモノニ限ル。

がねる。又、がねろこ。蛙子。蛙、又ハ、蛙子ノ轉

ナリ。

かけつびぎ。蕈。

かたたこ。片栗。

かなかな。蛸。

かなまぢよ。石龍子。

かぶづ。株。木ノ切株。株頭ナリ。

かまど。果實ノ核。梨の——」

かめのご。龜。大小ニ係ラズ云フ。

からいも。さしねもニ同シ。

きしねも。馬鈴薯。九州薯ノ轉。

くまぢぢ。又、くまぢぢ。春ニ至リテ、菜ノ宿根ヨ

リ、生ズル莖。摘ミテ食料トス。莖立ナリ。和名

抄ニ、唐韻云、莖、蔓青之苗也、和名、久々太知、俗

用莖立二字、三善爲康ガ童蒙頌韻ニモ、莖ト見ユ。

拾遺和歌集物名ニ、く、たち、山高み、花の色を

も、見るべきに、にく、たちぬる、春霞かなトア

リ。

ごしな。蒲公英。葉ヲ食物トスルトキノミノ稱。花

ヲ指シテハ、たんばゝの花ト云フ。

くばこ。桑ノ實。桑子ナリ。

こがす。蠶ノ糞。蠶屑ナリ。

こでべん。牡牛。健兒ヲ、こんでいと云フ。中間ノ

コトナリ。サレドモ、又、文字ノ如ク、壯丁ナド

云フコトニモ用フ。サレバ、凡テ、牡ト云フコト

ニモ、轉用セルモノナルベシ。即チ、健兒牛ノ轉

ナリ。方言、牛ヲ又、べでト云フ。

さどかぶ。灌木ナドノ、ザバ／＼シタル刈株。

ささき。隠元。隠元。及び、隠元ノ如キ、形ヲナシ

タル豆類ノ總稱。即チ、隠元豆ヲハ、白さ／＼ト

云ヒ、色赤キヲ、赤さ／＼ト云ヒ、他ニモ、種々

ノ名アリ。

しつば。又、しりば。尻尾ノ促音ナリ。

しんばね。梢頭。心穂ナリ。

すかりばぢ。又、すかり。螺藏。

りかれ。作物ナドノ、末方ニナリテ、景氣ノワロキ

品。晚枯ノ略。「にな——つた」——「胡瓜」

だらろく。又、だらろ。蝸牛。
 ちよれま。蝶。蝶舞ノ略カ。
 つぶ。田螺。粒々セル形状ヨリ、云フナルベシ。
 とれきみ。玉蜀黍。唐黍ナリ。
 とれねこ。子馬。當年子ナリ。
 とれび。又、とんび。鳶。
 とてこ。雞ノ童語。啼聲ヨリ云フ。
 ざんま。馬ノ童語。
 なんはん。唐辛。種子チ南蠻ヨリ得タレバ、云フト
 ズ。
 なめぐち。又、なめぐちら。又、なめぐちり。蛞蝓。
 にやく。猫ノ童語。啼聲ヨリ云フ。
 ねつこ。根。木ノ切株。根子ナリ。
 ねぶが。葱。根ニ、深ク土チ掛クレバ、美キ白根チ

生ズルヨリ、根深ト云フ。
 ねむどしり。根ト共ニ、倒ル、コト。
 はま。鮪。はや。はえ。
 ひつき。蛙。蟻ノ轉。
 ひよつこ。雛。
 びる。蛭。
 ひるこ。蒜。蒜子ナリ。
 へんぎむし。くさかめ。
 ひる。又、れひる。蠶蛾。かひこのてふ。蛾。轉。
 ひるトシ、又、中ノひチ略シタルナリ。
 べんご。牛。
 べつとれ。蛾。火取虫ノ類ニテ、夕顔ベツた
 ラト云フ出アリ。之チ以テ、蛾ノ總稱トセルモノ
 ナリ。
 ぼん。芽。萌ノ轉音ニテ、木ノ芽ノ、新ニ生シタル

モノチ云フ。漆の——「桜の——」
 ほだ。綿。薇ノ綿。穂綿ノ略。歳ニハ、綿ハナケレ
 ド、形ノ似タルヨリ、亦之チ云フ。
 ぼんぼ。柳絮。穂ノ尾ノ轉。「柳の——」
 まら。繭。
 まらみ。蛹。繭實ナリ。
 まさりたほど。煙草ノ莖ノ、傍生ノ葉チ以テ、製シ
 タル煙草ニテ、味臭シ。
 まつかさ。松毬。
 めいつへ。牛ノ童語。啼聲ヨリ云フ。
 めめ。虫ノ童語。
 もね。通草ノ芽。他ノ草木ノ芽ニハ、云ハズ。「——
 つみ」
 もねつ。芽。萌頭ニテ、大根、馬鈴薯ナドノ、暖氣
 ニ會ヒテ、出テタル芽。

もぐくさ。蓬。蓬ノ若葉チ摘ミテ、餅ニ搗キ交ズル
 ニヨリチ云フ。但シ、若葉ノ時ニ限リテ云フ。
 やばつまめ。矢筈豆。虫食ヒテ、矢筈形ニ、割レタ
 ル豆。
 やまのねち。又、やまのねんつ。猿ノ戯語。形ノ、
 人ニ似タルヨリ云フ。
 わわこ。又、わ。狗子ノ童語。吠聲ヨリ云フ。
 四、支體
 あごど。踵。
 ねもち。女ノ頭髮ノ油ニ、塵埃ノカ、リテ、固レル
 コト。結鬚ノ轉。「あつえだ」
 ねあこ。足ノ童語。御足子ナリ。
 ねこ。頭ノ童語。
 かいつくび。頭。小頭ノ轉。「まけで考ねる」
 かわらげ。婦人ノ陰部ニ、毛ナキモノ。廣島地方ニ

テハ、おちやめんト云ヒ、皆、陶器ニ縁アルヨリ
思へバ、其ノ滑ラカナルヲ以テ、云フカ。

がんと。又、がんだ。頭ノ暴言。

くげ。雲脂。

けつつ。尻。

どだね。足ノ暴言。

しわつたらねぎ。急促シタル氣息。——つねで走
る」

しねびつき。僂僂。脊低ノ促音。

しし。又、ししこ。小兒ノ陰莖。ししハ、節用大全

ニ、指似ト書ケリ。

じた。又、しつた。舌。

じつこ。小便。古言ニハ、しと云フ。之ヲ訛リタ
ルナリ。

しやづ。又、しやつら。又、ねげしやづ。顔ノ賤

辭。しやづハ、其奴ノ轉ナリ。しやつらハ、其

奴面ニシテ、重ナル、下ノつチ略セリ。今昔物

語ニ、しやつらは、猿に似て云々トアリ。平治物

語ニハ、しや首の骨、射て云々トアリ。ねげハ、

首辭。

たつべ。又、たん。又、たんべ。唾。痰ナリ。唾ト

區別ナシ。眞ノ痰チモ、亦、たんト云フ。

ちんげ。頸回ノ上部。後頭骨ノ尖頭。

ちんぼ。又、ちんぼこ。小兒ノ陰莖。

ちやんと。婦人ノ陰部。

ちよつかね。手。猫ノ前肢チモ云フ。——出した」

てつかり。めかニ同シ。

てつび。出額ノ略。

どんのごぼ。頸回。ぼんのかぼ。

なつぎ。あたま。腦ノ古言ナリ。

なり。身體。又服装チモ云フコトアリ。——あ、

おつちや「されねな、——して」

はなつばし。鼻尖。鼻端ナリ。

びいわね。口ノ兩端。——まける」

ひしよめぎ。又、ひよためぎ。顴門。ひよめさ。

ひちちり。臂。臂尻ナリ。

ひつ。頭。蛙鯨ナドノ頭蓋骨。透明ナルコト、氷ノ

如クニテ、脆ク柔ラカナリ。之ヲ氷頭ト云フ。刻

ミテ食フ。之ヲ混ジテ作レル胎チ、——なますト

云ヒ。汁チ、——汁ト云フ。コレヨリ、人ノ頭チ

モ、——ト云フ。「さかなねど、——おしてくれる

ぞ」

ふぐたげ。和毛。柔ラカニシテ、細小ナル毛。

顔面身體ナドニアルモノ。

べつちよた。又、べつちよ。婦人ノ陰部。思フニ、

前ニ云ヘル、牝者チ、めつちやト轉シ、めチ強

メテ、べつちやトシ、又、べつちよおナドト

轉シテ、其ノ陰部ノ名トセルナラン。

への。陰莖。

への。陰門。はほノ轉。ぼぼノ部ニ云ヘリ。

べろ。舌。籠ノ轉。

はつたご。頬。頬ノ促轉音。たぼハ、撓む、轉語

ナレバ、結髪、頬、又ハ、尻、股等ノ肉ノ、たわ

くシタル所チ、總ベテ、たふト云フ。

はつべた。はつたふニ同シ。

ぼぼ。陰門。はほノ轉。はハ、合ニテ、頬ハ、口内

物チ含ム所。臍ハ、臍ノ緒チ含ム所ナリ。古事記

ニ、みはと焼けて云々トアルはとハ、合所ニテ、

即チ、陰門ナリ。

まみやね。眉。文語ニテハ、目見合ニテ、目付工合

ナリ。即チ、目付ヲ云フ。サレド方言、専ラ、眉
ヲ云フ。

まら。陰莖。

めか。斜視。目變ノ略ナルベシ。

めつぼね。又、めつぼ。目尻。目尾ノ促轉。「あ、

さかいつてる」

ももたぶ。股。股懸ナリ。

五、家屋被服調度

あしながぞねり。又、あしたかぞねり。足半草履。

藁ヲ以テ、短ク作りタル草履ニシテ、漸ク、足ノ

半ニ達スルノミ。農夫、常ニ、之ヲ穿ク。

あでこ。腹當。木綿切ナドニテ、稜形ニ作り、左右

ノ兩端ニ、紐ヲ付ケ、小兒ノ胸腹部ニ、着用スル

モノ。當子ナリ。

うら。大便所。裡ナリ。又、こおがト云フ。後家ナ

リ。又、じゆらばト云フ。自由場ナリ。又、ちよ
おづばト云フ。手水場ナリ。

にしよ。着物。衣裳ナリ。

ねぎんちよる。不倒翁。起き長老ナリ。

ねぎる。又、ぶしよる。長火鉢。置爐ナリ。

ねりふぎ。藁ヲ以テ編ミ、雪中、寒氣ヲ防グ爲ニ、
草鞋ノ鼻緒ヲ通シテ、足ノ爪先ニ、懸クル具。

ねひなさま。又、ねひな。雛人形。

ねべ。着物ノ童語。

ねほげ。麻ナド、績ミテ入ル、張策ナリ。麻桶ノ

轉。

かびち。又、かびんち。掛物。掛地ナリ。

かしね。繰。拵ニテ、糸類ヲ繰卷キタル束。

あ、おつさし「から糸ひと」又、女ノ頭髮ノ

飾リトスル、布帛ノ切片。「かげだ」

がつき。お手玉。木綿切ナドニテ、圓形ノ小キ壘ヲ

作り、小豆ヲ入レテ、兒女ノ弄ブ具。

かた。木綿糸。縫方ニ用フル、糸ノミニ云フ。田舎

ニテハ、かんな。

からねど。絹糸。唐糸ニテ、絹織物ヲ縫フトキ、用

フル絹糸ナリ。

がらから。他ノ地方ニテハ、菓子製ノ玩弄物ヲ云フ。

我郷、之ト異ナリテ、焼付木ヲ撓メテ圓形トシ、

又ハ、六角ニ作り、之ニ、小石數粒ヲ入レテ、紙

ヲ張り、膠ニテ固メ、長サ三寸許リナル、竹ノ柄

ヲ着ケテ、笛トシタル玩具ナリ。之ヲ振レバ、小

石、紙又ハ木ニ觸レテ、がら／＼ト音スルナリ。

かろこね。杓。輕杓ノ轉。

きしり。薪入。木入ノ轉。

きびちよ。急須。急須ノ訛リ、きびしよノ轉。

どし。屋背。屋根ノ棟。「ゆね」

くど。竈。言海ニ、「曲突ノ音カ。竈ノ後ノ穿。烟出

シ。今訛リテ、直ニ、竈ノ稱トス。」ト見ユ。

くね。生垣。文語ニ、凡ベテ、紆曲セルチ、くねト

云フ。古今和歌集序中、をみなめしの、ひととき

をくねるトアルモ、くね／＼トスルヲ云フ。サレ

バ、コノ動詞チ、名詞トセルモノナリ。サレド、

方言ノ——ハ、必シモ、曲リタル生垣チノミ、云

フニハアラズ。曲レルモ、直キモ、生垣チハ、通

ジテシカ云フ。サレド、竹木葦等ニテ作レルチ

ハ、——ト云ハズシテ、かきト云フ。

くばから。鉄ノ柄。鉄柄ナリ。

けこや。小屋。嬰小屋ニテ、表屋ニ對ス。

こねすぎ。搔鋤ノ音便ニテ、柄ノ長キ、羽子板狀ノ

モノニシテ、板ヲ以テ作り、小兒ノ、雪ヲ弄ブ具。

こぼだ。凧。小旗ノ意カ。又、思フニ、紙旗ノ音便
ナラン。紙ヲ、かうト云フハ、紙屋川、紙屋ノ如
シ。ナホ、方言、かうよりチ、こよりト云フニテ
知ラル。

こまや。店前ニ、出シ掛ケテ作レル 軒下。昔、農
夫ナドハ馬ヲ牽キテ、物ヲ買ヒニ來ル時、其ノ馬
ヲ、繫キ置ク場所ナリシカバ、駒屋ト云ヘリキト
ゾ。越後ニテハ、がんぎト云フ。

こんぶごろ。錢囊。小囊ヲ、撥ネタルナリ。四中ノ、
小キ切片ヲ縫ヒ合セ、又ハ、毛糸ヲ以テ編ミテ、
口ヲ紐ニテ締メタルモノ。

ころねごや。一棟別レテ、完全ノ家。全家ナリ。
さんざらばし。又、さんたらばし。俵端。棧俵端ノ
略轉ナリ。文語、之ヲ、さんだはらト云フ。形ノ
似タルヨリ、手指ノ關節上ノ、圓形ヲナセル皮膚

チモ、さんたらト云フ。

しにくた。下水溜。水流ヨリ、流ヌ下水ヲ、溜ム
ル場所。其ノ水ヲ、——水ト云フ。

しぎしつき。補綴切。衣服ノ破損ヲ、繕フ切レ。
したかぶり。おこそづさん。下被ナリ。

しつぷりはんてん。又、しつぷり。又、しりぷり。
半纏。尻振半纏ナリ。

しよんべんじや。小便所。
じんべい。蓑ニテ、短靴ノ如ク編ミ、雪路ニ穿ク。

すねのね。水囊。米ヲ、蒸籠ニ入レテ蒸ストキ、
其ノ下ニ敷ク粗目ノ布。元ハ、水ト物トチ、漉
シ分クルニ用フル器ニテ、形篩ノ如ク、馬ノ尾ニ

テ、細カニ、簀ヲ編ミタルモノナリ。郷里ノ水囊
ハ、之ト物ヲ異ニス。信州東筑摩郡ニハ、麵類ヲ、
湯水ノ中ヨリ、掬ヒ上グル具ヲ云ヒテ、我郷ノ、

蕎麥揚箆ノ如キモノナリ。之ハ、略古來ノ物ニ類
ス。

ろき。竹箸。言海、そぎ(粉)ノ部ニ、木ヲ薄クツギ
作レル小板、楲ノ如クニシテ、長サ尺許、幅三四
寸、屋ヲ葺ク。ト見ユ。サレドモ、之ト異ナリテ、
竹ヲソギテ、作レル箸ヲ云フ。

たがあし。鶴足。高足ナリ。語籠ニ(さざあし。田樂
法師の乗る所の、木の本に、横に、短き木をゆひ
つけたるものをいふ。)トアリ。

たがつつば。竹筒。竹壺ノ促音。
だぎ。一棟ノ家屋ヨリ、他ノ一棟ヲ、直角ニ造リ出
ス時、屋根ノ接スル所ニ、生ズル凹所。本屋ノ、
他ノ棟ヲ、抱キ合スル所ナレバ云フ。

ちやばれし。焙烙。茶焙ヒナリ。
つき。切。絹木綿ナドノ切。補綴合ハスニヨリテ

云フ。

つぐら。赤子ヲ容ル、具ニテ、蓑ヲ編ミテ作ル。乳
坐ノ轉。田舎ニテハ、ねぢこ。

つつくね。棧。突棧ニテ、本ヲ削リテ細クシ、土中
ニ突込ムニ便ナラシム。

つなかね。蓑ノ穂先ヲツナギ合セテ、刈草稻ナドヲ、
束ヌルモノ。つなきノ延音。古言ニ、男女抱キ合
フヲ、くなく調ト云ヒ、之ヲ名詞トシテ、くなが
ひトシ、再ビ之ヲ轉シタルガ如シ。

つりやねにんぎよた。彌次郎兵衛。玩具ニシテ、鉤
合人形ナリ。

てのうらかねし。蓑ヲ編ミテ、足袋ノ先、半分ノ如
キ形ニ作り、おそんぎノ如キ用ヲナス。

てんまり。又、てんまる。毬。手毬ナリ。
どた。篋。和漢三才圖會、漁獵具ノ部ニ、徑篋ト云

フモノアリ。竹木ヲ編ミテ作り、魚ヲ捕ル具ナリ。
 とれじ。米通。通草ノ莖ヲ以テ、目ヲ粗ク作りタル、
 長方形ノ織ニシテ、紐ヲ通ス農具。
 どねぶ。胴服。綿入羽織ナ云フ。
 どのぢ。入口。戸ノ口ナリ。
 どんざ。半纏。襟ヲ折ラズ、又、表地ト、別ナル袖
 ロヲ着ケタル羽織。筒袖ナルヲ「つば」ト云
 フ。
 ならぢ。やぢ。やわん。又、ならぢ。や。茶飯ニ、大豆
 小豆粟ナド加ヘタルモノヲ、奈良茶飯ト云フ。之
 ノ飯ヲ盛ル茶碗ヲ、奈良茶飯碗ト云フ。之ヨリ、
 通常ノ白飯ヲ盛ル茶碗ヲモ、上ノ如ク云フニ至ル。
 飯茶碗ノコトナリ。
 ねだきり。唐鉄ノ、鐵ノ部分ノ、狭キ農具。
 はねた。太キ丸太。薪ノ原材。割リテ薪トス。まる

たノ轉。割ラズシテ燒キ得ル、細キモノヲ、小
 ト云フ。
 はねる。半鐵田。灰鐵ノ轉。
 はんきり。半挿。我國ノ製字ニ、椽ト云ノ字アリ。
 是即チ、ナリ。洗濯盛ノコトナリ。
 はんざ。半胴。米麥ナドヲ入ル、樽ノ鏡ヲ抜キ
 タル如キ桶。
 はらく。傘ノ童語。
 ひざわた。眞綿。引綿ナリ。
 ぼねぢよ。又、ぼねぢよ。概。概。
 ふかくづ。藁製ノ深靴ニテ、雪中ニテ穿ク。
 ふどぢ。火梨。
 ふんごみ。足袋ノ上ニ穿ク、淺キ半足袋。
 ぼねじ。寒氣ヲ防グ爲ニ、男女、木綿ヲ表トシ、絹
 又ハ木綿ヲ裡トシ、表ハ曲尺五尺、裡ハ四尺五寸

チ定尺トシ、上部及ビ後方ハ、上ヨリ九寸ヲ縫ヒ
 合セ、下部ヲ開キ、前方亦、上ヨリ九寸ノ所ニ、
 紐ヲ着ケテ、被ルモノナリ。婦人ハ、前ニ云ヘル、
 したかぶりノ上ニ被ルコトアリ。近來男子ハ、多
 ク羅紗ニテ作ル。又、男女、右ノ定尺ヨリ、大小
 ナルモアリ。
 はりこ。紐。絹木綿等ノ、長キ切ニテ、作りタル紐
 ナリ。細子ナリ。「したきり」ナリ。
 はりびき。麻繩。細引ナリ。
 ぼつかた。木樞ニヤ。木ヲ以テ作り、形杓子ノ如
 シ、中部凹ニ、大サ、小キ圓扇ノ如ク、樞ノ短キ
 モノニ似テ、土砂等ヲ掘リ、又ハ、運ブ農具。
 ぼで。穴ノ、大ク深キ物。ぼでか。略。棒手籠ナ
 リ。
 ぼど。爐ノ中ノ、火ヲ燒ク所。火所ナリ。元、

トハ、籠ノ下ノ、灰ノ中ニ生ジタル、塊ヲ云フ。
 まねる。又、まねろ。提打ノ童語。形ノ圓シヨ
 リ轉ヲタルモノナルベシ。
 まんなねた。粗。粗ハ、眞魚板ノ意ナリ。
 まんのけ。馬尾。馬の毛ナリ。
 みつや。水流。水屋ナリ。
 めつかね。柳ノ枝、又ハ、荆ノ條ナドヲ、繩ニテ編
 ミ、後方ニ線ヲ立テ、前方ヲ平ラカニス。恰モ、
 小キ箕ノ如シ。土砂ヲ容ルル農具。目樞ニヤ。
 もつこふんどし。越中褲。袴ナリ。
 ゆがた。單衣。絹木綿ヲ問ハズ、單物ヲ總稱ス。
 ゆで。浴巾。湯手拭ノ略ナリ。
 ゆるげ。桐又ハ杉板ニテ、長キ箕ノ如キ形ニ作り、
 長サ五尺、巾二尺許アリテ、之ヲ左右ニ揺リテ、
 米ノ桐チ、篩ヒ分クル農具。

ゆるり。團爐裏。

わらぎ。又、ららた。蓑坐。蓑具ナリ。

かりき。薪。割木ナリ。

六、飲食調理

あつばね。醤油ノ童語。わわ、しよつばねノ略。

しよつばね。形容詞ノ部ニアリ。

あぼち。又、あぼ。餅ノ童語。あ、首解。ぼち、もちノ轉。

あま。又、あんま。水ノ童語。

おぞねにこ。雑煮ノ實。

おだがり。山盛。御高盛ナリ。

おちやちつばね。又、おちつばね。茶受。茶菓子。

おでのごぼ。食物チ、手掌ノ上ニ、載セテ食フコト。

御手の小盛ノ轉カ。

おみりおつ。雑炊。味噌水ノ轉。砂石集ニ、よひとく

に、もちひみそらづ、いとなみて、軒のたちはな、もとの葉もなし、ト云フ歌アリ。

くぎな。漬菜。菜、大根ノ莖チ通ワテ云フ。又、漬ゲタル菜チモ云フ。莖菜ナリ。

どづに。豆腐チ押潰シテ、煮タルモノ。「豆腐の——」

こくしよれ。濃漿。總ベテ味噌ニテ料理シタルモノ。

ごじねんもの。身分ニ合セテハ、上等ノ食物。御膳

物ナリ。之チ轉ジテ、凡ベテ、上等ノ意ニ云フ。

こちうはん。小晝飯。朝ト晝トノ、間ニ食フ。

ざるめし。冷飯チ、柄アル小キ竹筴ニ入レテ、湯ニ

チ温メタル飯。

ししよびぎ。又、しねびぎ。蛙ノ鹽引。

じんたん。豆ねた。糶太ナリ。

しよつばね。鹽氣。鹽つばね氣ナリ。

どねふから。雪花菜。豆腐売ナリ。

どど。魚類。

にごり。煮濃凝。魚類ナド煮テ、汁ノ凝固セル物。

にだもの。煮物。

ばつば。煙草ノ童語。燻ラス様ヨリ云フ。

ほねたら。干鱈。乾鱈ナリ。

ほねつげ。澤庵漬。乾漬ナリ。

まま。又、まんま。飯ノ童語。旨旨ノ略。

もつごどに。ごつた煮。盛括煮ナリ。種々ノ野菜

チ、混ジテ煮タル物。副詞、状態ノ部、もつごど

たま參看。

やぎめし。握飯。焼飯ナリ。焼カヌチモ云フ。

七、雑

あぐ。灰。普通語ニモ、——ト云フ。

あしなげ。足揚。人ノ過失チ擧グルコト。「人の——」

とる

あちなごど。變な事。又、妙な事。「あなたが——た」

あはれ。馬鹿。「——な、目にあつた」——なことは

がり、ゆつてる」

あんな。又、あんなあ。あのなノ轉ナリ。人チ呼ビ

カケテ云フ語。「——おまねわ、これしてくる」(あ

のね、あなた、この事をして、おくれト云フコト)

うわつら。表面。上面ナリ。「据風呂の湯わ、——わ

づね」

にづぎ。おちつき。すわり。居付ナリ。「——あ、え

ね」

ねびづ。頑固。飯櫃ヨリ出テ、長ク圓キ形チ云フ。

轉ジテ、圓形ノ歪ミタルチ云フ。頑固ナルモノ、

性、是ニ似タルチ以テナリ。

わりわり。譯合。入割ナリ。「どおゆう——た」

おたあり。大ニ有リト云フ意。「そおゆるごども、——た」

おたご。大シタ事。悪シキコトニノミ云フ。「——してゆつた」

おたづ。大體。又、大概。又、大抵。又、概算。大圖ナリ。「——あ、わがる」——て、えむ

おくるめぐる。又、おくりめぐり。循環。送り送りナルヲ、めぐるノ音ニ伴ヒテ、おくるト濁ルナリ。

「世の中あ、——た」——て、人にも世話になる」おしよおし。氣の毒。御笑止ナリ。有難し、氣の毒

なりト云フ場合ニ用フ。「様々、おもらねして、——た」「かたづ、これおし、はどぐやね」教へて下云々

おすろあげ。お裾分ニテ、モロヒモノヲ復分ケテ、人ニ贈ルコト。「——もつてきた」

おた。又、おた。汗。煽動。おた、おたでノ略。お

たチ食ハセルト云フコトナ、おた汁食はし、おた云フ。「おたづあ、——あ、さぐ奴た」おたにのつた

おづ。又、おづ。粹。風流。お通ニテ、粹ナルコトナリ。「——なもんだ」この——たごど

おどつとご。晴の時。御取時ノ促音。「——のほし——よ」

おながれ。それなりに止む。「あのごどあ、——た」おもで。外。家ノ内ニ對シテ云フ。又外トモ云フ。

おり。滓。液體ニ混ヲル滓ナリ。滓ヲ去ルチ——チ切ルト云フ。「——わたまつた」豊後ニテモ云フ

おな。又、おな。反様。裡返し。「ほしよお、——にきた」そんし、おあ、——た

かたまり。まわり。めぐり。近邊。「屋敷——あき

かたはし。はんし。又、かたはし。釣錢。返錢ナリ。かたはし。當目。懸足ナリ。一方ノ助ケト、心ヲ懸

クルナリ。「あんな人お、——にしてあ、だめた」かたづぼし。又、かたづぼち。影法師。

かしのは。包皮。賣物ノ、包皮ノ總稱。古へ、木ノ葉ヲ總稱シテ、かしのト云ヒ、松のかしは、厚朴

がしはナド云ヒ、古へ、食物ヲ盛レリ。特リ柏ノ葉ヲ云フニアラズ。米澤ノ地方、餅類、餠物、鹽、

菓子類迄、皆厚朴ノ葉、柏ノ葉等ニ包ム。之ヲかしのト云フハ、前ノ古語ヨリ起ル。薬瓶は醫者

の——た」がし。生氣。活勢ノ轉。「おほごあ、——あなは」

かたすべり。片耗。片反耗ナリ。「足駄の齒あ、——

になつた」かたつら。かたちんば。片連ナリ。「羽織のさよおあ、

——た」かたらし。片方。片合ノ約かたあせノ轉。「この

下駄あ、——た」かつくし。又、かつくは。切株。刈串。又、刈杖

の促音。「足に——さした」かつこね。利便。恰好ニテ、廉價ノ義。「このはお

あ、——た」かどひし。角々。角菱ナリ。「——あある」

かなづぼし。端末。金端ナリ。かなハ、總ベテ、甚シキコトヲ云フトキ、冠ニセ用フ。例へバ、かな

つんぼ、かなげ、ごノ如シ。かなかなト云フ副詞モ、コノかなチ、重子用ヒタルナリ。

かねごもり。高金。金籠ナリ。「——の物、あつがーの

かびれち。穎落^{カビオチ}ニテ、米穀ノ、収穫ノ量チ、滅殺^{ゲツサイ}スルチ云フ。是ヨリ、總ベテ、収入ノ減ズルチ云フ。「ことしあ、た」

かわど。河流ノ岸ニ、場所ヲ設ケテ、其ノ河水チ、使フベクシタル場所。河所^{カガド}ナリ。

がらどしう。粗大ニシテ、妨ゲトナル。がらどハ、がらくたノ略、しうハ、自由ノ略ナルベシ。是レ粗大ニシテ、自由ノ聞カヌコトがらくたノ如キニヨリテ、云フナルベシ。方言、不自由チ、ふしうト云フ。「おつさくて、た」こんな、なも

ぎいねれ。羸弱。粗悪。犬ナドノ、鬭争スルニ、弱キチ、——犬ト云フハ、尾垂れ犬ニテ、嘲リ云フ語ナリ。是チ、人ニモ轉用シテ、弱キモノチ、

ト云ヒ、又、轉シテ、總ベテ、粗悪ナルモノチ云フニ至ル。「貴様あ、た」——大根」——苗た」

まうがん。身體の調子。急幹^{キツカン}ニテ、急用ノ事ナリ。之ヨリ轉シテ、身體ノ調子悪クテ、急用チ辨ゼヌヨリ、身體ノ不工合ナルチ、——か、わるね」ト云フ。

まかほ。製絲場。器械ニテ、製絲器械ト云フコトチ、其ノ場所ノ名トス。近來ノ方言。

まきげ。氣。生氣ナリ。「蕨の——お、ぬぐ」——だししる」

まきつかげ。心當リ。氣懸ナリ。覺エノ意。「そおゆら——あなね」

まきつかげ。作切り。切懸^{キツカケ}ニテ、土チ切り反シテ、作物ノ根ニ、寄セ懸クルナリ。作切りトモ云フ。「豆

の——しる」

ぎんぼ。剛直。物ノ鞏^{ツヨク}ヤカナラザル形容チ、ぎんト云フ。サレバ、ぎん棒ノ意ニヤ。「——な手た」

きめこと。女兒ナドノ、氣ニ適ハズシテ、仲間チ外ル、コト。極事^{キョクコト}ニテ、事チ極メテ、去ル義ナリ。

東京地方ニテ、さめつけるト云フハ、人チ叱責スルコトニテ、意別ナリ。「あの人の、——した」

くさむしり。草筆^{クサムシリ}。庭園等ノ、草チ除クナリ。水田中ノ、雜草チ去ルチ、草取ト云フ。「庭の——しる」

くたま。邪魔。朽間^{クスマ}ナルベシ。朽ハくたすニテ、朽サすナリ。朽サすハ、物チ消滅セシムルナリ。サレバ、我チシテ、間チ消滅セシムル妨害物ハ、皆

ナクたまナル物ナリ。間ニニツアリ。時間ト空間トナリ。今、くたまノ使用ノ場合チ考フルニ、即チ、此ノニツノ場合チ出デズ。一ツハ、子供ナド

ノ立纏^{タチヂ}ヒテ、時間チ徒費セシムルチ、くたまにな

るト云ヒ。今一ツハ、徒ラニ場所ヲ塞ギテ、妨害トナル物チ、くたまな物ト云フニテ知ラル。

くぢうら。話振^{ハナツブリ}。口裡^{クチウラ}ニテ、話ノ摸倣ト云フ意。「——おさげば」あの——てあ

くつぐた。屑芥^{クツグタ}。どるり。周邊。まはり。「家の——」

けはは。様子。假粧^{ケハハ}チ濁レルナリ。主トシテ、家屋ノ外装ニ云フ。「あそごあ、——あえね」——のえ

ね、はだこやた」

げんこや。穀屋。昔、驛旅^{エキノミヤ}ノ脚助^{ケツタ}ノ語ニ、五文チ、げんこト云ヘリ。拳固^{ケンコ}ハ、五本ノ指ヨリ成ル故ナ

リ。又、五文取リノ餅チ、げんこどりト云フ。(以上俚言葉覽)此ニ依リテ思フニ、昔、穀屋ノ、搗餅^{ツギキ}即チげんこどりチ、兼ネテ商ヘルヨリ、げんこ屋

ト云ヒ、今ハ、餅ヲバ賣ラザレドモ、此ノ語ノミ
存セリ。

げんまご。有様。權幕。又ハ、嶮蕪ノ字ヲ用フ。元
來、顔色ヲ云ヘドモ、方言、夥シキ様ニ云フ。大
ニ賑ヤカナルヲ見テハ、「大變な——」ト云ヒ、盛
装シタル人ヲ見テハ、「——な装束だ」ト云フガ如
シ。

こごり。塊。小凝リナリ。「あぐの——」

こごがだ。串ノ意ナリ。「今度の——あすんたらこね」

こぼりた。蠶ノ小サキモノヲ、飼育スルコト。小

場育ニテ、小サキ蠶室ニテ、飼育スル意カ。又ハ、

最初發生ノ時ハ、特ニ蠶場ヲ設ケテ育テ、後ハ、

イツレノ室ニモ、移シ育ツルニ由リテ、特ニ、蠶

場育ト云フニカ。後説可ナルベシ。

こんど。爾後。今度ナリ。「——から、しなね」又、

このたびノ意ニモ用フ。「あ、ねいつてきた」
こん。事。「こおゆう、——たべが」なんちう、——
た「知らなね——た」

さねこ。以上。最期ナリ。「さもの着た——あ、ぬか
んに——やね」もつてはつた——ぬ、返すちやな
ね」

ささほたき。慘々。「た——な、めにあつた」

さねん。菜圃。菜園ノ轉。野菜物ナドヲ、作ル畑。

其ノ作物ヲ、——物ト云フ。

しごれんし。果物。又ハ、瓜類ナドノ、歪メル形。

しつた。底。下ノ促音。「おげの——あ、わるくな
つた」

しつべ。指ニテ、人ノ掌、又ハ、頬ナドヲ、シナギ

撲ツコト。又、しつべねトモ云フ。手批ノ促音。

「——かける」

しならび。生干。しなくト、干タル様ヨリ云フ。

じやがぶづ。釋迦佛ノ頭髮ノ、卷縮シテ、顆粒狀ヲ

ナセルヲ以テ、物ノ面ノ、平滑ナラザルニ譬フ。

「——つら」

じよねはん。常凡。通例。「拾圓あ、——た」

しよつつぎ。最初。初着ナリ。「——あむつがしか
——つた」

すま。又、すまこ。隅。すみノ轉。

すりがね。住居。賤辭ナリ。「あんなどごろに、——
しつた」

ろごく。又、ろちこち。又、あちこち。あちこち。

ろづ。すたり。人ノ死スルヲ、卒すト云ヘバ、之ヲ

用ヒタルカ。「——あでぎだ」

りば。傍。「——がらゆつても、だめだ」

だにやよねぶん。大丈夫。「こんしね、——た」

だいなし。さんぐ。毫無シナリ。「大事な物、ぼ
つこして、——にした」「病氣であ——たなわ」

だにるまぎ。渦卷。方言。蝸牛ヲ、だにるト云フ。

たがうれ。物價高直ノ事。高買れナリ。「——て、こ
まる」

たりご。助け。「このくらねても、——になる」子供

もよつばと——になる」多足ナリ。

たつたらまんま。立つた儘ノ轉。

たつたらもち。子生レテ、誕生日ニ至ラヌ前ニ、物

ニ憑リテ立ツキハ、其ノ強壯ナルヲ祝ヒテ、餅ヲ

搗ク。之ヲ、——ト云フ。立つたならば餅をつくと

云フ語ノ略。

だんげ。際限。斷限ノ略。「——あなね」

たんごぶ。瘤。玉瘤ノ、まぢむニ轉ズ。松ノ枝ノ瘤、

又ハ、身體ニ生ズル、瘤ナドヲ云フ。

だんじぎ。品。段式ナリ。「人にあ、なんぼも、
あある」

だんべい。法外ニ大ナルコト。「あはづあ、——た」
ためれば。又、ため。肥壺。溜桶ナリ。

だら。人糞肥料。之ヲ入ル、桶ヲ、だらおげト云フ。
だらど。不性。墮落ナリ。「——なごどお、しるッ」

「あそごあ、——た」

ちくばく。アチコナト入り亂レテ、不揃ナルコト。

はくハ、後ニ云ヘリ。ちくハ、唯似タル音ヲ添ヘ

タルノミ。「このうだかるだあ、——た」

づ。釣合。圖ナリ。「——あわるぬ」又、極リノワロ

キウト。

つらぶ。又、つらぶご。平均。對比ノ轉カ。「あまり、

もおげながら、あゝの位、損しても、——たべ」

つかばなれしたご。縁ノ無イ事。番離レシヤ事

ナリ。「なに——ゆう」

つぎれ。又、つぎか。つぎれハ、摺入ノ略ニテ餅

ノ——ナド云フ。つぎか。摺懸ニテコノ。か

ハ、他動詞ノ下ニ添ハリテ、皆、此ノ如ク、其ノ事

ノ、今丁レルヲ表スナリ。例ヘバ、「焼き——の餅」

「仕立——の着物」建で——の家」釣り——の水」

等ノ如シ。然ルチ、「餅ヲ搗キかけタ」着物ヲ仕立

かけタ」水ヲ釣りかけタ」ト云ヘバ「餅ヲ搗キ始

メ」着物ヲシタテ始メ」水ヲ釣り始メ」タルナリ。

又「來か。げに」はきか。げに」ト云フ副詞トナレバ、

「來ル途中ノ序ニ」往ク途中ノ序ニ」ト云フ意トナ

ル。

つたが。着丈。身長ト等シキ、衣服ノ丈。對丈ノ

促音。「このぬしよあ、——た」

つつぶか。つづ。對々。對比恰比ノ轉ニアラマカ。

「今度儲けながら——た」

づなし。法外ニ大ナルコト。圖無シナリ。「あの人

あ、——た」

つね。通常。平日。「病氣あなを——つて、——のよお

た」

づるびご。不揃。交子ニテ、物ノ一組ヲ云フ語ナリ

シテ、「一番ノ揃ハムコトヲ云フニ轉用シテ、長短

不同ナルヲ云フニ至レルカ。

でがだ。収入。出方ニテ、産出ノ意ナリ。「あのうち

あ、——あある」

でつくばはつくば。凸凹不正ノ状。でつくばハ、

出逢ナリ。はつくばハ、這入り窪ノ略轉ナリ。

「このみぢあ、——た」

てんじよ。天上。上ナリ。「——の方、見ろ」

でんづだんづ。不揃。出んづ出んづ、でなノ約、

だナリ。「きものあ、——た」

てんべ。又、てんべん。又、てつべん。上方。天邊

ナリ。「——の方にあるッ」

でり。理由。譯。出入ノ略。「とおゆう——が」「あ

の——あ、おれあしらなぬ」

どあ。絶間。後ノ絶エタル間ナリ。「仕事の——」

どきれ。隙々。「しここの——にする」

どつけ。末尾。特下ニテ、席次ナドノ、順チ數フル

ニ云フ。「——になつた」「——がら、何番目だ」

どつちやつがす。又、どちやつがす。どつちつ

かす。「——なごどゆう」

どつづれご。奥底。「感胃ひいだれば、——がらさ

むた」

どめつめ。首尾。留語ナリ。「——の、あわななごど

ゆう」

ながえご。中休。中回向ノ轉。亡キ人ノ靈ヲ祀ルニ、長キ日ヲ用フル中間ニ、一日位休ムナリ。サレバ、コレヨリ、シカ云フ。

なぐれ。それ。放蕩スルヲ、なぐれるト云フ。文なく

れノ語、之ニ同ヲ。例ヘバ、人アリ、目的ノ所ニ往キテ、目的ヲ達スル能ハズ、外レテ、我家ニ來ルヲ、

「わきた」その「わ、わとごにわつた」ナド云フ。

なぢよた。如何。どう。何條ナリ。病氣あ——た

「——なごんた」「——にしる」又、促メテ、なちよト云フ。「なちよーつてもなわ」

なまぐさげ。腥物。腥氣ニテ、魚鳥ノ腥ノ、食料トス

ベキ物。おしよおしんたがら、——食なわ

なんぼ。幾等。何程ノ略轉。「この筆あ、——た」おまの年の、——た

なめたわら。斜平ニテ、義亦字ノ如シ。「こごわ——た」

にがた。劣等。二方ニテ、一位ニ上ラレヌ者。こいつちの——た

にたりや——たり。似寄リタル物。似タリ合ツタリナリ。「あの夫婦あ——た」

にのぼぎ。最初ノ意氣込拔ケテ、氣力弱キコト。二ノ息ナリ。「——になつたはとに、おもしろぐまわ」

によた。新穂ニテ、刈リタル稻ヲ、積ミタル物。藁ヲ積メルヲ、わら——、柴ヲ積メルヲ、しば——ト云フ。

のの。書物ノ童語。讀ム聲ヨリ云フ。

はね。飄石。ふりづんばいノ略轉。三才圖會、兵器征伐具ノ部ニ、ふりづんばい(飄石)ト云フモノ見

テハ、稻豆等ヲ干ス爲ニ、繩ヲ張り、又ハ、木ヲ横ダヘテ作レル、棚ノ如キモノヲ云フ。越後ニテハ、之ヲはびト云フ。サレドモ、此ノ語ハ、鈎ヨリ出テタルモノナリ。

はし——わ。材木店。右ノはし——わヲ作りテ、材木ヲ立テ并べ置クヨリ云フ。

はしぎ。塙席ノ轉ニシテ、ヤガテ塙席ノ意。「——とつて、邪魔た」

はした。端片ノ意。又、餘計ノ意ニモ用フ。「こんな——かね」「これあ——た」

はぢあたりなごど。勿體無き事。「——たげんても、しかだなわ」

はなづぎ。發端。初。端着ナリ。物事ノ始ヲ、はなト云フ。方言、動詞ノはなへるハ、之ヲ活カセタルモノナリ。「仕事ノ——た」

ユ。其ノ文ニ曰ハク、登壇必究云、用ニ一握竹長五尺、繩繫レ頭作レ兜、貯レ石、搖勢一擲而去、守レ城、宜用、ト。コレヨリ擲ッ小石ヲ、シカ云ヘルナリ。「——ちづ」

はきあわし。合目。接合ニテ、接クハ、着ケ合スルコトナリ。「わだの——がら漏る」

はく。又ははくた。一組外ノモノ。團體以外ノ物。一對ノ中、一ツナキ物。方言、動詞ニ、人ヲ仲間ヨリ放ツヲ、外ル、又ははきるト云フ。はくハ、はくるノ語根ナリ。たハ、後ナルはしたノたト同ク、文語ニモ用フル所ノ、接尾語ナリ。「この歌かるだわ、——た」

はし。鈎。モト鈎ハ、カギノ如キモノニテ、煙草入ノ口ヲ留ムル金、又ハ、足袋ノ口ヲ留ムル金ノ如キモノヲ云フニテ、又ハ、こはせト云フ。方言ニ

名詞 雜

はんばごはね。滅茶苦茶。ばら／＼。「身代、——に
した」

はんばうねは。不定。いきなりばつたり。「今直
段あ——てわがんなね」

はんまね。分前。分前ノ轉。「わけ——又段或ハ時
ノ意ニ用フ。「錢とる——になると、ひとね」

ばよねつりやね。ばひひひ引き合ひ。「——してこま
る」

びつこたつこ。長短アリテ、不揃ナリ。「この箸あ、
——た」

ひどがだぎ。又、びどかだげ。一食。「一方食ナリ。
——に、たくさんた」

ひのはね。火焰。火の穂ナリ。「——あみえる」
びんねね。不良。「——な羽織」「——な奴」

ふづまり。不明。怪し。「かばづあ、——た」「あばづ

の、見めねななわ、——た」

ぶつかげ。破片。「茶碗の——」

ふるがね。古道具屋。古金物ヲ賣買スルヨリ、云ハ
ルナルベシ。

ぼねるど。粗悪。「——机」「——家」「——な奴」
ほうごり。死灰。火埃ノ轉。「——あ、とんできた」

ほちねかちねくら。間食。「——しるがら、わるね」
ぼつこ。病ノ爲、又ハ、溢柿ヲ食シテ、舌ノ上ニ、付
キタル粕。雪路ヲ歩ミテ、履齒ニ付キタル雪塊。

「したに、——あ、たまつた」「げだに、——あ、つ
ねだ」

まがだ。擬形。眞ノ形ナラテ、間形ト云フ意。「——
つばな羽織でなぐども、——さね、あればえね」

「じよおすこしらわれなぐども、——になればえ
ね」

まげ。島田髻。わけ。唯。——ト云フキハ、島田髻ノ
コトナリ。他ハ、何番ト、其ノ名ヲ冠ス。

まね。いたづら。小兒ノ惡戯スルトキ、之ヲ制シテ、
「そんな——しんな」ト云ヒ、又、「なんの——た」ナ
ド云ヒテ、叱ル。

まんぼぢ。贗物。織物ノ不正ナルモノヲ云フ。東京
地方、虚偽ヲ萬入ト云フ。方言ハ、廣ク虚偽ヲ云
フニアラズ。「——染た」

みは。外見。見榮ノ略。このさものあ、——あえね」
むがわりつき。向月。今年ノ某月ヨリ、年ヲ越シテ、
翌年ノ同月。「漬物お、——迄くつた」

むぎ。通り。如く。向ナリ。「だれのおつしやる——」
めつたなご。うつつかりしたこと。滅多なる事ノ
意ニテ、滅多ニ、ウツツカリシタ事ヲ、云々ト云フベ
キ副詞ヲ、名詞ニ用ヒタルナリ。「あれにあ、——

ゆわんにやね」

もごだ。又、もろつ。屑。薬朽、及ビ、薬屑ナリ。
もつけ。不幸。「——なごんた」

もん。物。「こおゆう——た」「どんな——た」下ニ、
た又ハ、チ付クル外ハ、ものト云フ。「えねもの、
も——つてだ」「おもしろねものお、みだ」

もめうちやら。もちやくちや。「書物う、——にし
た」

やみあかり。病後。病揚ナリ。
ねくみ。繪具。えくむト云フ動詞ノ、名詞法ヲ用ヒ
タリ。

よごびた。横の方。側方。横邊ノ轉ナリ。「顔の——
ただねだ」

よちりくちり。屈曲。「——の、多ね道た」

りぶつ。譯。理屈ナリ。「なんの——たがわがんな

ね」。「なんの——たが、あだまわ、やめる」なるはと、あれあ、知らなね——た」

わつか。輪。輪金ルカネノ路カ。

わなぐり。紐緒ナドニテ、作りタル輪。輪索ルナグリ周ナリ。

第二、代名詞

一、人代名詞

甲、自稱

おれら。又、おれら。又、おれら。私。おれらハ、オレラ已等ノ、
れノ父音ヲ脱シタルモノナリ。おらハ、おれらノ、
れヲ脱シテ、用ヒタル場合ト、おれハト云フ複語
ノ、れハヲ約シテ、用ヒタル場合ト、ニツアリ。
一ノ場合ハ、——にもおしねなね、私にも教へ二
ノ場合ハ、——知らなね、——見なねナドノ如シ。
おらハ、おらノ轉。田舎語。

おらつれ。私達ワシタチ。已等連オラズレニテ、私風情ワシケンシヤイト云フ程ノ意。
「——あ、こんしね澤山た」(私だちにはこれで澤
山だノ意)

おれ。私。男女ヲ問ハズ、貴賤ヲ問ハズ、盡ク云フ
自稱ナリ。已オレノ略。

おれさま。乃公。小兒ナド、戯レテ云フ。

こちど。私共ワシタチ。此方人ナリ。「このくらゐな者物で、
——あ、上等だ」

こつち。おれ。「あんなごどめ、さつぱり、——あ
知らなね」

乙、對稱

あんだ。あなた。貴様ト云フ程ノ、賤辭ナリ。

うぬ。奴。極メテ、賤メタル辭。複數ニハ、——ら。

おまね。あなた。御前ノ義ニテ、同輩以上貴人ニモ
用フ。複數ニハ、——かだ。又、——たぢ。

おまねさま。あなたさま。町人ナドノ云フ語。複數

ニハ、下ニ、かだヲ添フ。

おみ。おまへ。御身ナリ。賤辭ナリ。複數ニハ、下

ニラ、又ハ、かだヲ添フ。

きさま。貴様。賤辭ナリ。夫ノ、妻ニ用フル場合多

シ。

おまへ。おまへ。田舎ニテ、子弟等ニ云フ。又、年少者

ナレバ、他人ノ子弟ニモ、云フ所アリ。複數ニハ、

らヲ添フ。

やるね。野郎。「——待て」

われ。おまへ。子弟並ニ下輩ニ對シテハ、男女皆、コ

ノ語ヲ用フ。自稱代名詞ヲ、轉用シタルモノナリ。

複數ニハ、らヲ添ヘテ、——ら、又ハ、わねらト云
フ。

丙、他稱

あなづ。彼の人。彼奴ナリ。「——あ、わるねやづた」

あなねろ。又、あなねろね。又、あなねろ。又、あ

のやるね。あの野郎ヨリ出デ、種々ニ轉ジタル

ナリ。

あのひど。あのかた。

うぢ。又、おらあどご。良人。やど。

こなねろ。又、こなねろね。又、こなねろ。又、こ

のやるね。この野郎ヨリ轉ズ。

このご。この方。此の御ナリ。「——あ、どこの人た

べか」

りなねろ。又、りなねろね。又、りやるね。其の野

郎ヨリ出ツ。

丁、不定稱

だれ。どなた。男女共ニ、此ノ語ヲ用フ。

どれづ。どれ。誰奴ナリ。

どなほろ。又、どなほろに。又、どんなほろに。又、ど
のやろに。どの野郎ヨリ出ヅ。
どれ。だれ。

二、指示代名詞

此ノ代名詞ハ、語典ノ部ニ表示セルヲ以テ、参考ス
ヘシ。今ハ、唯、左ニ、二三語ヲ釋クニ止メンノミ。
他ニハ概ネ、語源ノ不明ナルモノモナシ。
あなづ。あれ。彼奴ナリ。
かたづ。これ。彼奴ナリ。
こたづ。これ。此奴ナリ。
きたづ。其れ。其奴ノ轉ナリ。
りたづ。それ。其奴ナリ。
どたづ。とれ。

第三、動詞

一、自動詞

あざる^{一カ上} 他く。「ほとくつた」「見わざだ」
あどねはでる^{一タ下} 極メテ、憎ミ嫌フ。「あなづにあ、
——」
あくむ^{一四マ} 倦みつかる。「あづ道もかがるがら、あく
んでしまつた」
あすぶ^{一四ハ} あそぶ。
あだげる^{一カ下} さわぐ。荒けるノ轉ナリ。「又——」
あはける^{一カ下} ふさける。甘けるノ轉。
うづける^{一カ下} ふさげまはる。モトハ、慮るニテ、心モ
空ニ、戯レ狂フコトナリ。「どかぬに、——」
うでる^{一カ下} 劣る。勢ニオサル、コトナリ。源平盛衰
記ニ、「ゆしく見えつる磨墨も、まざる池月にも
ひたれば、あけにうて、ぞ、見えたりける。」
リ。「この品あうてて」
うわづる^{一四} 上走ル。「熱わつよくて、話め——」音

あ——」

なぞれる^{一四ラ} 又、なぞる^{一四ラ} 勢ツキテサツク。いさ
ほふノ轉。いきほふ^{一四} ト云フ詞ハ、更科日記ナド
ニ、「物ざわがしく、人多くいきはひたり」ト見ユ。
此ノ動詞チ、カクハ活カセタルナリ。
なぞる^{一カ下} 生る。「あれわ、なぞればえぬか」
なごご^{一四カ} 動く。又、正シク、うごくと云フモノモア
リ。
なしほる^{一四} 長居する。歸ルコトヲ洗ルナリ。「あの入
あなづても——」
なづご^{一四カ} いらつく。物ヲ煮テ、炒リ着クコト。居着
ナリ。
なつつけほる^{一四ラ} 息張。息氣張ノ促音。カムコト。
なほみあがる^{一四} 縮細ナドノ地質善クテ、粒々ト見
ユル。又、嚴寒ノ頃、水流ノ上ナドニ、水ノ粒々ト、

氷レルナド云フ。瘧み上るナリ。
なむる^{一四} いぶるナリ。「大變——」
なろう^{一四} 觸レテウツル。色ムノ轉。茶ナドニ、物
ノ香ノ、移レルコト。「何かぬるつた」
なれたる^{一四} 入らつしやる。御出で有るノ約言。
居ルコト、來ルコト、敬語ニ用フ。「何して——」
「むごおがら、おぬたつた」
なとる^{一四} 腹立つ。「ひととおどつた」
なちらふど^{一四カ} 仰向く。御空向クナリ。茫然ト仰視
スルコト。又、てんこふくと云フ。天虚向クノ轉
ナリ。「なんだ、そかに、おそらふねて」
なたむ^{一四} しまる。隠じナリ。「腹のいだみあ、おた
んた」
なつかつど^{一四カ} おひつく。追駈付クノ略。やつと、
おつかつた」

おつぼくられる^一下 はぐれる。追外れるナリ。

おびえる^一ト おひえる。赤子ノ物ニ驚クコト。震懼

ノ字ヲ用フ。

かがさる^四 少シマサル。コノ語、今ハ、第二段か

ざりチノミ用ヒテ「かがさつた着物」ナド云フ。

かかなど^四 ぐどつく。思ヒ切りテ、物ヲモ得云ハ

ズ、小心ニテグヅ／＼スルコト。屈鳴クナリ。是ヨ

リ、遠慮ニ過ギテ、謙遜スルコトヲモ云フ。「口の

中てばかり、かかなぬでる」萬葉集卷十四、東歌

ノ中ノ、常陸國歌ニ、「筑波峯に、かかなく鶯の、

音のみをか、鳴きわたりなん、逢ふとはなしに」ト

アルチ、萬葉集古義ニ、かかなくは、鶯の聲は、か

く／＼といふ如く、鳴くものなれば、いふなり云

々ト、云ハルトハ同ジカラズ。

かかむ^四 かくれる。方言かかむハ、屈むヨリ轉

テ、屈ミテカクル、コトヲ云フ。「木の陰にかかん

た」

かもお^四 かゝりあふ。構ふナリ。「人に、——ごと

あなぬ」そんなもの、かまわなぬてこぬ」

からびる^四 又、ひつからびる^四 干枯干るナリ。

きずむ^四 心悪ク思ふ。氣遣ひに思ふ。疵むナリ。

「きずんで來なぬ」

ぎやなる^四 となる。

ぎれる^一下 又、どれる^一下 それる。若年輩ノ、悪シ

キ方ニ、外レテ入ルコト。「あえづあざれた」

くさる^四 濡れる。「さものあ、くさつた」

くたはる^四 死ぬ。朽這ふノ轉。悪シザマニ云フ語。

くちたつ^四 口さく。「又入らぬ口たつて」「さ

つぱり、口ただなぬ」

くつかる^四 つく。「おしつければ、くつかつた」

くつつど^四 接合スル。馴レテ合フ。寄付クナリ。

物ト物ト附着スルコト。又、男女ノ馴レテ夫婦ノ

如クナルコト。「あれあ、くつつどではるぞおた」

くまむ^一 ぶける。「くまんだ人た」

どれる^一下 ワルシカハル。外ル。繰リテ轉タルナ

リ。「ぐれでしまつた」

げづかる^四 又、ねやがる^四 人ノ居ルコトヲ、極メ

テ悪シザマニ云フ語。「なににして——」

びらづど^一下 笑ふ。猥リニ、ゲラ／＼スルコト。

こころらげる^一下 むすぼはれる。凝荒けるノ略轉。

「糸あ——」

こころ^四 濃凝るナリ。「煮だものあ、こころつた」

ござる^四 入らつしやる。御座るナリ。居ルコト、

來ルコトノ敬語。「何して——」「向おがら——」

こしつど^四 障害アリテ、中途ニ止ムコト。「仕事の、

こしつどだ」

ごしねあやがる^一下 腹あたつ。

こしねる^一下 こしねハ、こせつくナドノ、こせノ轉

ニテ、作物ノ縮ミ屈ミテ、伸ラカナラヌコト。「こ

の茄子あ、こしねだ」

こちれる^一下 損ふ。振けるノ轉。「煮ね——」あぬ

づあ、こちれでしまつた」又、小兒ノ戯レニ、松脂

ヲ製シテ、着色シタルモノヲ、まいつぢやにト稱

シテ、嘯々時、他物混サテ粘着力ヲ失ヒタルチ、こ

おちになつたト云フハ、コノこちチ伸ベテ、名詞

トセルモノナリ。

こどる^四 墨汁、血液ナドノ粘リ氣ヲ帯ビテ、ドロ

／＼スルチ云フ。思フニ、モトハ、濃濃ト云フ名詞

ナリシチ、カヤウニ轉シテ、動詞トセルモノナルベ

シ。「墨あ、こどつてきた」「こどつた血あ、出來

だ

こびつく^四 ひとつく。「こびついで、とんばやね、」

まじる^四 茂る。榮るナリ。「樹あ——」

ぎんまじ^一 又、ぎんまもんまじる^一 厭愧爲

ルナリ。サレド、愧ヅル意ニハ用ヒズ。「おぼこわ
やがましくて、——しる」「おそがしくて、く、

しゐびる^一 せく。急けるナリ。「ど、わるね」

しかみづ^四 しがらみつくニテ、物ヲ放ササト、

執念ク纏ヒ着クコト。「おづまても、しかみづねで
放さなね」

しける^四 しめる。「——どぞた」

しこる^四 こる。肉凝^{ニシユ}ノ略。「かだわ、しこつた」

しづる^四 液類ノ、器物ニ添ヒテ、滴リ落ッルコト。

木ニ積リタル雪ノ、ナダレ落ッルヲ、しづれト云

フ。爲忠ノ歌ニ、朝まだき、松の上葉の、雪は見ん、
日影さしこば、しづれもぞするトアリ。しづるハ、
コノ語ヲ、活用セシメタルモノナリ。「油あ——」

しとぼる^四 湿る。嚴寒ノ時、降レル、湿氣ナキ雪ノ

日光ヲ受ケテ少シク濕リカケタルコト。(上州地
方ニテハ、コノコトヲ、綿^{ワタ}びト云フ。)又ハ、

米ノ粉ヲ、水ニテ濕シタルトキナドニ云フ。しと
ハ、しとどにぬる、ナドノ、しとナリ。

しなびる^一 しなね干るナリ。

しもれる^一 寒中、嚴シキ寒サノ、暖氣ニ變リタル
コト。和訓栞ニ「霜折^{シヨナレ}、天氣の曇りて寒さをいふ」

ト見え。義ハ異ナレドモ、詞ハ全ク、之ト同ク、
しもをれノ、をヲ略シタルモノナリ。

しやねはしびる^一 才^{サハバ}弾けるナリ。デシーヤバルコ
ト。

しやきばる^四 威儀ヲ繕フ。「おはおりなときて、

張リ出ヅルコトニモ云フ。
又、所^{トコロ}得^{トク}顔^{オモテ}ニ振舞フ。又、新シキ衣服ナドノ

しやなる^四 きやなるニ同シ。

しやれる^一 下 さばる。着物ヲ着飾ルコト。又、女

ナドノ化粧シテ、カタチヅクルコト。「わの人あ

じやれる^一 下 ふざける。猫ナドノ戯ル、コト。

しよれしがる^四 耻しがる。笑止^{セウジ}がるナリ。又、氣

ノ毒ガルノ意ニモ用フ。「わまり、ごちそお走^{御馳}に
なつて、——」

すだまる^四 潜^{カサ}ミ黙^{ダマ}スルコト。疎^{ソッ}縮^クみ黙^{ダマ}るノ略。

「わまり寒くて、すだたまつてしまつた」

すなめする^四 すべる。「すなめすつて、ころんた」

又、すめするトモ云フ。

すねこどれる^一 下 すれからす。すねハ、次ノ語ト同

ジク、こどれるハ、おつこぐるナドノ、こぐるノ
自動詞ニシテ、こぐるハ、もつこぐるこど同ジ
ク、括^括るナルベシ。

すねる^一 下 すれる。他地方ニ用フル、つんとすねる

ナドノ、すねるトハ同シカラズ。少年ノ、年ニ比シ
テ、世間ノ事ナド、心得居ルコト。彼ノ日本大辭林

ナドニ、「我儘をいひて、ねぢくねるをいふ」トア
ル意ニハ用ヒズ。「あのがぎあ、すねでる」

すびる^一 上 ちぢむ。統^{スズ}る、又ハ、總^{スズ}ると云フ語ノ轉。
物ノ乾キテ、容積ノ減縮スルコト。

すめる^一 下 わかる。物ノ道理ヲ、善ク了解スルコト。
コレ、疑團解ケテ、明白トナルコト、猶ホ、濁リ

消エテ、清クナルガ如キニヨリテ云フ。サテ、コ
ノ語ノ成立ヲ思フニ、二重ノ變化アリ。彼ノ讀の

る、書ける、話せる、飲めるナド云フハ、皆、讀まれる、書かれる、話される、飲まれるノ、れト、其ノ上ノ一音トチ、約音トシタルモノニテ、コノ例ヲ以テ推セバ、清スされるノ約、清スせるノませテ、再ビ約シテめトシ、サテコソ、コノするもト云フ語チ、生マタルナレ。「よぐ——奴た」

ずる四 摺スリ動ク。摺スるチ、濁リタルナリ。又、すれるト云フ。「すぎらづし(引寫)の紙わ、すれだ」

すわる四 熟ス。「果物わ——」「まぐわわ、すわ一つた」

う一づ一 四 ところト書クベキナレドモ、ふチ發音スルニ、うチ用フレバ、上ノ如ク濁ケタリ。似合ふ。添フふノ轉ナリ。「よぐ——」「なんだたがそこわなな」

う一づ一る四 膝チ崩シテ坐ス。縁付カズ。「膝わ、た

ながら、そべ一つた」誰わ、あそこのうちい、内なをそべ一つた」

たく一さ一る四 取りすがる。手鎖ルニテ、手ニテ取りスガルナリ。「おほごわ、背中に——」

た一び一る四 一カ下 交尾。つるむ。「犬わ——」「猫のたげ時」

た一づ一る四 沸騰。「湯わ——」

ち一ぢ一まる四 屈カまる。縮カまるナリ。

ち一よ一ろ一づ一る四 一カ下 一チヨロ一く一サワグ。「あまり——」

づ一が一は一る四 一ガは一る。容張るナリ。

つ一ぢ一は一る四 一スわる。「そこにつぢばれ」

づ一ぢ一あ一かる四 一ツけわがる。づぢひひ、鏡みニテ、さごふ意ナルチ、カク轉ツタリ。

つ一ら一ね一る四 一ハ下 危ク保ツ。列經るカ、或ハ、蔓入るカ。蔓チつらト云フコトハ、伊勢集ニ、「玉かづら、我が

して、なさわづねだ」

ね一り一ける四 一カ下 ねそびれる。寢損フコト。寢外るナリ。

ね一づ一る四 一イさつく。植物を植エテ、生付クコト。

ね一つ一ば一る四 一ねばる。

ね一まる四 一すわる。寢纏るナリ。纏るハ、纏くノ自

動詞ニシテ、纏くハ、萬葉集卷二ニ、「おきつ浪、來寄るありそを、しさたへの、枕とまさて、なせる君かも」ト見ユルまくニテ、敷キテ伏ス意ナリ。

陸奥地方ニテハ、現ニ、臥スコトニ云フニヨリテ思へハ、寢纏るヨリ、轉ジタルコト、明ラカナリ。是ヨリ、其ノ義チ轉ツテ膝折リ敷キテ、坐スル意ニ用ヒタルナリ。

の一だ一は一る四 一又の一つたは一る四 一のば一る。倒這ふノ轉。「又そかなふうに、——あな」

くることを、君知らば、つらながらにも、絶わじとぞ思ふ」トアルニテ知ラル。サレバ、蔓ノ長ク延フ如ク、日チ經ルニ云へルニヤ。「わの病人わ、またつらねでる」

で一きる四 一でる。出來るナリ。方言、出るト、出來るトチ、全ク反對ニ用フルヨリ、カク云フナリ。サ

レバ、「月わ、でぎだ」「むつがし問題わ、でぎで、答わ、でなが一つた」「學校にでぎでも、なんにもでなね」トヤウニ云フ。

で一は一る四 一でつばる。出張るナリ。

で一きる四 一される。途切れるナリ。「中あとされだ」

と一づ一ける四 一疊ノ濕氣チ受ケテ、床ノ腐蝕セルコト。

な一ま一わ一つ一る四 一さはづく。波際付クナリ。「水おこはば

のほれる^一下 のびる。伸るチ、伸シタルナリ。「人の前に、のほれた」

のほれる^一下 續く。「素麺を、咽にのほれた」

のびる^一上 柔かくなる。湯漬飯、又は、蕎麥麵類ナ

ドノ、食ヒ時チ過ギテ、柔カニナレヌコト。「めし

あ、——」

のめぐる^一四 又、のめる^一四 のめる。

のる^一四 のびる。伸るノ略。「着物の皺あ、——」

のる^一四 うつる。墨汁、染料ノ、物ニ能クウツルコ

ト。「墨あ——」

はしらぐ^一四 乾く。「ちよりくと、——」

はたがる^一四 廣がる。開クコト。古語ニ、呆ル、ニ

云フ語ナリ。宇治拾遺物語十二ニ、「これを聞く

に、あさましく、目口もはだかりておぼゆ」ト見

ユ。「着物の前あ、——」「簀の足あ、——」 肌明^{ハナアサ}

るノ、あチ略シタルナリ。尙ホ、他動詞はたげるノ

條ヲ見ヨ。

はつちやれる^一下 おどける。方言ニ、出はしやれ

るト云フ語アリ。依テ思フニ、出張りしやれるノ

意ニシテ、其ノ出ヲ略シ、之チ促メテ、右ノ如ク、云

ヘルナラン。

はまる^一四 はひる。仲間ニ入ル。「おれも——」

「足袋の、足に——」「戸障子あ、溝に——」ナド、

ハ云ハズ。

はみてぎる^一下 破れ出る。食出ルナリ。餡物ノ皮破

レテ、餡ノ漏レ出ツルヤウノコト。

はなる^一下 目に立つ。映るナリ。「はえだ編た」

はる^一四 ころ。「肩あ——」

ひざる^一上 蠶ノ、發育チ遂ゲテ、熟蠶トナルコト。

「おどめ、——」

ひつこむ^一四 はひる。引込むナリ。室内ニ入ルコ

ト。「うちひつこんでしまつた」早くひつこ

め」

ふどれる^一下 おこる。怒リテ、顔チ膨ラスニヨリテ

云フ。「まだふどれた」

ぶつかる^一四 又、ぶつつかる^一四 わたる。ぶつハ、打

ツコテ、つかるハ、衝クチ、自動詞ニ云ヘルナリ。

「物に——」又、ぶつつつぐトモ云フ。

ふつとぶ^一四 飛ぶ。吹飛ぶノ促音。吹き飛ばさるト

云フベキチ、常ニ、——ト云フ。「風で、家あ、ふーつ

とんだ」

ふてる^一下 される。氣ノソレテ、自暴スルコト、「氣

あ、——」「わづらふ、ふてだ」

ふとる^一四 のびる。太るナリ。「樹あ、——」

へぐる^一四 ころ。干外るノ轉。「板あ、——」

へこむ^一四 ひつこむ。減込むナリ。「物にぶつかつ

て、あだまわ、へこんだ」

はたぎる^一上 放れるノ意ニテ、房々ト、生ト伸ビル

コト。「芽あ、はたぎだ」

ほねびる^一下 あせる。放けるナリ。「色あ、——」

ほたさる^一下 される。放晒れるナリ。「羽織の色

あ、ほたされた」

ほこれる^一下 解ける。「糸あ——」

ほしどれる^一下 ほれる。穿くれるナリ。「土あ、——」

まがりでぎる^一下 能出ルニテ、他ノ家ニ往クコト。

「そのうちに、——」

まどれる^一下 失敗スル。負けるチ、延ベタルナリ。

商法ナドニテ、失敗スルコト。軍ニテ、敗北スルコ

ト。

まどれる^一下 折れしかる。捲れるナリ。「着物あ、

まぐれ

ままたご どもる。吃クニテ、間々鳴クノ意ナリ。

みさびる 又、みたびる。みだれる。亂れるノ

轉。「糸あ、——」

むがさる 緑ヅク。迎ルニテ、縁家ヨリ迎ヘラ

ル、意ナリ。サレバ、要聲ニ通シテ云フ。「だれそ

れあ、——そおた」

むがつぐ 嘔吐ヲ催スコト。辭書ニ、

煩嘔チ、——ト訓マセタリ。

むぐる 小キ物ノ、孔ヨリ潜リ脱クルコ

ト。「芋あ、穴の孔がら、むくつた」

むぐる もぐり込む。「犬あ、縁の下に、むぐりこ

んた」

むぐる 漏る。糞尿ノ、遺脱スルコト。小便あ、つ

ま一つて、むぐりそおた」

むごれる ひとつくりかへる。「樽あ、むぐれだ」

「家あむぐれそおな、風あふぐ」

むごれる むける。くれあ、けノ延音ナレバ、全

ク、剥けるニ同シ。皮ナドノ、剥ケルコト。

むちびる すねる。振れるノ轉。「おぼあ、む

ちげだ」

むる 漏る。もるノ轉。

めめぐる 芋あむ。「種物あ、めめくつた」

める 減るノ轉。容積減マテ、落込ムコ

ト。「墓場のつちあ、めりこんた」

もちやごれる もめる。押搾れるナリ。「衣裳あ、

——」

もつかける 倒れる。本反るノ轉カ。「樹あ、も

つかねた」

もめる 揉める。「そんちあ、——」

もよう たつ。舫ノ轉。もやふハ、むやふノ轉

ナリ。舫ふハ、舟ト舟トヲ繋ギ合スルコト。夫木

集卷六ニ、「かへる春、けふの舟出は、もやひせよ、

なほ住吉の、松蔭にして」トアリ。コレハ、二舟

ヲ并ベテ、カケ止め、タユタヒ遊ブ意ナリ。サレ

バ、少シク時ノ移ルニ、用ヒタルモノナリ。「わま

り、もよわなねらなに來た」

やばる 食物ノ、胃中ニ入りテ、酸敗スルチ、「胸

あ——」ト云フ。

やしなごる 痩セ轉ゲルナリ。「ひ

とあ、やしなごころけだ」

やたかる いやがる。やハ、否ノや。たハ、助辭

ニシテ、食ひたがる、見たがるナドノだニ同シ。而

シテ、形容詞ニハ、單ニかるチ付ケテ、悲しがる、苦

しがるト云ヒ、動詞ニハ、たがるチ付ク。

やしなごる 豫想ト反シテ、不都合ナルコト。「

——だ天氣だ」「今日あ、えしなごて、不天氣だ」

ねたご 嘔吐ヲ催スコト。

よたれる 老いぼれる。跟踏れるナリ。年老イ

テ、歩行ノ、ヨロ／＼スルヨリ云フ。

よちれる 曲る。振れるナリ。ぬねがだあ、——」

よつたがる 又、よつたがさる。寄り集ル。寄

つ集るナリ。

よつたごれる よつばらふ。酔一ツ手續れるナ

リ。

よつつご 寄りつく。寄つ着くナリ。「うちにも

よつつかなね」

わがさる 分家する。「今度、——そおた」

わにる 赤子ノ、見慣レヌ人チ、恐レテ泣クコト。

コノ語チ思フニ、名詞ニ、人わにしるナド云フハ、

ヒトナリシヲ、語根ヲモ迪ラデ、イツシカニ、わにニ轉シ、又、是ヲ活用セルモノナラン。

二、他動詞

あける^{一カ下} 終ふ、又、盡す。上るナリ。「食^ヌね」

「書^クきわけだ」連聲上ヨリ、又、之ヲやけるト云フ。

「食^ヌねやけだ」

あほかす^{四サ} 臧れさす。甘^{アツ}かすナリ。「おぼ^オごお、

」

にき^一やる^{四ラ} 又、に^ニし^シやる^{四ラ} 仰^{オホ}し^シやる。

にき^一やる^{四ラ} 行^イか^カつ^ツし^シやる。に^ニが^ガし^シやるノ、が

しノ約音^ニぎ^キヲ、第二濁音ニ轉シタルナリ。コノ往

き^キやるト云フ語ハ、商人、在村ニテ用フ。序ニ云

フ、行^イケト人ヲ誘^ユフトキハ、に^ニち^チやト云フ。

に^ニび^ビる^{一カ下} 理^リめる。「火^ヒお——」「大根^{ダイコン}お——」

に^ニち^チる^{四ラ} 又、に^ニち^チど^ドる^{四ラ} い^イち^チくる。又、モチヤン

チヤニ、イザクリ廻ヌチ、に^ニち^チりも^モつ^ツか^カね^ネし^シる

ト云フ。に^ニち^チり盛^{モリ}替^{カヘ}爲^メるナリ。

う^ウづ^ツタ 又、ぶ^ブづ^ツタ な^ナげ^ゲる。「石^{イシ}お——」

に^ニか^カも^モす^{四サ} と^トが^ガじ^ジ。拜^イみ^ミ申^シすナリ。「神^{カミ}様^{サマ}お——」

に^ニど^ドる^{四ラ} 腹^{ハラ}立^タつ。

に^ニさ^サね^ネる^{一カ下} 持^モつ。「物^{モノ}お——」「お^オま^マね^ネで^デた^タづ」

に^ニさ^サね^ネる^{一カ下} つ^ツか^カま^マへ^ヘる。「盗^{ヌス}人^{ヒト}お——」「サ^サレ^レハ、鬼

ど^ドつ^ツこ^コノ事^{コト}ヲ、お^オま^マね^ネく^クら^ラこ^コト云フ。

に^ニし^シあ^アげ^ゲる^{一カ下} 責^{ツク}め^メ付^ツけ^ケる。議^ギ論^{ロン}ヲ以^モテ、攻^{ツク}メ^メツク

ルナリ。「お^オし^シい^イね^ネて、人^{ヒト}勢^セお^オし^シあ^アげ^ゲで^デや^ヤつ^ツた」

に^ニし^シい^イね^ネる^{一カ下} 教^{オシ}へ^ヘる。を^オし^シへ^ヘるヲ促^{ツク}メタルナリ。

「お^オし^シい^イね^ネで^デく^クた^タね」「道^{ミチ}お^オし^シい^イね^ネだ」

に^ニし^シよ^ヨる^{四ラ} 折^{オシ}る。押^{オシ}折^シるノ轉。「木^キの枝^{エダ}お^オし^シい^イね^ネ、

よ^ヨつ^ツた」

に^ニた^タる^{四ラ} 折^{オシ}る。折^{オシ}垂^タるノ轉。「腕^{ウデ}お^オた^タつ^ツた」

に^ニつ^ツこ^コど^ドる^{四ラ} な^ナげ^ゲやる。「お^オま^マり、面^{オモ}倒^タな^ナ仕^シ事^ジだ、

が^ガら、お^オつ^ツこ^コど^ドつ^ツた」

に^ニつ^ツば^バく^クす^{四サ} 見^ミ外^ゲす。追^オつ^ツ外^ゲすナリ。「お^オぼ^オご

お^オ、お^オつ^ツば^バく^クした」

に^ニつ^ツば^バな^ナす^{四サ} つ^ツつ^ツば^バな^ナす。追^オつ^ツ放^ハすナリ。

に^ニや^ヤす^{四サ} は^ハや^ヤす。「巖^{イハ}お——」

に^ニや^ヤす^{四サ} 濟^イす。終^オへ^ヘさ^サすノ義。「仕^シ事^ジお^オ、お^オや^ヤした」

か^カづ^ヅく^{四カ} 又、か^カづ^ヅね^ネる^{一カ下} か^カた^タげ^ゲる。又、か^カく。

か^カづ^ヅく^{四カ}、肩^カぐ。か^カづ^ヅね^ネるは、肩^カね^ネるナリ。

か^カづ^ヅか^カ か^カぶ^ブる。被^カぐナリ。「漬^ヅ物^{モノ}お^オ、水^{ミヅ}う^ウか^カづ^ヅね

た」

か^カづ^ヅび^ビる^{一カ下} ぬ^ヌり^リつ^ツけ^ケる。か^カご^ゴつ^ツけ^ケるナリ。「わ^ワる^ルね

こ^コど^ドし^シて、人^{ヒト}に——」

か^カつ^ツこ^コす^{四サ} か^カき^キこ^コす^スる。抓^カき^キ擦^スるノ轉。「手^テね、か

つ^ツこ^コした」

か^カつ^ツこ^コな^ナす^{四サ} け^ケな^ナす。播^ハき^キこ^コな^ナすナリ。又、單^ニ、

こ^コな^ナすトモ云フ。

か^カつ^ツち^チま^マる^{四ラ} む^ムし^シる。抓^カき^キち^チま^マるナリ。「か^カさ^サび

た、か^カつ^ツち^チま^マつ^ツた」

か^カつ^ツち^チや^ヤら^ラぬ^ヌげ^ゲる^{一カ下} 又、か^カつ^ツち^チや^ヤぬ^ヌげ^ゲる^{一カ下}

押^{オシ}し^シ除^ノけ^ケる。播^ハき^キ除^ノけ^ケるノ轉ナリ。「人^{ヒト}お、か^カつ

ち^チや^ヤら^ラぬ^ヌげ^ゲで、は^ハね^ネつ^ツて^テね^ネつ^ツた」

か^カつ^ツつ^ツあ^アは^ハど^ドか^カ 又、か^カつ^ツつ^ツあ^アど^ドか^カ ひ^ヒつ^ツか^カく。

抓^カき^キ割^サくナリ。

か^カつ^ツと^トる^{四ラ} な^ナぐ^グり^リと^トる。抓^カき^キ取^ツるナリ。「人^{ヒト}の物

お、か^カつ^ツと^トつ^ツた」

か^カぶ^ブり^リづ^ヅく^{四カ} 又、か^カぶ^ブづ^ヅど^ドか^カ か^カみ^ミつ^ツく。か^カぶ^ブり、

ふ^フり^リハ、び^ビノ延^ノ音^{オン}ニテ、び^ビハ、み^ミノ通^ノ韻^{オン}、即^チチ、か^カみ

つ^ツくナリ。又、か^カぶ^ブづ^ヅぐ^グハ、り^リノ音^{オン}ヲ、略^シシタルナ

リ。

かばう^四 保護スル。カバウ。回護^{カバ}スノ轉。

かもち^四 世話やく。かばふノ轉。「そかに、かも
わなぐどもえは」

かんまわす^四 かしまはす。掻き廻すナリ。液體を
攪拌スルコト。又、自分一人ニテ、專横ニ、取量^フ
コト。「ひとりて、」

からかど^四 束ネ卷ク。騰^{チヤ}クナリ。柴ノ如キ物ヲ、
繩ナドニテ、グル／＼ト、卷キ付クルナリ。又、着
物ノ焼孔ナドヲ、補綴スルコト。

きかど^四 又、きつつかど^四 きつつかく。切り缺クナ
リ。「燕^{カキ}お、」

ましかげる^一 けしかける。「犬に——」

きつつかど^四 きつつかく。切り小間裂クナリ。「紙
お、」

くらひ 閉ぢる。食ふナリ。「目お——」「口お——」

くすぐる^四 補綴スル。「窓お——」「足袋お——」

又、名詞ニシテ、くすぐり貼リナド云フ。
くすねる^一 ぐすねる。窓取^{カキ}スルナリ。

くだだめづげる^一 叱りつける。朽め^ク付けるナリ。
言ヒ朽ス義ナリ。「ばがなぞどおしるがら、くだだ
めづげだ」

くつつける^一 又、くつつける^一 付ける。寄付^{ヨシツ}け
るナリ。糊ナドニテ、物ヲ着ケ合スルコト。又、男女
ヲ媒介シテ、結婚セシムルコト。

くつつかす^四 くすぐる。くすぐるハ、掘^コぐるニ
テ、く／＼つかすハ、くすがすヲ、促メテ云ヘルナ
リ。

くふねる^一 塞^コグ。前ノくらハ、直接ニシテ、是
ハ、間接トモ云フベキカ。食^クえるノ轉。彼ノ、据^コえ、
植^ウゑノ二語ハ、口語全ク此ノ語ト同ク。而シテ、据

ゑ植^ウゑノ自動詞ハ、すわる、うわるナルガ如ク、此
ノ語ノ自動詞ハ、くわるナリ。

ぐちす^四 怠る。なまける。ぐち／＼、怠ルヨリ云
フ。

くらいつける^一 ながる。食はせつくる意ナリ。又、
か／＼く／＼つけるト云フ。

くれる^一 下 やる。「くれである」「あまりまかなわが
ら、ただねでく／＼つちや」土佐日記ニ、「米酒しば
／＼くる。梶取けしあめしからず」トアル、即チ、
是ナリ。

くれる^一 下 もらふ。「おれに遣お、おし／＼でく／＼
ぢや」

けつ／＼づる^四 削る。削折^{ケツ}づるナリ。折づるハ、折
ぎて取るナリ。

けやす^四 又、きやす^四 消す。燃^ヒすヲ、もやすト云

フカ如ク、消^クすヲ、けやすト云フ。きやすハ、き
ぬすノ約音ナリ。

こぎる^四 こぎる。扱^コ切るナリ。直段ヲ引カシムル
コト。

こく^四 こく。掘^コグニテ、草木ヲ、根ナガラニ、地ヨ
リ抜クナリ。「こねてうわる」

こぎど^四 漕^コグ。漕^コ割^コクニテ、水又ハ、積雪中ナ、踏^コ
分クルコト。「川あ——」「雪い——」

こしやう^四 又、こしらう^四 拵^コふ。

こしやど^四 腹立^コの。業勢^コ焼^コクノ轉。仙臺地方ニ
テハ、こせ／＼つばらやくト云ヒ。越後ニテハ、こお
やくト云フ。

こなす^四 けなす。言ヒ賤^コスナリ。

こなす^四 こまかくしる。木ノ枝ナド、小サク、切り
刻^キムナリ。

こなす^四 課す。前條ノ語ヨリ出デ、力能ク爲シ

果スナリ。「し」「食ねこなした」

こみし^一ねる^{サ下} こまらせる。こまらせるノ轉ナル

ベシ。「人お——」

ころばす^四 ころがす。倒す。轉ばすナリ。

ざんろ^一しる^{サ上} 譏訴爲るナリ。「人お——」

さんたす^四 させる。させ出すナリ。「おぼこに、小

便——」

し^一ねがす^四 いらがす。急すナリ。

し^一ねかむ^四 僻む。文辭に、嘖むハ、叱ル意ナリ。

方言ハ、猜^ニ僻^ニムニ用フ。名詞ニ、し^一ねかみ根性

ナド云フ。

し^一ねづく^四 催促スル。責付クノ略ナリ。又、し

ねわる^四ト云フ。

し^一ねびる^四 びる。呵責スルナリ。

しづげる^一 一ツノ意ハ、躡^{シツケ}スルコト、「子供お

——今一ツノ意ハ、畑ニ植付クルコト、「畑に

——」

し^一とねる^一 濕シ挺ル。濕挺るナリ。「粉お——」

し^一とぼらし^一ねる^一 濕ラス。粉ノ如キモノチ、水

氣チ送りテ、濕ラスナリ。「粉お——」

し^一なぐ^四 打つ。しハ、しだる、しなゆナドノしニ

テ、萎ヤカナル條チ云フ。なくハ、薙ぐニテ、藤

ノ鞭ナドニテ、打ツヤウノコト。「しなきづげる」

し^一ねる^四 抓る。拈るノ訛。

し^一んし^一ねる^一 又、し^一ねんし^一ねる^一 上る。進

せるナリ。「お菓子——」

じ^一やらす^四 又、じ^一やらがす^四 戯レサス。

し^一やる^四 去る。のく。去るノ拗音。「そごしやれ」

し^一る^一 する。爲るナリ。總ニテ、漢字音及ビ名詞

ノ下ニ添ヘテ、動詞ニ使用スルキハ、しるト云ヒ

マ、するト云ハズ。「勉強——」「運動——」

ずやる^四 摺遣るノ略。ナマケテオクテスナリ。「仕

事ね——」

す^一ねる^一 又、す^一し^一ねる^一 餒る。「めしめ、すえ

だ——」

ずらす^四 すり動かす。重大ノ物ナド、少シ摺リ動

スコト。又、ずらし^一ねる^一ト云フ。

うたす^四 そこねる。損すナリ。「書物お——」「着

物おそたした」

う^一ねん^一しる^一 訴へる。訴人爲るナリ。人ノ悪チ、

摘發スルコト。「人お——」「おれおとご、そにん

した」

だす^四 でかす。方言ハ、でる、でさる、だす、でかす

ノ區別ナシ。「詭^レだ物、いつまでだす」

ただ^一 ながる。「人お——」

た^一でる^一 下^一 する。下駄の緒お——」

た^一でる^一 下^一 しめる。「戸を——」

た^一でる^一 下^一 盡す。切る。畢ル意ナリ。「食いたでら

んに「やね」「着たでらんに「やね」「見たでらんに

やね」以上ノ如ク、否定ニノミ云フ。

た^一どがす^四 解かす、手解かすナリ。亂レタル糸チ

解クコト。

たま^一かす^四 驚かす。魂消さすノ、げさチ促メテ、云

ヘルモノナリ。「人お——」

たん^一ねる^一 下^一 尋ねる。たづねるノ訛。

ち^一ち^一ごめる^一 下^一 縮める。縮込めるナリ。「足い、ちち

ごめだ」

ち^一よ^一ぐる^一 又、ち^一よろがす^四 ばがにしる。人チ

掬^レヒテ、愚弄スルコト。

つかす^{四サ} 云ふ。吐かすナリ。云フト云フコトナ、極メテ、悪シザマニ云フ語。「なに——」

つけこむ^{四マ} 子供ノ亂暴惡戯ヲ怒リテ、其ノ父兄ナドニ、直談ニ、告グ込ムコト。名詞ニ、つけこみに來たナド云フ。

ついつこむ^{四マ} 突包^{ツツ}ニテ、打混ズルコトナリ。「善^{ツツ}いなも、わるえなも。——」

ついつこむ^{四マ} もぐり込む。突潜^{ツツ}るノ轉。「床の中^{ツツ}に、——」

ついつたでる^{一タ下} そののかす。人ナ良キ様ニ云ヒテ、遂ニ、其ノ心ニナラシムルコト。「おえづら、ついつたでだ」「人お、——」

つぼがす^{四サ} 沈める。沈め投かすノ略。「川んなが^{ツツ}に、——」

てはる^{四ラ} 手廣シスル。商賣ナド、手廣ク營ムコト。

「随分、てばつた」

どつつかねす^{四サ} 奪ふ。取戻す。「人のものお、——」

「くれだものお、どつつかえした」

どつくりかねす^{四サ} ひいつくりかへす。取繰返すナリ。

どつばつす^{四サ} 取外す。「どつばつして、おどした」

總ヘテ、過ナルヲ、——ト云フ。名詞トシテハ、

「どつばつしごと」又「てばつし事」ト云フ。

なきる^{四ラ} 斜^{ナキ}に曲げる。斜切^{ナキ}るナリ。「なきいつて裁^{ナキ}つ」

なす^{四サ} 生む。生すナリ。「おぼごなした」名詞ニシテ、産事ナ、「おぼごなし」ト云フ。

なす^{四サ} 返す。「借金——」

なりなる^{一タ下} 斜側^{ナリ}へるナリ。ハスニスルコト。「なにで切る」

ぬかす^{四サ} つかすニ同シ。抜クノ延言ニシテ、ぬくハ、吐クノ意ナリ。「ちごお——」

ぬだくる^{四ラ} 塗りつける。塗手^{ヌダ}練るナリ。「墨お——」又、ぬいつたくるト云フ。

ねうごほる^{四ラ} 本ヲ推ス。根底^{ネウ}掘るナリ。ウルサク、事ノ本ヲ推スコト。「ねごごはいつて聞ぐ」「——奴^ネた」

のしあげる^{一カ下} ふり上げる。申し揚げるナリ。棒^{ノシ}お——

のす^{四サ} 申し揚げる。重キ物ヲ、手ニテ扛舉スルコト。「物お——」

のうこむ^{四マ} のぞきこむ。覗き込むノ、きヲ略シタルナリ。「窓がら——」「人のうちい、のぞこんた」

はきる^{四ラ} 仲間ヨリ脱ク。剝^{ハキ}るナリ。「人お——」

はくす^{四サ} はづす。外すナリ。「雑魚^{ハク}た、釣り——」

「逃げはくした」

はぐる^{四ラ} はぐ。被服、疊ナドヲ、剝ギ上グルナリ。

「ふとんね——」

はしらかす^{四サ} 炙^{ハシ}リカクカス。「海苔^{ハシ}ね——」

はだご^{四カ} 掃ふ。掃くナリ。「ちりお——」

はだがる^{一カ下} 開く。肌開^{ハダ}けるノ、あヲ略シタルナリ。「足お——」

はだづ^{四マ} 始める。端立^{ハダ}つナリ。「仕事お——」物ノ出始^{ハダ}メテ、出はたちト云フ。「筈^{ハダ}の——」

はたる^{四ラ} わだる。「菓子お——」

はいつきる^{四ラ} 張切^{ハイツ}ノ促音ニテ断切^{ハイツ}ルコト。「川お——」

はづれる^{一タ下} はつる。脱解^{ハヅ}ノ字ヲ用ヒ、織物ナドノ端ヨリ、糸ノ脱ケ離ル、コト。

はなねる^{一タ下} 始める。はなハ、物事ノ最モ先ナル所

ナレバ、之ヲ活用セシメタルモノナリ。端へるノ
轉。「仕事お——」「普請はなえだ」

はねくじびる^一カ下 跳ね廻る。シドケナクハチ廻リ
テ、作法ヲ崩スナリ。「あまり——な」

はめる^一下 入れる。仲間ニ入ル。他ニ、之ノ語ヲ
使用スル場合ナシ。「おまえも——」「われもはめ
でくる」

はよう^四 ばひあふ。奪合ふノラチ略シテ、轉シテ
ルモノナリ。「——な」「ばよわな奴で見ろ」

はりごむ^四 叱りつける。聲ヲ張り揚ゲテ、叱ルニ
ヨリテ云フ。「子供お——」

はりたす^四 押出す。張出すニテ、諸事大様ニ振舞
フコト。「あそこあ、——うぢた」

ひつかまねる^一下 氣取る。引掛へるナリ。「ひいつ
かまえて、ゆわなえ」又、重々シク構フルニ云フ。

「中々、ひいつかまえた人た」

ひいつこぬぐ^四 引抜く。引掘抜くナリ。樹木ナド、
引抜クコト。「樹お——」

ひいつこます^四 引つこめる。ひいつこめさすノ、め
さチ約メテマトシ、ひいつこますトシタルナリ。「手
え、——」

ひいつたきる^四 又、ひいつきる^四 引絶切る、又、引
切るナリ。「糸お——」

ひいつとめる^一下 引繞めるノ轉。樹ノ枝チ、引き繞
ムルコト。「枝あ、ひいつとめで、おつた」

ひいつばる^四 着る。引張るナリ。チョット、着用
スルコト。「羽織お——」

ひんのほす^四 引延すナリ。
はんのべる^一下 引延べるナリ。
ひめる^一下 ねる。編織^{ヒメ}米ノ煮ニスルコト。「糊お

「

ひよたける^一カ下 おどける。刺氣^{ヘヤ}るナリ。刺輕^{ヘヤ}ニシ
テ、オドケルコト。「何——ッ」

ぶさぶさ^四 借り倒ス。無沙汰^{アサ}こくニテ、こくハ、う
そこくナドノ、こくナリ。期日ヲ約シテ、其ノ日ニ

至リテ、不問ニ措クナリ。「わらづあ、ぶさこねだ」
ぶつける^一下 又、ぶつつける^一カ下 打付けるノ轉。額^{ヒタ}

ぶつこす^四 又、ぼつこす^四 こはす。打毀すノ轉。
「茶碗お、ぶつこした」からたお、——」

ぶつつあばぐ^四 ひきぶく。引裂くナリ。書物^{ヒツ}ふ
つつあばねた

ぶまねる^一下 又、ぶんまねる^一下 ふむ。踏むノ延音。
「着物の前、ぶまねた」足のふまねとどろあな」

ぶんかたす^四 踏返すナリ。「はぎものぶんかたして

緒おきつた

ふんこぐる^四 踏み除く。踏み括^{フミ}るノ轉。「ふとん——」
ふんたきる^四 踏み切る。踏絶^{フミ}切るナリ。「下駄の

緒、ふんたきつた」
ぶんなぐる^四 ながる。打薙^{ウチ}ぐるノ轉。「人お——」

ほう^四 追ふ。おふノ轉。「人おほつた」
ほがす^四 投げつける。投^ホかすナリ。「ほがしてやん

そ」ほがしつける」
ほけすりがたす^四 ほげ返す。穿^ホけ摺^ズり返すナリ。
「箱のながあ、——」

ほける^一下 ほる。穿^ホけるナリ。「火お——」
ほさぐ^四 云ふ。吠叫^ホくナリ。つかす、ぬがすナド

ト同マク、云フコト云フコトチ、極メテ、悪シザマニ
云フ語。「何ほさねた」

ほしがる^四 又、ほしる^四 ほる。穿^ホくる、又、穿^ホる

ナリ。机——「鼻孔お、——」

ほつきあるどカ 騒ぎ歩く。何ほつきあるのであるッ

ほつごころ 追拂ふ。追括るナリ。人お——

ほつごころ 押付けてやる。我身ニ負ッベキコト

チ、押付ケテ、他人ニヤルナリ。めんどおなごた
から、ほつごころつてやつた

ほつたごる 追拂ふ。追手繰るノ轉。人お——

ほごカ 解く。結目お——

ほなる なる。吼鳴るノ略濁。へだ歌お、——

ぼんだす 追ひ出す。人お——

ほろどカ 振ひ落す。散くナリ。着物ニ掛レル塵ナ

ドチ、振ヒ落スナリ。羽織お——又、名詞ニシテ、
枝ヲ振ヒテ、栗ノ實ヲ落スヲ、栗ほろど云フ。

まにすごどカ へつらふ。まはすハ、前ニ言ヘリ。
こくハ、ちそこくナドノこくニテ、爲シ行フナリ。

「わねづわ、——」

まがる をかむ。屈リテ、拜ムヨリ云フ。

まぐる まく又、まぐる。捲くるナリ。「着物お、

まぐりごむ」薄縁お——枕草子ニ、にくきもの、
居も定らず、ひろめきて、狩衣の前、しもさまに、ま
くり入れてもゐるか、し、トアリ。

まびる さまる。胡麻に——

まよう 償ふ。間結ふノ轉。元ノ品ナラデ、似ッ

ル物ヲ以テ、償フ故ニ、僅カニ 其ノ間ヲ結ヒ繋グ
ナリ。萬葉集卷十一ニ、「白袴の、袖はまよひぬ、吾
妹子が、家のわたりを、やまらずふりしに」トアル間

結フハ、はつれ離る、ナリ。方言ハ、間ヲ連ネ結フ
意ニテ、元ノ品ナラデモ、間ニ合ハスルナリ。金鏡

ニテ償フチモ、——ト云フ。「まよつてやつた」
まよう 迷ふ。道に——

まるどカ 束ねる。丸くナリ。丸め括る意。薪お——

まるびる 束ねる。丸くニ同マ。薪——

みがびる 見當る。見懸けるナリ。「みがげだ事

わなは「この間——」

みがすめる 輕蔑スル。見掠めるナリ。「人お——

みぐびる 悔る。見懸るニテ見浅キ意。人お——

みさる なる。召さるノ轉。なに——ッ」命令

ニハ、みさわト云フ。召されノ轉ナリ。
みしわづらがす 見せびらがす。見せ散かすノ

轉。
みくす 漏す。潜すナリ。大小便ヲ漏スニ限リ云

フ。
むぐる ひとつりかへす。足袋手袋ノ類ヲ、裡返

シニスルヤウノコト。剃るナリ。是ヨリ、總ベテ、
顛倒スルコトニ用フ。即チ、「盃むくつた」「火鉢
おむくつた」ノ如シ。

むぐる 轉ジテヤル。甲ヨリ贈ラレタル物ヲ、乙

ニ贈ルトキ、之ヲ——ト云フ。意ハ、前條ノ語ニ同

マ。このもらつたものゝ、むぐりた

むしる 引抜く。毛お——「草お——」

むちる 曲る。振るノ轉。「道おむくつてわくつた」

むつる 飾る。飾すナリ。「わねづわ、ひとね、め

めがす 飾すナリ。「わねづわ、ひとね、め

がした」

もちやぐる 揉む。紙お——「わしよお、もち

もつかねす 倒す。本反すノ轉。樽お、——「樹

お、もつかねした」

もどす^四 吐く。反す。戻すナリ。「もとしそおにな
る」

もめくち^一やらに^一しる^上 モチヤクチヤニスル。
「書物お、——」

やど^四 假リニ移植ス。「苗物お——」

ゆす^四 又、すす^四 漉^スぐ。ゆす^クハ、振り漉^スぐ
意。「しーんたぐ物お、——」

ゆつ^一ける^{カ下} ひひつける。云ひ着けるチ、ゆひつけ
るト訛リ、又、之チゆつけるト訛リタルナリ。小兒

ノセル悪戯チ、其ノ父母ニ云ヒ告グルコト。「わる
え事みさると、——から」

ゆつ^一ける^{カ下} 結^ユけるナリ。「帯て——」

ゆり^一ごす^四 斜^ユニスル。振り越^ユすナリ。衣服チ裁縫
スルトキナド、云フ語ナリ。「少し——」

え^一くも^四 彩色スル。く^クひ角^クぐ^クむ^ク、芽^クぐ^クむ^ク、みづは

ぐむナドノぐむニテ、發生スル様ノ意ナリ。サレ
バ、繪チ彩色シテ、漸次^{セシ}完カラシムル義ナリ。繪ノ
具チハ、此ノ語ノ連用言チ用ヒテ、えく^クみ^クト云フ。

よ^一こす^四 おこす。越^ユすノ轉。「書面——」さ^一ねつ^一よ
ご^一し^一ね^一「借りだもの、よごさなね」

よ^一こす^四 汚^スす。着物よこした」

よし^一ね^一る^上 上^アる。寄せるナリ。「人お内に——」

よし^一ね^一る^上 下^{カ下} 入^イれる。寄せるナリ。迎へ入ル、コ
ト。「お——」

よ^一ち^一る^四 曲^カげる。すこ^一おし、よち^一つて、道^一つ^一け^一だ」

よ^一な^一ける^一 陶^タ汰スル。擇^チリ^一投^一げるノ、り^一チ^一略^一シ^一テ
ルナリ。飯米ナドニ、砂石等ノ混入セルトキ、水チ

入^イレテ、之チ攪^カ拌^一シ、砂石チ沈^シメテ、之チ除^ノ去^一スル
コト。「砂^一わ^一る^一が^一ら、よ^一な^一け^一だ」

よ^一ば^一る^四 よ^一ぶ。よ^一ば^一つても^一こ^一な^一ね^一「向^一お^一に、ね^一く

どど、よ^一ば^一りが^一ね^一した」斯^一ノ^一如^一ク、皆^一よ^一ば^一る^一ト云ヒ
テ、よ^一ぶ^一ト云ハス。よ^一ぶ^一ト云ハ、次^一ノ^一語^一トナル。

よ^一ぶ^一い^一 招^カく。「振^一舞^一に^一人^一お——」

よ^一る^四 上^アる。寄^クるナリ。「こ^一ど^一わ^一り^一な^一し^一に、人^一の^一う
ぢ^一に^一よ^一つ^一た」

り^一ぎ^一む^四 息^イむ。力^リひナリ。即^チチ、息^イむコト。「う^一ん
と^一り^一ぎ^一ん^一た」

わ^一が^一す^四 盛^シニオドケル。ガヤノト、オドケ^ケ狂^ケフ
様^一ノ、湯^一ノ^一沸^一ク^一ガ^一如^一キ^一ニ^一ヨ^一リ^一テ^一云^一フ^一カ。「ひ^一と^一ね^一わ
が^一す^一な^一わ」

第四、形容詞

一、性質形状及ビ度合

あ^一で^一こ^一も^一な^一ね^一ッ 當^ア事^{コト}も^一無^クき^一ノ^一轉。「——こ^一ど^一、ゆ^一
つ^一て^一る^一わ」

あ^一づ^一ぶ^一ぐ^一れ^一た^一ね^一ッ 衣^イ服^{フク}ナドニ、多^タク^一綿^{ワタ}チ^一入^イレ^レテ、厚

ク膨^フラ^一ル^一状。「この衣^一装^一わ、——」

あ^一ま^一ね^一ク 痲^マ鈍^一。人^一柄^一良^一ク^一テ、辛^一ク^一無^一キ^一ニ^一ヨ^一リ^一テ^一云
フ。「——や^一つ^一た」

ね^一が^一ね^一ク 嚴^ガき^一ノ^一轉。「いら^一い。大^オした^一。——、お^一し^一
ね^一わ^一に^一な^一つ^一て」

ね^一み^一しい^一ク ち^一や。甚^イシ^一キ^一ナ^一リ。い^一み^一じ^一き^一ハ、凡^レベ
テ、ス^一グ^一レ^一タル^一コト^一チ^一云^一フ^一チ、方^ハ言^ハハ、し^一ノ^一音^一チ^一清
ミテ、甚^シダ、食^シ物^一ニ^一吝^シケ^一ナル^一コ^一ノ^一ミ^一用^一ヒ^一テ、「——切
り^一よ^一お^一た」——盛^シり^一が^一だ^一た」ナド云フ。

ね^一ね^一が^一ね^一ね^一ッ も^一ら^一の^一な^一い。減^ヘり^一目^一の^一見^一ね^一る。文^一語
ニ^一テ^一ハ、「身^一ノ^一程^一ニ^一過^一グ」ト云フ意^一ニ^一テ、彼^一ノ^一千^一載^一集
ナル、僧^一慈^一園^一ノ^一歌^一ニ、お^一ほ^一け^一な^一く、浮^一世^一の^一民^一に、お^一ほ
ふ^一か^一な^一ト^一アル^一ハ、此^一ノ^一意^一ナ^一リ。方^ハ言^ハハ、聊^一カ、之^一チ
轉^メタル^一ナ^一リ。即^チチ、物^一ノ^一粗^一惡^一ニ^一シ^一テ、減^ヘり^一目^一ノ^一見
ユル^一ニ^一用^一フ。「——炭^一た」

ねんなし^シ 又、ねんなし^ク コノ語ノ活用、不完全ニテ、同じ事、同じ物ナドノ如ク、合成名詞ニ用フル場合、及び、同じに習つた、同じにゐるぐナドノ如ク、副詞ニ用フル場合ノ外、用例ナシ。

ねもだね^ク 重^シ。――衣裳^ヲ。

かねね^ク 弱^シ。身體ノ弱キヲ云フ。かねなくて、こまる。――人^ヲ。又、轉シテ、不十分ノ意ニ用フ。

「米の搗ぎ方^ヲ、――がら、色^ハ黒^ク」教^シねがだわ、――がら、な^らね。

かがらしい^ク うるさい。落^チントスル鼻^ノ液^ヲ、嘔^レリ込^ミテ、ウルサク、氣懸^リナル如キ狀ヲ云フ。――

「――」

がつてんしね^ク 屈^シな^ね。合^ハ點^シ無^イナリ。辛抱^シテ、屈^セユコト。――やづた。又、人^ヲ勵^シテハ、――がつてんし^んなト云フ。

「――」

おした

けたましい^シ 仰^山。――音^{おた}で。――装束

おした

けわしい^ク しげしい。人^ノ通^リあ、――町^ヲ。

こどろごね^ク 限^リナキ困^コツタ事。取返^シノツカヌ悪^イ事。事^コ底^コ無^イナリ。――、わ^るねごん^ヲ。――

こどましい^ク 又、このま^{しい}シ 見^事。好^マし^さナリ。――物^お澤^山下^つて。

さかくしい^ク やかましい。元^ハ、賢^サ々^シヨリ起^リテ、小兒^ノ、ウルサクヤカマシキコトニ轉^用ス。

又ハ、機織^ナドノ音^ノ、ヤカマシキニモ云フ。――

やづた

さぐね^ク 又、さぐ^ねク 脆^サイナリ。

さだあな^ねク 困^つた。――ごどした

さつびらこ^ねク 又、さつびらこ^ねク すばや^い。

「――やづた」又、味^ノ淡^泊ナルヲモ、さつびらこ

かるこ^ねク 輕^シ。

きこわちな^ねク 強^シ。さ^ハ堅^キ意^ニテ、方^言、嚴^格ナルヲ、さ^かだト云ヒ、鞞^ヤカナヲ物^ヲ、さんぼ

おト云ヒ、強^ク意^見ヲ保^テテ論^ズルヲ、さし^ーやば

ト云フ。こわ^ハ、強^キナリ。ちな^ハ、し^ないノ

連^聲上^ヨリノ轉^ニ進^モつかな^ね。又^ハ、苦

しいヲ、く^ーつち^いト云フ類^ノ如^シ。又、コノ語^ヲ、

單^ニ、こわちな^ね、或^ハ、さこちな^ねト云フ。乾^物乾

魚^ナドノ、堅^ク強^キヲ云フ。

きづね^ク いら^い。甚^シキ意[。]――御^ぶさ^だ又、荒

ク強^キヲ云フ。小兒^ノ、怪^我ナドヲ慰^メントテ、

「――」ト云フ。

きざね^ク 氣^重。無^愛想^{ナル}體[。]――奴^ヲ。

くどね^ク しつこ^い。口^説イ^ノ轉^ナリ。――人^ヲ。

「酒^ヲ」

「酒^ヲ」

ねト云フ。

あま^あしい^ク アマリ、アラハニ見^エテ、イヤナル

感^ノ起^ルホドノ物[。]あ^まりお^ーつ^さくて、――

じ^ーひ^ねね^ク 止^むない。是^非ヲ問^フ違^ナキ意[。]――

「用^事」

し^ーわ^{しい}ク 忙^しシ。心^ノ忙^シキコト。「氣^の――

――奴^ヲ」多^忙ノ事^ニハ云^ハズ。

し^ども^なね^ク 又、し^どあ^なね^ク 又、し^どら^ちも^なね

ク又、こ^しと^もな^ねク 又、し^たら^なね^ク 又、ふ^したら

な。だ^らし^ない。不^整頓[。]不^始末[。]し^ども^なね^ハ、

檢^束も^なさ^ノ、け^チ略^シ、さ^チい^ニ轉^シ、次^ニ、ねト

シタルナリ。し^たら^なね^モ、檢^束無^イナリ。(東^京

邊^ニテ、だ^らし^ないト云フハ、コノ語^ノ顛^倒ニテ、

例^ノ茶^釜ヲ、ち^ーや^まがト云フガ如^シ。)近^松門^左衛

門^ノ院^本ニ、「ま^だ日^數經^ぬ旅^さへも 思^ひや^つれ

のしどもなや、又、「われながらしどもなや、」コノ
二ツノ意ハ、亂リガハシク、正体ナキ様ナリ。——
うぢた。又、轉シテ、素性モ分ラヌ、ウロンナル人物
ヲ云フ。「しどもな奴ヲ寄し、にて……」

ずるにク 怠惰。「やづた」横着又ハ狡猾ノ意ニ
ハ用ヒズ。
どあねなれク 又、どわねなれク 粘リ氣ナシ。わね
そなねノ轉倒ナルベシ。

しなこれク 鞞強シノ略。

たげあたたなれク 取返サレナイ。限リナキ失錯。

しやねあなれク 遠慮ナク、無用ノ事ヲ振舞フコ
ト。才故は無シナルベシ。又、こしやねこわなね
ト云フ。

だたわねあなれク 區別ナシ。立分は無イノ轉。物
ナ柔ヲカニ煮テ、區別ナク、混ヲタルナドニ云フ。

じやみくらさねク 赤子ノ、不機嫌ニテ、泣キ勝ナル
コト。方言、泣クヲ、じやみるト云フ。但シ、子供
ニ限ル。

ちよろこねク 手近イ。「あんな、——んて、ま
んにやね」又、ちよろこなねト云フ。又、略シテ
ちよろねト云フ。總ベテ、ちよト云フ音ヲ、冠フ
セタル語ハ、事物、時間等ノ短小、輕微、又ハ、
苟且、不十分ナルヲ表スニ用フ。左ニ數例ヲ舉
グ。

しわねク けち。吝シナリ。

ちよつと。ちよつこ。ちよつこり。

すこねク 敏捷。すばしこシ。——やづた「こすいナ
轉倒シタルナリ。

ちよつと。ちよつこ。ちよつこり。

すつばねク すばやシ。

ちよつと。ちよつこ。ちよつこり。

時々「あの人あ、——とくる」以上ハ、時間ノ短小ナ
ルヲ云フ。ちよんまげ。ちよぼくち。ちよーつ

つりねク 強い。「風あふぐ」

かね。ちよこさね 以上ハ、物ノ細微ナルヲ云フ。

づぶどねク 太い。大膽ナルコト。づハ、首辭。

ちよねら 突然ちよばつと 粉又ハ砂ノ如キ物ヲ、——
おねだちよびらちよびら 酒ナドヲ、少

つぼあかねク 壺ノヤウニ、深キナリ。「茶碗た」
づんつこみしかねク 短い。短キコトヲ、惡シサマニ
云フ。づんつこモ、首辭。

のむ「ちよこらく」 赤子ノ、危
ちよろーりと物ノ小
おみやげものわ、——しておがしい」以上ハ、事物
ノ急速、不十分ナルヲ形容スル副詞。ちよろがす。

つるたがねク 高い。スリト高い。つるモ首辭。

ちよぐる 以上二語ハ、人ちよろづぐ 落付カズ、睡
よおす 此ノ語ハ、山形市附近ノ方言ナレド、意
物ヲ、輕易ニ取扱フ意ノ動詞。

てはあつかねク 又、てはのつかねク 手はおへ
ぬ。手端の付か無シナリ。「——やづた」

ちよろくしいク 着物ノ、不相應ニ短小ニシテ、
見苦シキコト。「このわしよ表さるど、——」又、
チヨロ〜シテサルサイコト。「——やづたでわ」

どろろねク 殷紅。黒ミガ、リタル赤色ナリ。

ちよろくしいク 着物ノ、不相應ニ短小ニシテ、
見苦シキコト。「このわしよ表さるど、——」又、
チヨロ〜シテサルサイコト。「——やづたでわ」

どてづもなねク 又、どてづさつつかねもなねク 途轍
も無い、又、途轍三界も無いナリ。途轍無シトハ、

跡方ナキコトナレドモ、方言ハ、然ラズ。際限モナ
 キ意ナリ。〇「——、わるねごとした」途方もなねモ、
 同意ニ用フ。サレドモ、途方に暮れたト云フトキ
 ハ、行方ニ迷ヒタルコトニテ、普通語ニ同シ。
 どんた。又、とんな 意外ニ大シクノ意。〇「——御厄
 介に、なり申して、御笑止であつたし」
 なつこねッ 馴々しい。懐こいナリ。〇「おぼこた」
 にいだたねッ きつぱりしなね。物ノ煮エ立ッ
 トキハ、陽氣ニシテ盛ナリ。人ノ不活潑ニシテ、陰
 氣ナルニ云フ。〇「——やづた」
 にづばらしッ 似合しい。似付らしナリ。〇「あま
 り、——もんでなえ」
 ねづねッ 丁寧。根強いノ、よチ脱シテ、根氣善ク働
 クチ云フ。〇「仕事あ——」此ヨリ轉シテ、金銭上、極
 メテ節儉ナルニモ云フ。サレドモ、吝嗇ト云フニ

ハ至ラズ。
 ねつびらこねッ しつこい。粘つびらこいナリ。
 「——やづた」
 びんぼれたねッ 貧乏ラシク、——、ふうしてる」
 ひらべつたねッ 又、ひらたねッ 扁たいナリ。
 ふどぐしいッ 福々しいナリ。福相。〇「——人た」
 ぶすくさねッ 機嫌ワロシ。ブス／＼スルヨリ云フ。
 まがしいッ こまかしい。小間かしいノ、この音チ
 略シタルモノニテ、物事節儉ナルコト。
 まつねッ さたない。〇「——ごとしるッ」拙劣ノ意ニ
 ハ用ヒズ。
 まのろねッ のろい。間鈍さナリ。遅鈍。〇「——やづ
 まるこねッ まるさ。
 みくさねッ 又、みどねッ 見臭い、又、見悪いナリ。
 みたであなねッ 外見ガワロイ。羨タル食物ノ、形

モナク、混シタルナド云フ。
 ひさねッ 減リ目が見エヌ。〇「ちさなわかし葉あ、——
 「——」陋イ意ニハ用ヒズ。
 やぐだねもねッ 無益。役も無い意ナリ。
 やつこねッ 柔らかさ。
 ゆるねッ 愚。締リナク、緩キナリ。又、粥ナドノ、水
 氣多キニモ云フ。〇「——ごどゆら」——おがゆた」
 りごぢねねッ ばがな事。理口無い事ナリ。〇「——
 事、ゆつてるわ」
 わるねッ しゃなす。〇「ごおしてあ、——」しゃなすト
 云フ語ハ、一切用ヒズ。昔、わるねトノミ云フ。
 二、情緒感覺及ヒ其ノ他
 あくらしいッ 見ルタニ、疲レ果ツルホド、大ナルコ
 ト。〇「——おつさしやづた」
 あつげあなねッ 厭氣は無いナリ。物チ消費スル

ニ、忽チニ減ルコト。〇「——炭た」——菓子た」
 あまこねッ 甘さ。甘濃さナリ。
 あまつれたねッ あまたるい。昔、甘葛トテ、葛草ノ
 蔓チ煎シテ、甘味ニ用ヒタリ。今ノ砂糖ノ代用ナ
 リ。サレバ、あまつれハ、あまづらノ轉ニテ、たね
 ハ、痛いの略轉ナリ。即チ、甘味多キニ過ギテ、甘
 タルキナリ。
 ねがらねッ 若荷ノ味ノ如キチ云フ。
 ねぎぼたねッ 又、いきたねッ 息苦しい。ぼハおも
 ノ約轉ニシテ、はれぼたねノ、ぼニ同マク、其ニ重
 たしノ轉ナリ。サレバ、コノ語ハ、息重たしノ轉ナ
 リ。
 ねつきいッ さたないノ童語。さたないハ、物ニ存
 シ。コノ語ハ、感覺ニ屬スルガ如ク、聊カ、區別ナ
 リ。

ねば をかしなノ意。正シキ形容詞ニハアラザレドモ、語性ニ由リテ、コ、ニ擧グ。「人た」「物た」「所」

ねぶくさねク 焦げくさる。燻臭きナリ。飯ノ焦ゲ臭キ、物ノ焦ゲ臭キチ云フ。又、轉シテ、小言ナド云ヒテ、不機嫌ナルニモ云フ。

ねりくさねク 煎リ臭いナリ。食物チ、幾度モ煮テ、一種ノ、火氣チ滯ビタル臭チ云フ。焦ゲ臭キニハ至ラズ。「あまり煮て——」

うだでねク いや。輕重ノ二意アリ。一ハ、唯、いやニ當リ。一ハ、恐シキ意チ含ム。例ヘバ、「人た」ト云フトキハ、單ニ、嫌惡スベキノミナラズ、恐シキ惡人ト云フ意アリ。富士谷成章氏ハ、ありのまゝにゐるべきに、あしき事の、加りたる心ありト、譯解セリ。古今集ナル、「散ると見て、あるべきも

のを、梅の花、うたてにはひの、袖にとまれる」又、後拾遺集ナル、「さもこそは、都の外に、宿りせめ、うたて露けき、草枕かな」トアルナドヨリ、轉用シタルモノナリ。

うつつね うつくしいノ童語。

ねつかねク又、ねぢろしいク 畏い「あ、——」

ねもねねク 大丈夫。危ブム心配ナキコト。

ねやねねク 心細ク悲シ。憂キ目ニ遭ヒテ、使ル人モナキトキノ心。又、漸ク、爲シ遂ケントスル事ノ、妨害ニ遭ヒテ、遂行ノ見込ナキ時ノ心ナドニ言フ。主トシテ、婦人ノ用語。

がつてあねク 請合ハレナイ。合點ノ行カヌコトナリ。「誂はだものあ、何日迄にあ、——」

がつてもねク つまらなね。合點も無いナリ。「——として」「——物、も一つてきて」

がんなねク 我慢が出来ない。たまらない。我慢が無いノ轉。「こんなうだでねごとお見であるわ、——」

きつよねク 心強シ。

まどねク 土當歸、五加チド、味チ云フ。氣鋭きナリ。

くぢいク又、苦しク 苦しシ。苦しシチ促メテくつちトシ、又、くぢト轉ズ。滿腹シタルチ、腹あ——ト云フ。單ニ苦シキコトチ、——トハ云ハズ。

くつつたねク くすくすつたシ。

けくさねク 血臭シ。血行チ、けのまはりト云フ。即チ、神經ノ、經ノ略ナリ。サレバ、血チけト云フ。

けなりいク又、けなるねク 美シシ。氣隠しニヤ。美シガルチ、けなりかるト云フ。

けむたねク けむい。邪魔がるコトニハ云ハズ。こころもどねク又、こころもでねク 不安心。心元無いナリ。

こわねク たるい。疲レテタユキコト。「あ、——」おそろしきコトニハ云ハズ。

さだあねク たまらなシ。「あねづ忘れで来てあ、——」大事な物、ぼつこして、——

さつぴらこねク 淡泊。「このたまりあ、——」しねんねク 無用。詮無いナリ。「そんな、——事おして」

しよつばねク 又、しをしよつばねク しほからシ。しほつばいチ促メテ、しよつばねト云フ。

すかなねク 好かなシ。この編あ——「人た」

すけなねク 張合無シ。愛想ナシ。コノ二意ノ外、淋シキニモ云フコトアリ。「齒あかけたら、口のあだ

りわ、——」
 すつかねク 酸^ス。
 たわねねク 馬鹿ゲタルコト。父兄ノ子弟ノ非行ヲ止ムル時ナド、「そんな——事してわ、わるね」ト云ヒテ制ス。又、酩酊シテ前後ヲ忘却シタルヤウノ状態チ、——さまナドト云フ。又、張合無キニモ云フ。「あの罪人わ、たわねもなく、おぢだそおた」
 たしやがねねク又、たしやがもねねク 正體ナキコト。儘カナラヌチ云フ。「——ゆめた」
 つまらねねク 怪しい。「——やづあきた」又、無益ノ意ニモ用フ。「——ごどおした」
 つめだねク又、つめだねク又、つったねク 冷たいナリ。
 つらつばしねねク 耻しい。面片無^ツナリ。「——がら、人にあわねね」

どんげあねねク 氣わない。食物ノ味淡クシテ、氣ノ無キコト。飲む氣は無^スノ轉カ。
 なさがねねク 用意ナキコト。突然事起リテ、驚キタル時ナド、「——時」又ハ、「なんのなさがもなに」トナド云フ。
 はかりいク又、はこね、齒痒^ハいナリ。はこねハ、在村ノ語。
 はつぼねク こそつばね。濕氣^シナクテ、食ヒニクキ物ナドニ云フ。
 はばつたねク 手足ナドノ、脹レテ、巾ノ増シタル如キ感アルトキ、「手わ——よおた」ト云フ。又、はばたねト云ヒテ、巾ノ廣キニ用フ。「——下駄た」
 はれぼたねク 脹レタルヤウニ、見ユル形容。脹れ重た^オスノ轉。「目の上あ、——」
 ひすかねク 儘エタル食物ノ、味ノ、少シ酸キチ云フ。

ひなぐさねク 火臭い。火の臭いの轉。
 ほろこかねク 後口^{アトコ}ニ、少シ、苦ミチ感ズルコト。
 ましぼねク まばゆ^ス。
 みどもねねク みつともない。猥^オリナル様チヌルコト。なに——ごどしてる
 むつ^ツねク しつこ^ス。むつ^ツ、むつ^ツまし^ツ、むつ^ツ、こねハ、濃^コノ轉。「あま^リ、この煮だものわ、——」
 めこねク又、めんねク 愛^アりしい。萬葉集、山上憶良ガ「反^シ感情^ノ歌^ニ、」^メ妻^ノ子^ノ美^シ禮^シ婆^ノ、米^ノ具^ノ斯^ノ宇^ノ都^ノ久志^ノトアリ。コノめぐしノ轉ヲテ、今ニ存セルナリ。「おまねわ、——なわ」
 めまぐらし^シク めまぐるし^スノ轉。目紛^メはし^シナリ。「——ごどお、しんな」
 もごさねク むご^ス。むご^スイチ、轉ジタルナリ。
 もろかりいク モツ^ツト、痒^カキナリ。

もどがし^シク もどかし。搦^ネシナリ。思フヤウニナラデ、心イラメツコト。拾遺集ニ、「われながら、さももどかしき、心かな、思はぬ人は、などかこひしき」ト見ユ。見^ミでるも——」
 やし^シねあねねク 堪^タハラレヌホド、イヤナルコト。「なんば、かし^カね^カね^カでも、貧乏^ヒて、——」
 やばちいク 濡^ヌレタル被服ノ形容。濕^シつばねト云フヨリモ、一層、強ク濕ヒタルナリ。「この衣裳わ、——」
 ゆるこねク 緩^ユシ。「おびわ、——」
 えこらあるねク 身體内部ノ、抉^キラル、ヤウニ、心地悪^クシキコト。
 えすねク 眼^イノ、痛痒^イキ感。「なんだか、目わ、——」
 らぢもねねク らぢもない。筋次^ツチ促^ツメテ、ら^ツつしト云ヒ、之ヲ轉^ツテ、らちト云フ。筋^ツハ、臟^ツニテ、一

歳ナリ。古へ、功勞ヲ考フルニ、臚ヲ以テス。即チ、臚次ハ、年功ノ次序ナリ。是ヨリ、次第ナキコト、又、不順序ナルコトナ、らちもないト云フ。方言ハ、過分、又ハ、豪氣ナドノ意ニ用フ。「こんなものお頂戴して、——ごんた」——「話た」

第五、助動詞及其ノ接続

し。今ハ、助動詞ノ如ク用フレドモ、元ハ、大人ニテ、其ノラチ略シタル名詞ナリ。精シキコトハ、語典中ニ述ベタルハ、今之ヲ略ス。

しど。し。そおゆうこともあるしと、こおゆうこともある「ナド云フ。コレハ、「そらふ事も有りませするし。かういふ事も有りませ」ノ意。

た。な。し。は。ましたよ。「書け」——「書ケト云ハレテ、疾ト、イラチテ答フルキノ語。「わいつてま」——

たべねあ たであらう。對稱ノ推量ニ用フ。「おまね

わ、さい——「おまねわ、知つて——」

たべあ。たんだらう。「見だべあ」「知らなが」

たべねし。又たべし。たでせう。「あの人わ、見だべ

ねし」「知つ——」

たべねし。又、たべし。やありませう。「この雨であ、

そのうちに、花も咲ぐん——」

たべでねら。たであらう。三人稱ノ推量ニ用フ。「あ

の人わ、聞いてだべであら」

つぢや。れた。「見ら——」書か——共ニ、能動ニモ、受動ニモ云フ。

ねね。ぬ。ん。「見——」聞か——「知ら——」ぬ、

又ハ、んト云フ詞ヲ用ヒズ。

ねねし。ません。「讀ま——」聞か——「そおて——」

ながつたし。ませんでした。「讀ま——」知ら——

ながんべねあ。ないだらう。對稱ノ推量ニ用フ。「お

まねわ、知ら——」

なかんべあ。ないだらう。三人稱ノ推量ニ用フ。

「あの人わもつてね——」

なげれば。ねば。讀ま——、なんなね「し——、なん

なね」

なんなね。ならない。ならぬ。「しなげれば、——」

べあし。でせう。對稱ノ推量ニ用フ。「そおてながん

——「んまがん——」

べね。だらう。べし、しノ父音ヲ脱シテ、轉シタル

ナリ。「咲ぐ——」濡れ——「落ち——」來——

「云ん——」「知らながん——」

べね。でせう。「そおた——」

べね。ませう。「さあ、往ん——」書物よん——「字

ス、かへ——」

べね。又、べ。う。らう。「雨降らう」チ、雨あふん

——「花は咲かう」チ、「花あさぐ——」、「善から

う」チ、「よがん——」ト云フ。

べねしはな。ませうね。「止め——」歸ん——「又、べ

しはなト云フ。

べしやら。でせう。三人稱ノ推量ニ用フ。「あの人

わ、知らながん——」覺ゆで、ねながん——」

もたす。又、し。ます。「讀みもおす」「讀むし」「致し

もおす」「しるし」米澤には、元來、ますト云フ語ヲ

用ヒズ。ますト云フベキ所ニハ、老人ハ、申すヲ用

ヒ、他ハ皆、しト云フ。ますハ、まをすノをチ、脱シ

タル語ナリ。

らつ。られ。見——ぢや「聞かしね——ぢや」

第六、副詞

一、時間及ビ經過

あさかがりだ。朝の仕事に。朝懸りにナリ。「——、

わつてきた

あわねに。稀に。間ノ意ナリ。来る

わつたはつたに。急に。俄に。わるゝな

つた

わつてき。ちよつと。一時ナリ。来る

わつたんてき。いつ。ても、来る

わつこのまに。いつのまに。何時の小間にナリ。

わつてきた

おつつけ。其の内に。追々。追付けナリ。

おれの病氣も。よくなんべ

かがつばぢ。早く。かがつば、首辭。早クト云

フコトチ、悪シザマニ、云フ語。

きのねな。昨日。わつてきた

きよねんな。去年。わつたとき

このまじゆう。この間。雨ばりふつてる

こんど。このたび。

しーんど。先日。先度ナリ。往つてきた又、

しーんどに。知つてだ又、しーんどな。

往つた時

しーれれれに。或ハ早く或ハ晚キナリ。御客様

あ。ごまゐる。まのまゐ。出来る

じよたぢゆう。常に。断えず。常住ナリ。そおゆ

うまぢかねわ。ある。あの人あ。見る人

た

しよで。最初。初手ナリ。つから、知つてる

りま。すぐ。其儘ナリ。一部ノ人ノミ用

フ。

たまに。稀に。あわねにニ同シ。来る

ぢよれして。常にきめて。あそつから。も

らつてる

ちよつこら。又、ちよつこり。鳥渡。これ

つらし。昔で。遂しナリ。そんなことあ。なが

つた

つらつら。とどのつまり。遂の語リナリ。

つね、わじらね。ふだん。又、平生。の、心懸

あわるな

とれぎくた。時々。当期々々にナリ。漬物あ、

したなめ、んまわ

とれし。始終。常に。通しナリ。勉強してる

學校で。一番の成績た

とれすきで。時経て。時過ぎてナリ。聞さだ

知つた

のべに。数々。わつて、御馳走になつてくる

はあから。今から。意外ニ早キ意アリ。早からナリ。

今、おめしくつたぢゆうに。腹あへるぢ

やなわ

はなぐ。早く。これ

はなぐ。早く。さつて見ろ又、はやなぐ

トモ云フ。

ひしつと。始終。絶えず。非時つとナリ。食

ねだがつてる

ひところ。一時。頃ナリ。病氣あ、よが

た

ひとしぎり。一時。仕切ニテ、時ノ限チ云フ。

病氣あ重くて。あ、ひとがった

ひひて。一日。日。下ノ二音とひチ、約轉シタ

ルナリ。下ノ、よつびてモ同マ。あんなごとに、

かがつた

ほつと。急に。俄に。突然。ゆわつぢ

も、こまる

むつつり。絶えず。常に。——、わる仕事してるわ」
えはたね。いくらたつても。いつでも。永代ナリ。
「あの人あ、ほんとの事なと、——、ゆわなね」——
——返す氣わなね」

よつびて。一晚。夜一夜ノ約轉ナリ。
——、状態方法及び性質

あどどなくれに。出テ行クト、間モナキコト。わぐどハ、踵ナリ。なくれハ、放れナリ。名詞雜ノ部ニ委シ。サレバ、足ノ向キタル方ニ、漫然ト歩ミナグレテ、人ヲ往訪シタルナリ。コレヲ反對ニ用ヒタルナリ。出で往くと、——、使わ來た」

あしはみどろに。汗だらけに。汗水泥にナリ。——
——なつて、かしはぐ」

あたりはつたりに。工合次第に。——、ゆわなね」
あつぎつけすに。むさだしに。團子ヤウノ物ニ、小

豆チツケズ、其ノ儘ニ、ムキ出セルニ似タレバ云フ。——、ゆう」

あでずつぼねに。おしめてがひに。——、ゆつてわるね」

あはげに。串戯に。甘氣にノ轉。——、ゆつた」
あばとばて。あはて。——、出で來た」

あばりど。又、あばつど。茫然。自失セル形容。
あひやら。とひやら。表裡反覆。彼片此片ノ拗音カ。あえづあ、——、て、相手になんなね」

あふらへて。ぶらへて。徒ラニ、ブラへ遊ビ歩ク形容。——、かしはかなね」

うきりかて。又、うきへて。おちつかないで。浮々スル状。——、危なね」

うしろまねに。うらおもてに。後チ前ニスルナリ。
「羽織お、——きた」のれんお、——かげだ」

らぢやく。ぐらやく。腫物火傷ナドノ、腐爛セル形容。
うつてがわつて。まるまり。あれお近來、——、別なもの様になつた」

うづぶさに。又、うづぶしに。うつぶしに。——、ねる」

わかく。搗餅ニ粳米混ヲテ、點ト、凸凹アルヤウノ形容。嚴ノ濁音ヲ、重ネタルナリ。

わかばかて。嚴ばかニテ、ばかハ、添ヘタルノミ。魚類ノ小骨ナドノ、チカへト、口ニ觸ル、コト。このさがなわ、——、んまぐなね」口以外ニ觸ル、感覺ハ、ちかく、ちかばかト云フ。

わからく。又、わかりく。又、いかく。いか即チ嚴ヨリ出ツ。咽喉あ、——、て、ねたね」

わきく。息苦シキ形容。——、あづね」

わきしまに。又、わきがげに。いさしなに。——、見だ」

わぎつかず。又、いぎつかず。一息に。んまぐなね藥たがら、——、のめ」わぎつかず、かしはわた」

わぢれもに。第一に。一重にナリ。その事お、——、ゆつてくる」

わぢかねに。急に。一時に。——、雪あふつた」
「——持つてくる」——、食つてしまつた」

わぢくちて。小兒ノ人チ憚リテ、氣遣フ状。——、めんこぐなえ」

わぢごどさねに。ごたませに。一石才ニテ、大小取混セタル意カ。——、もつて來た」——、煮だ」

わぢめんじ。——、帯に。一面にナリ。「顔——、ふぎてあ出來だ」

わつさんだ。大駈に。逸散にナリ。——、走つた」

ねどきり。最上。巻ケル糸ヲ延シ盡スガ如ク、餘ス所ナキヲ云フ。」「えね衣裳おきる」

ねほくど。じやくかくと。えね縮緬で、ねほみ上つてる」

ねほかほ。又、ねほきほ。じやくかく。餅ニ節アリテ、其ノ面ノ、ザラ〜スル形容。」「て、食ひにぐね」

ねんかり。傲然。」「すわ〜つて動がなね」又、角張る意。」「帯いひすんた」

ねらくて。咽喉ヲ痛メテ、物ヲ咽下スルニ、磨擦シテ、不快ナル感。えらハ、刺ニテ、植物ノはり、又ハ、とげヲ云フ。」「物おのまんに、やね」

ねりがわりたぢがわり。かはる〜。」「今日わ、〜、御客わ有る」

ねね〜。ゆるやか。大々ナリ。着物、又ハ、夜具滯

團ナドノ、丈モ巾モ、十分寛ヤカナル形容。」「とした、夜着た」

ねぎよし〜ねに。御隨意に。御勝手に。御氣寄にナリ。」「〜、く〜つてくれたね」

ねららふねで。ぼんやりして。御空向ひてナリ。むノ音ヲ、ふト通ハスコト、其ノ例多シ。選ぶ選ぶ、浮ふ浮むト云フガ如シ。」「〜、聞いてだて、わがんなねそ」

ね〜つかな〜。こはどは。」「〜、見た」

ねづか〜。どうかこうか。」「〜、及第した」

ねぢしもつけず。おさませず。落し〜着けずナリ。下ニ、ヨク置キモセズト云フ意。」「〜、くだ〜つた物、〜、御馳走になるがしは」

ねはね〜。又、ねね〜らて。御晴で。又、大面デナリ。公然ノ意。

ねもねしま。がはと。した〜か。」「〜、ころんだ」

「あだまわ、〜、ふつけだ」おもねしまハ、思ひしナニテ、往きしな、歸りしな、しなニ同マ。方言、コノしなヲ、しまト云フコトハ、前ニ擧ゲタリ。思ひしなハ、思ふはずみ、又ハ、思ふ瞬間ナドノ意ナリ。

かねさに。又、かねちやに。裡反しに。反様にナリ。」「着物お、〜、さる」

かねちやまどねに。あへどべに。反さまにノ意ナリ。」「〜、叱ら〜りち〜ね来た」

かねまねで。引受けて。掻巻いてナリ。」「〜、世話しる」

かかどか。又、かかどが。落付カズ、ガタ〜スルナリ。」「〜して、歩くからころぶ」

かき〜つて。は〜つかりと。」「角おつける」

かどしかたんで。かくれて。隠し好んでナリ。」「〜、わるい事おしる」

かくら〜て。又、かくり〜て。又、か〜く〜て。こくりこくりて。」「〜、ねむかけしてる」

かくら〜。又、かど〜。くら〜。赤子ノ頭ノ、ブラブラト、動クナドヲ云フ。」「〜ど、ら〜ぐ」

かさ〜。かさ〜。枯葉ナドノ物ニ觸レテ、發スル音ノ形容。

かさ〜。皮膚ノ腫物ナドノ、膿去リテ、乾キタルヤウノ形容。

かさ〜。輕躁ナル形容。」「〜、らるるね」

かた〜らに。かたよせて。片面にナリ。」「結んだ」又、かた〜らト云フ名詞ニモ用フ。

がたらく。又、がたく。又、がたひし。がた〜。
かたん〜。さつさと。逃ゲ走ル形容。〜と、逃
けだ」

かたら〜。又、かたく。又、かたん〜。かた
〜。音ノ形容。

かちら〜。又、かち〜。かち〜。〜と、かだ
ね」

かつ〜と。活々トノ轉。火ノ盛ニオキタル形容。
又、火ニ當リテ、逆上スル形容。「火あ、〜、おぎだ」

がつ〜て。文語ニテハ、戰慄ノ副詞ナルヲ、方言
ハ、食物ヲ食フトキ、セハシク見苦シキ狀ニ用フ。

「そかねに、〜、くうもんでなね」
かつし〜ねり。かつちり。身體ノ、堅ク丈夫ナル形
容。「あのからたあ、〜してゐる」

かつちり。さつぱり。丁度。物ノ中リタル音ヨリ

云フ。「〜、算盤かあつた」さもの、寸法あ、
〜同した」

又、之を轉シテ、名詞ニ用フ。「それで、〜た」
がどねに。又、がどねに。我當にナリヨ、〜、こ
しや〜た」

がぼ〜。膿ナドノ、物ニツキテ、乾キテ強キ形容。
がぶり〜と。又、がぶ〜と。ぐ〜と。〜
〜、飲む」

がむり〜。又、がむ〜。ムチャ〜ト食フ形容。
貪リ食フ意アリ。〜と、くう」

かんから〜。物ノ乾キテ堅キ形容。
がんちよねに。丈夫に。岩盤にナリ。「〜、こし
や〜た」

から〜。物ノ干タル形容「〜と、干た」
がらく。音ノ形容。又、遠慮ナク、意中ヲ發表ス

ル、無造作ノ貌。「〜て、おもしろね奴た」

がらみに。皆がらに。皆がらナ、轉倒省略セルナル
〜シヨ。〜、もつてこれ」

がり〜と。掻ク形容。又、削ル形容。
かわる〜。かはり〜。〜、參上して」

ぎかく。腫レテ、色ヅキタルサマ。「〜と、はれだ」
ぎかたに。嚴格に。儀堅にナリヨ、〜、結ぶ」〜、
書く」

ぎかんど。又、ぎがりど。さつぱり。又、ちやん
とナド云フ意。「帯〜、むすんで」

ぎがら〜。偏屈ニ、角張ルコト。
まかりど。正しく。正シク、角ザルコト。「〜、
かとおたでる」

まきら〜て。氣懸リコテ、心ノ安ゼザル形容。例
〜ハ、心配ノ事アリテ、夜ナド、安ラカニ眠ラレヌ

チ、〜、ねむらんにやね」ト云フ。悸々ト云フ
漢語ノ意ニ當ル。
まくら〜て。又、まくら〜て。まくら〜。動ク
サヤ。

まどら〜。又、まど〜。まどら〜。曲ルサヤ。
まくりど。又、まくり〜と。曲ルサヤ。

まぐりど。又、まぐ〜と。コネルサヤ。「〜、ひ
つちかねだ」

まこんど。斷えず。こんよく。「〜、かし〜」よ
ぐ〜、ふる」氣根とナリ。

まこんだ。こんきよく。「〜、働ぐ」
まど〜と。まど〜と。〜、又あかげだ」

ましく〜と。ましく〜と。物ノ相磨スル音ノサヤ。
「駕籠お、〜、かづねてきた」枕草子ニ、「墨の中
に、石こもりて、ましく〜とましましたる」ト見ユ。

来^キしまに。又、来^キかげに。来^キしなに。——、寄^ツつてきた

ぎたく。叩^キ付^ケテ、壊^コスサマ。——と、ぼ^ツつてした

ぎちらく^テ。又、ぎぢ^クて。物^ノ、滑^ラカニ動^カスサマ。戸^ノあ——、動^ガなね「髪^ノあ——、櫛^ノあ、とおらなね」

まぢんど。びしやりと。しつかりトナド云^フ意モアリ。戸^ノあ——、た^デだ

ぎぢやらく。又、ぎぢや^ク。にちや^ク。嘯^ムムサマ。

き^ツつた^ラつ^ツて。打^チ揃^ツて。断^リ揃^ヘタル意ナリ。おそ^デてお。——、か^シね^ク」

ぎつらく^テ。又、ぎ^ツつ^クて。滞^ルサマ。又、滑^ラカナラマサマ。——、讀^メなね「——、とおらなね」

ぎつらはつら。前^ノ條^ノ語^ニ全^ク。讀^ク書^ノ談^話等^ノ、輕快^ナラマニ云^フ。——て、わ^ガん^ナね

ぎなく^ク。曲^ルサマ。刀^ノあ、——、曲^ツた「き^ツつばり^ド。又、き^バり^ド。又、き^バつ^ツ。さ^ツつぱりと。ばりと。

きん^ク。堅^ク。糸^ノ、——、む^スん^タ「又、銳^ク高^キ音^ノサマ。——、高^ノお^トお^タでる」

ぎん^ク。又、ぎ^ン。前^ニ同^ク。又、木^綿織^ナドノ、シ^ナヤ^カナ^ラマサマ。

ま^ヤね^クて。又、ま^ヤあ^クて。さ^ヤあ^クて。「——、や^ガま^シ」

ま^ヤだ^ンく^テ。又、ま^ヤた^ラく^テ。穿^キ物^ノ音^ニ云^フ。乾^キタル路^ニ、高^足駄^ヲ穿^キタルトキナドノ音。

「——、足^駄あ、は^ワでる」

ま^ヨろ^ク。ま^ヨろ^ク。——、見^廻す

ぎ^ヨろ^ク。又、ぎ^ヨろ^ク。ぎ^ヨろ^ク。疑^ルサマ。

。

き^リつ^ツ。奇^麗に。——、前^ノ着^物の^ノわ^わし^ねで^おげ

ぎ^リつ^ツ。鹹^イサマ。——、し^よつ^ばね

ぐ^さく^ク。物^ノ多^ク集^ルルサマ。「子^供あ、——、あ^すんでだ」

ぐ^しね^ンど。ぐ^つさ^り。眠^ルサマ。——、ね^だ

ぐ^だら^ク。又、ぐ^だく^ク。ぐ^だく。——、あ^るね^できた「不^活潑^ノサマ。

ぐ^ぢや^ク。ぐ^ぢや^ク。——と、水^ノあ^溜つ^テる「——て、か^わが^なね

ぐ^づら^クて。又、ぐ^づく^テ。ぐ^づく。舉^動、遲^鈍ナルサマ。——、わ^がん^なね

ご^ぞら^クて。又、ご^ぞく^テ。ぐ^づく。言^語ノ

澁^鈍ナルサマ。

ご^なく。曲^ルサマ。頑^ヤナリ。——、曲^ツた「又、

柔^弱ナルサマ。——て、お^なこ^のよ^おた

ご^なり^ド。又、ご^なつ^ツ。曲^ルサマ。ぐ^なく^ハ、

數^ケ所^屈曲^シタルニ云^ヒ。是^ハ、一^ケ所[、]甚^シク、

曲^ルニ云^フ差^{アリ}。又、病^疲レタル形^容ニモ云^フ。こ^わくて、——、な^つた「又、ぐ^なト云^フ。

ぐ^びら^ク。又、ぐ^びり^ク。又、ぐ^びつ^ツ。

ぐ^つと。飲^ムサマ。「酒^ノお^んま^そお^に、——、の^び」

ぐ^んく^ク。さ^つく^ク。早^ク行^クサマ。——、は^く「又、唸^ルサマ。——、う^なる」紙^葉ニ着^ケル、又、最^モ善^美ニシテ拔^群ナルニ云^フ。「ぐ^んく^チゆる

ぐ^やく。う^よく、多^ク群^ルルサマ。「虫^ノあ、——

と、ねだ」

ぐやらく。又、ぐやく。ぐやく。柔カキサマ。ぐらりと。又、ぐらつと。ぐらりと。倒ル、形容。「——、むくれだ」又、マクリ揚グルサマ。裾お、——、あける」又、翻然ノ意。「あの若ねものあ、——、かわつた」

けねきに。又、けねき。——、通りに。御義理に。形儀にナリ。「——、見舞にきた」

けろりと。又、けろつと。平氣。「なんば酒ね、のんでも、——、してる」又、名残無くノ意。「——、なおつた」

けたらくて。又、けたりくて。又、けたくて。粘ル食物ノ、口ニ着クサマ。「——、くねにくね」

けたらくど。又、けたりくど。又、けたくど。舐ブルサマ。「——、なめる」

けちよろく。又、けちよく。又、けちよぼた。

口ヤカマシク、子供下婢ナド叱ルサマ。けつこれに。又、けつこれと。かなり。又、どうか。こらか。結構にナリ。サレド、立派ニト云フ意ニハアラズ。「——、されそおた」

げへらくて。締リナク、笑フサマ。「——、笑つてばかりわるあ」

げほらくて。又、げほりくて。又、げほくて。どほんどほんで。咳スルサマ。「——、ね得なね」

けんくて。又、けんとして。「——、あねそあなね」

けるりと。又、けるつと。平氣で。「——、して、わるねとどしてる」

げろくど。吐クサマ。「——、吐ねだ」嘔吐ノ名詞トシテ、げろくト云フ。ぐらつと。亂暴ニヌルサマ。又、ぐらつ

とト云フ「酒——、つく——、おす」

ごねら。不意に。「——、押されで、ころんた」

ごねきに。暴く。豪氣にナリ。「——、ひつばる」——、搔ぐ」

ごねく。風ノ、吹ク音ニ云フ。「——と、風あふぐ」

これどに。衣服ノ、編模様ナド、年齢ノ割合ニハ、ヨミナルサマ。古人、或ハ、小人カ。未明ナリ。「あやり——、つくつた」こおとな編た「髪い、——、ゆつた」

こかくど。焦々とナリ。餅あ、——、やげだ」

こからく。又、こかりく。ひかりく。眠り覺メテ、物ナド眺メ居ルサマ。主トシテ、赤子ニ云フ。「——、おどなし」

こきらく。又、こきく。莖蕪ノ如キ、齒ザハリチ云フ。又、こきくハ、洗フサマ。音ニヨリテ云フ。

「——と、わらね」

ござらく。野菜類ナド煮テ、熱セザルモノチ、食ヒタルトキノ齒ザハリ。

ごどど。よくく。又、しみく。濃々ナリ。「——、くとねだ」——、さらつた」

ごこりと。「——、齒あかげだ」

こたらくど。又、こたくど。赤子ノ、危ナゲニ、歩ミ走ルサマ。「——、あるぐ」

ごだく。又、ごだわだ。ごだく。「——と、煮だ」

こちどりんど。小作りノ轉。身體短小ナルサマ。西鶴ノ小説ニ、「小作りなる生付キの徳あり」トアリ。「——、した人た」

こつがくど。澤山に。小嵩々々トナリ。「——盛れ」こつくと。又、こつくと。急ナルサマ。熾ナルサマ。「——、水あ流れる」火あ、——、おぎだ」

しかだあなね

しはわくて。忙しく。こしやつた

じごくど。じつくり。ぬれだ又サメト

ト、泣クサマ。泣ぐ又、小便ノ、甚シクツマ

リタルヲ。つまのたト云フ。

しんらもぐらて。運緩ナルサマ。何してる

しこらく。又、しこりく。生乾ノ餅ナド、食ツト

キノ菌ザハリ。て、んまね

じつど。静に。こらねでして居る

しつちつて。くつくて。しつ、しつ濃ノ、しつ。

むつ、むつ濃ノ、むつニ同マ。ねむらなね

しならくて。又、しなくて。しなくて。じな

らく。又、じなくト云フ。濁ル方ハ、スコシ堅

ク、剛キサマ。

じねりくど。辛抱強く。かしねく

じんぐりに。順に。じゆんぐりノ誤リニテ、順繰に

ナリ。古にながら。つかう

じんたらに。じだくに。踏んた。踏だらノ

轉。たらハ、やたらナド云フたらナリ。

しんみりど。落付イテ、丁寧ナルサマ。物おゆ

う人た。聞け

しやりく。又、じやりく。ちやりく。じ

やりくハ、石ナド、噛ミ碎キタルトキニ云フ。

しやきんど。ちやんと。新シキ着物、又ハ、糊ヲ着

ケタル着物ノ、チヤントシタルサマ。

じろりど。又、じろりつど。眼ヲ瞋シテ、見ルサマ。

見だ

しわか。又、しわか。又、しわく。しわく

ともめだ

すらすど。薄荷ナド嘗メテ、辛キ感。からね

セルナドニ云フ。逃げだ

すぐつげに。すぐさま。ねつた

ずだらく。又、ずだく。着物ノ長クシテ、裾ヲ引

クサマ。

ずつど。遙に。あの人が、ねつた。この品

あ、えね。又、ぐつとトモ云フ。

すなした。いたづらに。こしやつてみだ

すぼらくど。窄キサリ。見スポラシキサマ。羽織

ヲ着ヌ良。又ハ、帽子ヲ戴カヌ良。あるぐ

すぼりくて。物ヲハメ込ムニ、緩ヤカナルサマ。

ゆるね

すぼりくど。物ヲ入ル、サマ。ねれる

すぼりど。又、すぼりつど。すぼりと。這入ルサマ。

入ル、サマ。はねつ

すんでのどんで。又、すてんど。既に。今少しで。一

火事となるどころであつた

ずらりど。又、ずらりつど。轉倒スルサマ。こ

ろんた。無断ニテ、家出スルナドニモ云フ。で

でつた

ずるくべつたりに。するくと。其ノ儘、引續ケ

テ、居候スルナドニ云フ。

すわりど。すらりと。體ノ、ズラーリトシタルサマ。

すわか。又、すわか。又、すわくて。すは

くて。隙風ナドシテ、寒キ感。むね

すわくど。すらくと。タメフコナク、歩ムサ

マ。出来できた

ぞれぞ。さわくと。雨あふる。漏

る

ぞきりど。又、ぞきりつど。すかりと。斬ルサマ。

ぞぐらく。又、ぞぐりく。又、ぞぐく。ぞぐら

く。食物ノ、粘リケナキサマ。又、ぞぐくハ、
簇生ノ貞。

ろこくは、せはしく。ろそがしく。――、聞いだ
「忙しいがら、――、かねつた」

ろきらく。又ろきく。粘リケナキ物ヲコネ、又
ハ、食フキノ齒ザハリ

ろびんぼ。ひそくと。――、話す
ろつど。静に。――、持つてこね又、大切ノ意――

――しておげ」又、密かにノ意。――、ゆる
ろつびり。ろつびりと。食物ノ、淡泊ナルサマ。

ろでつ。逆。――、聞ぐ
ぞべら。――、くらす」又、ぞべら
ぞべらく。着物ヲ着飾ルサマ。――て、ねげすか
なね」

ろんこち。あちこちに。――、書ぐ」――、結ぶ」
ろんこち。又、ちんこり。静に。大切に。――、も
つてこね」

ぞんぶ。又、ぞんぶり。漬物、――、つかう
た」

ろれまん。其の儘。――、おわねなね」其ノ儘、メシ
上ノ意。
ぞろり。又、ぞろりつど。ぞろりつど。――、なち
んだ」

だねぎに、大きく。――、切る」
たらく。又、たらく。又、たくりく。

たらくと。――、たる」
たつこ。逆に。――、結ぶ」
たつ。縦に。――、おぐ」

だぶぶ。又、だぶく。だぶくと。溜す、
――、かげだ」

だぼね。みだりに。――、使う」駄妄にナリ。

だんく。色々。段々ナリ。――、こつこつおおに
なつて」

たんびく。度毎に。其の都度。度々に、撥ネ
タルナリ。その――、まつてくることおなね」

だらひして。又、だらへて。だらへて。――、
きたなね」

ちかく。せはしく。小用に、――、ねぐ」近々と
ナリ。

ちんぼ。あちこちに。草履、――、はねだ」コレ
ハ、此ノ草履ヲ片足ニ、彼ノ草履ヲ他ノ片足ニ、穿
ク。

ちんちく。又、ちんちく。ちんちくと。蚤ナド
ノ、刺メサマ。又、連針ノサマ。――、くら」ちん
ちくと、ぬち」

ちくらほくら。僅つ。少しばかり。「時だ物、
と、おねなな」――、くら」

ちこく。ちこくと。――、ある
ぢごり。又、ぢごく。ぢごり。――、
肥ゆる」

ちたく。小マゴニ歩ムサマ。又、小アゴノ足跡。
――と、ある」

ちたば。又、ちたば。騒ギ廻ルサマ。
ちたらはたら。少しづつ。――と、雨あふる」

ちつほけ。又、ちんほけ。ちつほけ。――に、帯む
すんた」

ちみかみて。けちへて。こせへて。――、ため
る」

ちん。ちん。――、ねまれ」
ちんまり。小サク、纏リタルサマ。――した、坐

敷た「家お、——作る」

ちやんと。又、ちやかんと。ちやんと。——、わけ
る「帯お、——結んだ」

ちゆうがんに。なかばに。中間にナリ。「賃錢お、
——、ちゆうと——」

ちゆうらびらりんに。宙ぶらりナリ。前ノ、中間ト同
シ。

ちよわち。突然。——、出できた「又、ひよわちト
モ云フ。

ちよたを。丁度。恰も。「甲某所にいくと云た。こお
れも——、そこはわく」

ちよきりく。又、ちよきく。切ルサマ。
ちよきんと。ちやんと。兀立スルサマ。

ちよくらく。又、ちよくく。堀ルサマ。
ちよこんど。ちやんと。不意ニ、物ノ、現レ出デ、

又、ちやんと、立ッルサマ。「目の前に、——、家お
たでだ」

ちよくらく。又、ちよこりく。又、ちよこく。
ちよこりく。小兒ノ、覺束ナク、歩ムサマ。

ちよこりど。又、ちよこつど。ひよつと。「
——、出逢つた」又、小サキニ云フ。「——した人だ」

又、些少ノ禮物ナド「——だすわ、おがし」ト云
フ。「——おねだ」

ちよたらく。又、ちよたく。しならく。シト
ヤカニ、歩ムサマ。

ちよびらく。又、ちびらく。又、ちびらか
びらて。又、ちよびりく。少シツ、口鳴シ
ナドシテ、酒飲ムサマ。「はづ迄も、——、うだで
わ」

ちよぼりど。又、ちよぼつど。砂土又ハ粉ナド

チヅミテ、置ケルサマ。「——、おねだ」

ちよりく。かりく。煎餅ナドノ、カリくスル
ニ云フ。餅ヲ煎リタル、柔カキモノニハ、しより

く、又、ちよりくト云ヒ。麥粉ナドヲ以テ製
シタル、堅キモノニハ、がりくト云フ。

ちよらりど。又、ちよらつど。ひよつと。鼠
わ、——、にけた「又、小クシテ、取扱ヒニクキチ云
フ。「——、落した」其ノ他、前ノちよこりトニ同
シ。

ちわくど。又、ちわくく。ちはくく。暫時煮
ルサマ。

つづづ。よくく。前ノ、こくくニ同ジ。「——、
やんた」

つづねんど。又、つづんど。茫然と。徒爾トシタル
サマ。「——、立つてる」淺井了意ガ、東海道名所

記ニ、「烟草取り添へて前に置き、——して居るも
あり」トアリ。

づもぐ。ぐつく。「——て、騒ぐ」
つくらく。又、つらんく。つくんく。歩行ス
ルサマ。又、短キ衣服ヲ着タルサマ。「——ちよ
ら、着物おさてる」

つげらく。詞遣ト愛想ナク、氣障リスル舉動。
「——て、愛らしくなね」

つげりど。又、つげんど。前ノ、つげらくニ同シ。
つづつぎあはし「ねた。突合せに。物ヲ重ネズシテ、
突合ヒニスルサマ。「——、着物お、こたづにかげ
る」

つづついで。突着けてナリ。凝眸スルナリ。「——
見る」

づはくれ。又、づなし。づなし。圖外れ。又、圖無し

ナリ「——むつん」

づぶ。全く。「ゆわんにやね」——知らなね」（彼）

（多ぶねれ、又ハ、づぶが替り等ノ、
集合名詞ノづぶ即チ是ナリ、

ひびき。ぶつ／＼。——て、きかなね」

つんど。つんと。「——すまして」又、チーヨットス

ネルヤウノコトナ、「ねちげる」ト云フ。又、唯一人

ニテ、淋シク坐スル状。「——、すわーつてると、寒

ね」

つらりと。又、つら／＼。又、づらりと。又、づら／

つど。づら／＼。其ノ儘ニ、打遣ルサマ。厚意ヲ

受ケナガラ、禮ヲモ述ベズシテ、其ノ地ヲ去ルチ、

「——歸つた」又、「——した奴だ」ナド云フ。

つるりと。又、つる／＼。又、つるんど。つるんと。

呑ム、又、這入ルサマ。「——、呑んだ」——、はね

つた」

てきらくて。又、てきはきらて。餅ノ如ク、固イ
リタル食物。又ハ糊ノ如キモノ、冷エカ、リテ、
堅クナリタルサマ。

で／＼。又、でこりと。で／＼こり。「——、肥ね
でる」

てどりあしどりに。てんでか／＼。手取り足取り
にナリ。手ノ觸レ、足ノ觸ル、儘ニナリ。「——、
取／＼つてね／＼」

てびかびて。手ウルサキサマ。「——、うるざね奴だ」

でんがり。又、でんこり。又、ね／＼こり。ね／＼こり。

前ノ、ねんかりニ同マ。「——、すわる」ね／＼こり

ハ、根／＼子ニ、りチ添ヘタルモノナルベシ。

てんつどたま。天衝東ノ轉。束ハ、束ネタルナリ。帯

チ餘リ上ニ結び、又ハ、赤子チ、餘リ上ニ背負フコ

トナドノサマ。「帯をま／＼にした」

でんどねなか。まんなか。廣キ場所ノ真中。出洞半

ナルベシ。又、唯どおながトモ云フ。「家お、——

にたでだ」

ど／＼。ど／＼と。「——おどした」——撒ねだ」

どが／＼。ばだ／＼と。下ルサマ。「——、おろる」

どからばかり。道路ニ、凸凹高低アリテ、一昇一降

スルサマ。「——、道あわるね」

どかりど。又、どか／＼。ど／＼と。穴ナドニ陥ル

サマ。「——、おぢだ」又、低キサマ。「——、低ね」

又、ど／＼かりトモ云フ。

ど／＼。狼狽シテ、舉措ヲ失フサマ。「火事のと

ど／＼。——、何もださなね」

ど／＼。又、ど／＼り／＼。ばかり／＼と。「——

——、もむむ」

ど／＼。どこもかしこも。何所も彼所もナリ。

「——、道あわるね」

ど／＼。ど／＼と。ど／＼となく。何所だといふことな

くノ意。「——、あむむ」

ど／＼。又、ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

ど／＼。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。ど／＼と。

どつと。どつと。「——、わらう」「——、降る」「——、おちだ」「——、たおりぢや」「どつくど。どつくど。」「——、漏る」「——、降る」「滾々ニ當ル。」「——、燃ゆる」「——、腹あくたる」盛にノ意。
 どつぱつして。過ちて。取外てナリ。「——、おどした」
 どつぷりど。どつぷりど。「——、はねつた」又、懸にノ意。よく聞かしららつぢや、——、わがつた」
 とほかほ。又、とほく。よぼく。ヨロホヒ歩ム形容。恍々ナリ。
 どほらく。又、どほんく。聲ノ太キサマ、「——、ておかし」
 どんく。どんく。「——、ふる」「——、燃ゆる」

「——、なる」
 どんなが。又、どんながころ。なかほど。胴半チ、撥ネタルナリ。「——、結う」「——、切つた」
 どやく。又、どやく。どやく。「芝居場がら、人わ——、ど、できでまた」「どやくど、人わはねつた」
 どろくど。又、どろくど。どろくど。溶クルサマ。盪々ナリ。とろろト云フ動詞ハ、古事記神代卷、伊邪那岐命ノ、其妹伊邪那美命チ、黄泉國ニ訪ヒ給ヒシ條ニ、「うじたかれとろろぎて」トアリテ、最モ古キ語ナリ。とろくハ、コノ動詞ノ語根チ、重ネ用ヒタルナリ。「——、とげる」又、眠リカクルサマ。「——、ねむつた」又、光ルサマ。「——、ひかる」
 ながらなまじは。なまじはに。中間態にナリ。

なんごりど。又、なんごくど。なごやかに。和々ナリ。穩ヤカニ、落着キテ、丁寧ナルサマ。「今少し詞わ、——、つかね」「——、はなしらばえぬ」「にがくど。にこくど。」「——、わらう」苦笑スルニハアラズ。
 ながらはからて。又、にこらくて。又、にこくて。又、にこりく。にこく。にこく。にこく。めんこね」
 にちやらくど。又、にちやくど。にちやくど。噛ムサマ。
 によきりど。又、によきつど。にゆいど。
 「——、立つた」
 ぬつくど。ぼんやりと。「——、立つてる」長閑ニテハ、ぶつくくりト云フ。
 ねすりに。ねから。根摺りにナリ。「爪お、——、切る」
 ねたくたて。又、ねばかばて。又、ねたらく。又、

ねたくて。ねばく。口わ、——、うだでね」
 ねちかまぢかに。まてに。丁寧ノ意。根近間近にカ。「——、仕事おしる」
 ねちらくて。又、ねちく。ねちく。手わ、——、云云」
 ねちりづげで。押付けて。捨り付けてナリ。「お飯お、大椀に、——、盛る」
 ねづく。丁寧に。根強くノ、よチ脱シタルモノナリ。尙ホ、形容詞ねづねチ見ヨ。「——、書げ」「——、讀め」
 ねつくりど。どつかりと。でんかりとニ同シ。根つ子ト云フ名詞ノ轉。「——、すわつた」
 ねつちよたに。強く。しつこく。根強うにチ促メタルナリ。「——、ゆう」又、辛抱強クノ意ニ用フ。「——、かしはく」又、ねつちよにトモ云フ。名

はなてかわりに。かはりぐに。番替りに。又、

番手替りに。イッレニテモ通ズ。羽陽叢書中ニハ、
番替りノ文字アリ。「——、つめる」

はらぐ。ばらぐ。散ルサマ。「——逃げで
はつた」雨の、——降る」

はりぐ。物ノ、盛ニ焼クルサマ。「——やげる」

又、堅キ物ヲ噛ム音。「——食ふ」又、物ノ相觸ル、
音。「髪ノ毛の、——こわね」

ひいぐ。小兒ノ、泣ク音ノサマ。「——てなく」

ひらく。前ノ、ひらくニ同シ。又、困窮艱難ニ逢
ヒテ、苦シムサマ。前語ノ意ヲ、轉用シタルモノナ
リ。「——て、あわく」

ひかちやか。又、ひかちやか。又、てかひか。ひか
ぐ。堂宇佛壇ナドノ、金色燦爛タルサマ。「——
ど、ひかる」

びくしや。又、びくちや。又、びくぐ。びく

ぐ。戦慄スルサマ。「——て、おつかなかる」

びごたらぐ。身體弱クシテ、スルコトモナク、唯
ラブラスルサマ。「あんな風に、——居であ、生きか
ねいなね」

びくちぐ。又、びくりぐ。びくちぐ。動物ナ

ドノ、死ニキラズシテ、少シツ、動クサマ。又、
物ニ驚クサマ。ひノ音ヲ濁ルルハ、動クコト驚ク
ノ、強キヲ表ス。

びこたんぐ。跛者ノ、歩ムサマ。又、歩行ノ跛者ニ

似タルサマ。「——て、あるぐ」

びごらぐ。又、びごらぐ。前條ノ語ニ同シ。

但シ、少シク其ノ度ノ弱キ差アリ。

びだかだ。ねばぐ。粘リ氣アルモノ、手足ナド

ニ着キテ、ねばぐスルサマ。びたハ、ひたノ濁音

のお、——さる」下着ヲモ何モ着ズシテ、直「——、下にお

ねだ」

びだりぐ。漸々に。辛抱シテ、漸チ遂フサマ。

「——上つておく」——、借金なす」

びぢより。又、びぢよつ。又、びつちよ

り。びつしやり。潰スサマ。「——、つぶした」

びんから。しんとして。淋シキサマ。「——、

人もねいなね」

びんつぐ。びんぐ。「——、さわく」

びんど。便リナク離ル、サマ。「あの家あ、——はな

れで、淋しい」又、跳ヌルサマ。「——はねだ」

びんぐ。飛ぶ」活潑ナルサマ。「ひんぐ

て、さわわてる」又、非常ニ寒キサマ。「——寒じる」

ひよねつ。又、ひよねら。突然。不意に。

「犬の、——でだ」

ニテ、直ノ意ナリ。彼ノひたりとつくナド云フ
たハ、他物ノ、其ノ間ヲ隔ツルコトナク、密着スル
ナリ。サレバ、ひたかたモ、ひたりト着キテ、ネバ
ぐスルヲ云フナリ。

ひたぐ。敏捷ニ、事ヲスルサマ。

義ハ、前條ノひたニ同シ。又、物ニ攀チ登ルコト早キ

サマ。「——しる」——登つた」

ひたぐ。既足ニテ歩行スルサマ。又、前條ノ語

ニ同シ。びたハ、ひたノ半濁ニシテ、義ハひたニ同

シ。「——、あるぐ」——のぼる」

びたぐ。巾廣ク低キサマ。「あのうちあ、——低

ね」

びたり。又、びたつ。又、びつたり。びつた

り。コノびたモ、ひたニ同シ。「——、だがれ」

びだり。又、びだつ。じかに。すぐに。「まも

「ひよこらしく。又、ひよこりく。又、ひよこく。」
 ひよこひよこ。落着カズ歩ムサマ。——どある
 ぐ。又、突兀ト、物ノ出デ居ルサマ。「菌わ、——と
 できつだ」
 ひらく。ひらく。——と飛ぶ。翻々ナリ。コノ
 意ヲ轉シテ、小兒ノ、ウルサク、騒キ廻ルサマニ云
 フ。「——とどわわ」
 びりく。物ヲ裂キ、又ハ、刺ク音。窓の紙お、——
 はがす。——ふつつあばねだ。又、刺戟性ノ飲食
 物ナドノ、口内咽喉等ニ、刺戟スル感。——しむ
 びろく。ふわく。帯ヲ締ムルヲ、緩ヤカニシテ、
 着物ノ前ノ、締リナキサマ。又、食物ヲ見テ、イ
 ヤシクニ飛出スサマ。其ノ義ハ、口ノ締リナキコ
 ト、着物ノ前ノ、締リナキガ如キニヨリテ云フ。——
 して、はやしし奴だ」

ふうつど。物ヲ吹クサマ。「らんぶを、——けす」之
 ナ、ふつとト云フキハ、急ナル意トナル。吹ク音
 ヨリ云フ。
 ふわつど。ふうわり。浮カル、サマ。「あねづあ、——
 うぢおでだ」紙あ、——とんだ」
 ふかく。ふはやく。鼻梁缺ケタルモノ、
 言語ノ不明瞭ナルサマ。「——わがんなね」
 ふからく。又、ふかく。鬆粗ナル物ヲ握リ、又、
 噛ムキノ感。「——て、つまらなね」
 ぶきたき。又、ぶきちやき。食物ニ、小砂ナド混入シ
 テ、ぶさくト、音スルサマ。
 ぶまらく。又、ぶまらたまら。前條ノ語ニ同シ。
 ぶくんく。軽く浮ムサマ。「——流りぢいねに
 つた」——、かるね」
 ぶらく。又、ぶつくりど。ふつくり。柔ラカ

ナルサマ。又、快キサマ。「——やつこね」よく
 らく。暮らしてゐる」
 ぶくりど。又、ぶつくりど。ふつくり。柔ラカニ、
 膨レ居ルサマ。「ふとんに、——綿あねれだ」
 ぶくりど。腫物ナドノ、小サク膨レタルサマ。「——
 ー、ふくれだ」
 ぶざく。物ノ、總ノ如キサマ。「髪の毛あ、——、
 おねだ」
 ふしかして。物ノ、節アルサマ。「この糸あ、——、あ
 るね」
 ぶすかす。子供ノ、ムツガルサマ。「——て、やがまし
 5」
 ぶつくり。又、ぶつくり。ふつくり。前ノ、ふつ
 くりニ同シ。但シ、濃厚ナル人ノ性質ニモ云フ。「——
 ーどした、えね人た」

ぶつちかねに。十文字に。打違ひにナリ。「割木お、
 ——、つんた」
 ぶつたね。又、ぶつかつて。一向ニ、従事スルサ
 マ。「——、仕事する」
 ぶつつけ。いきなり。物ニ當リテ、直ニノ意。「稽
 古もしなねて、——、書ねだ」
 ぶつてがわりに。ばんでがわりにニ同シ。
 ぶつてもつねでも。どんなことは有つても。撲
 つても突いてもナリ。如何ナルコトアリテモ、機
 ラヌコト。「わそこのうちあ、——、金あはねる」
 ふんきつて。思ひ切つて。係累ヲ、斷然踏ミ切ル
 ナリ。「——、爲る氣もなね」
 ふんつげで。踏付けて。大ニ、直切ルサマ。「——か
 う」
 ぶよく。水氣ヲ含メルモノ、極メテ、柔ラカナ

ルサマ。「柿あ、うんた」

ぶらりと。又、ぶら一つと。ぶらくと。何トナク、
身體不快ナルサマ。「——、わるね」又、下ルサマ。
——下つた」又、ぶらんとト云フ。

ぶわぶわと。又、ぶわわと。ぶわわと。浮立ッサ

マ。「——、寒ね」

ふわくと。ふわくと。輕ク飛ブサマ。「毛あ、

——、飛ぶ」又、極メテ、柔ラカナルサマ。「豆腐あ、
——やうつた」

ぶりくと。炒物ナドチ、嚙ミ碎ク音ノサマ。「——
くふ」

へからく。又、へかく。細キ竹木片ナドノ、鞞ヤ
カニ、撓ムサマ。「下ニ舉ゲタル、へならく」モ同義
ニ用フ。但シ、「層柔鞞ナルニ云フ。

へからく。又、へかく。前ニ同シ。但シ、「層、薄

キ竹木等ノ、撓ムニ云フ。

べこらく。又、べこく。べこく。耗込ムサマ。
べこい、へこニテ、へこむナリ。「——と、へこむ」
又、べこりべこりト云フ。

べりらく。柔ラカニシテ、食ヒ答ヘナキサマ。「——
——、食つたよおてなね」又、ペロくと食フサ
マ。「——と、食う」

べりりと。又、べり一つと。物ノ、べたくトナリテ、
容積ノ減リタルサマ。「菜おめてだれば、——、へ
つた」

べたく。べたく。物ノ、べたくニナリタルサ
マ。又、物チ、糊ナドニテ、貼リ着クルサマ。「——
と、貼つた」

べたらく。又、べたく。べろく。舐ルサマ。「——
——と、なめる」又、柔ラカニテ、相附着スルサマ。「紙

お薄くて、——、くつつつ」又、柔ラカニテ、粘ルヤ

ウナル物チ、廣ク云フ語。「——て、食つ切れなは
奴た」——ちう髪た」又、べたりくとモ云フ。

べだらく。人ノ性質ノ、柔情ナルサマ。「——て、分
んなは奴た」又、べだらくたらト云フ。

べちやらちやちや。又、べちやちや。又、べち
やらく。又、べちやりく。又、べちやく。

べちやらく。イツレモ、嚙舌ナルサマ。但シ、
口ノ利カヌ小兒ノ、辛ウマテ、物言フ形容ニハ、べ
ちやらく。又、べちやりくと言フ。

べつて。別して。殊に。「——寒ね」又、わけでト
云フ。

べなな。又、べなな。又、べならく。又、べな
く。べたべた。柔ラカニシテ、弱キサマ。「——
て、よわね」——て、あぶなね」又、男女ノ、其ノ度

ニ過ギテ、ナヨヤカナルサマ。「——ちう男た」

へらく。又、べらく。べらく。不用ノ言チ、嚙
舌ルサマ。「——、ぶべる」——ちう奴た」又、べら

くハ、薄キサマ。「——て、薄ね」
べらほねに。法外ニ「——おつた」

べろんど。又、べろりと。べろりと。舐ルサマ。「——
——、なめた」又、心ニモ止メズシテ、何トモ思ハヌサ
マ。「——した奴た」

ぼねくと。血色美ニシテ、壯健ナルサマ。「——、肥
ねだ」——した顔してる」

ぼかくと。ぼかくと。「——、あつたがね」
ぼかりと。ぼかりと。「——、もねだ」——、あがる
ぐなつた」

ぼかんど。ぼんやりと。「——してる」
ぼきらくと。又、ぼきりくと。又、ぼきくと。

「折れた」

ほきりど。又、ほつきりど。ぼつきりと。「――、折れた」

折れた」

ぼくくど。ぼつくと。少シヅミ、抓ミ食フサマ。ぼくらくて。又、ぼくらくて。粘リ氣ナキサマ。「――、ぞわねなね」又、齒ナキモノ、或ハ、弱キ人ノ、モクくト、物ヲ噛ムサマ。「――、くら」

ぼこくど。又、ぼこりくど。「――、火あもねる」又、器物ヨリ、液類ヲ出スルナド、「――、でる」ト云フ。

ぼたくど。又、ぼたりくど。ぼたりくと。滴ルサマ。又、ぼたんくと云フ。

ぼたらくど。又、ぼたくど。ぼたりくと。滴ルサマ。

ぼだらくど。又、ぼたくど、降ルサマ。但シ、濕

リ雪ノ如キ、重量アルモノニ云フ。又、肉ナドノ、腐リテ落チントスルサマ。

ぼたりど。又、ぼたつど。ぼたりと。落ツルサマ。ぼちねかちねど。ちよいと。チヨイと。間

食スルサマ。書紀神代卷ニ、臨眺ヲ、はせるト訓ム。はせるハ、わながちに視るナリ。はせるハ、動詞ニテ、ソノ語根はせチ、はし、ハ、再ビ、はち、ト轉ジタルモノナルベシ。何カ食フベキモノナ

キカト、強ヒテ探リ求ムルナリ。かち、ハ、唯添ヘタルソノミ。「――、くら」

ぼちやんど。水中に飛込ミ、又、投入ル、サマ。ぼちくど。點々「――、點いつけた」又、頻數ニ瞬

キスルサマ。「――、めまししる」

ぼちりく。ぼちりく。點々。「――、雨あふる」

ぼちやりど。水中ニ飛込ミ、又、投入ル、サマ。

ぼつくと。點々。「――、穴あわげる」

ぼつらくど。又、ぼつりくど。ぼつりくと。茶

ナドモナク、スゲナク食フサマ。又、ぼつりくと、的中ノサマニ用フ。「――、あでる」

ぼてりど。肥ヒマ愛ラシキサマ。「――、肥である」

ぼんど。無邪氣で。「――して、すねなね」又、すばんナモ云フ。

ほんのりど。やはらかに。仄ホソとニテ、雅言ニモアリ、「――、あつたがね」

ほんまぢに。内證ナイシヤウに。孟蘭盆ワラハシニハ、子女ノ遊ブ時ナ

レバ、私ニ金錢ナド貯ヘテ、其ノ日ノ來ルヲ待ツヨリ、ほんまぢト云ヘルモノナルベシ。「――、溜めだ金だ」

はやりど。又、はやつど。微カニ、香ノ聞ユル感。「――、におねあしる」

ぼりくど。乾燥シテ、粉碎シ易キサマ。音ニヨリテ

云フ。又、其ノ音ノ、少シ強キチ、ぼりくと云フ。

「――、ぼつこれる」

ぼろりさちりど。三三五五。「――、歸つて來る」

ぼるりど。又、ぼるつど。缺ケ、或ハ、落ツルサマ。

「――、齒あかけた」又、人ニ捨テラレ、或ハ、金チ無クシテ、スゴくと歸ルチ、「――、歸つて來たト云フ。是レ、金ニモ人ニモ、ぼろりと離レタルヨリ云フ。

ま。前にノ略。コノまチ、語尾ノ下ニ付ケテ用フ。「おれあゆつたごどわ(前に)わがんながーつたべま」お前あ来てくーつぢやなあ(前に)おれあ歸ーつてがらたべま」此ノ如ク、副詞トシテ、其ノ適當

ノ詞ノ上ニ云フベキチ、斯ヤツニ轉ツ、且ツ畧シテ云ヘルナリ。括弧内ニ、前にト入レタルハ、下ノま

チ、コ、ニ移シ、カク更へテ見ルベキヲ示セルナ
 リ。
 まきごき。ぶんく〜ト云フガ如ク、怒ルサマ。真氣
 こきニテ、こきハ、例ノ添へタルノミ。又、こきヲ轉
 倒シテ、まこ〜ト云フ。——て、おごる」
 まこ〜て。うろ〜て。——なんにもしし〜いな
 ね」
 まし〜く。寝ネテ、バナラ〜ト、目ヲ開キ居ルサ
 マ。
 ま〜つてり。廣々。——した所た」
 ま〜でねに。丁寧に。真鄭にナリ。「——、かし〜く」
 まんきご。完全。真氣ナルベシ。老人ナドノ、病氣
 ニ罹リテ、身體自由ナラヌモノ、精神正確ナルモ
 ノチ、「また〜して」ナド云フ所ニテ、然思ハ
 ル。是ヨリ、物ノ完全ナルチ、總ベチまんきごト云

フ。「この衣裳の、古くなつたげんても、——して
 る」
 まんばあわし〜ねに。時の間に合せに。間場合せにノ
 轉ナリ。「——、こし〜つた」——、なればえね」
 まるま。又、まるまんま。又、まるこま。又、まる
 こまんま。丸の儘。——て、くう」
 みどつに。微塵に。微屑にナリ。「——、ぼ〜つこし
 た」——、われだ」
 みしり〜と。又、みちり〜と。又、みち〜と。
 みちりみちり〜と。——、できできた」又、みしく
 ハ、物ノ倒ル、音。——、も〜つかねてきた」
 み〜つしり。又、み〜つちり。み〜つちり。シ〜ツカリ
 ノ意。——と、ゆら」
 みり〜と。めり〜と。樹木ナドチ、伐リ倒ス音。
 「——、も〜つかねた」又、樹木ナド、引キ抜クサマ。

「〜、こく」
 むきら〜と。又、むき〜と。又、むきたきて。又、
 むきち〜やきて。飯ノ、熟煮セズシテ、内部堅キニ
 云フ。又、堅クシテ、口ニサハルニモ云フ。「——、
 んま〜なね」
 むさご。う〜つかりと。——たのまん〜やね」
 むさ〜ら〜と。又、むさ〜ら〜と。又、むさ〜と。又、
 陋シキ食ヒザマ。陋々〜とナリ。「——、くう」
 むじ〜や〜と。やたらに。無差別にナリ。「——、さ
 かなね」
 むし〜よねに。又、こむし〜よねに。むし〜やうに。飢
 暴に。無性にナリ。「——、引〜つ張る」
 む〜つと。む〜つと。立腹シテ、顔ヲ膨ラスサマ。「——
 ー、おごる」又、單ニ腫ル、サマ。「——、はれ上〜つ
 た」

むり〜と。又、むり〜と。しひて。むりに。——、
 は〜つてきた」——、われだ」
 むりむだねに。むりに。無理無態にナリ。「——、人
 およげら〜し〜ねだ」
 め〜と〜と。又、め〜り〜と。ッ、リ泣キスルサ
 マ。「——、なぐ」
 めり〜と〜と。又、めり〜と〜と。訴フル所ナク、悲シ
 ゲニ泣クサマ。「——、泣ぐ」
 め〜つたむし〜よねに。妄に。やたらに。「——、ただ
 ねだ」
 めろり〜と。又、めろ〜と。泣キ易キサマ。「——
 ー、なぐ」コノ副詞ヨリ、泣キ易キモノチ、めろト云
 フ。
 めろ〜と。又、めろ〜と。又、めろ〜と。け〜つそ
 りと。節操モナク、羞惡モナクシテ、簡慢ナルサマ。

(孟子公孫丑章句上ニ、孟子、伯夷ト柳下惠トヲ評シテ、柳下惠不恭ト云ヒシ註ニ、簡慢トセリ。恰モ、是ノ意ニ當ル。)「——して、おがしい奴だ又、是ヨリ、榎木ノ先ノ如ク、角々、ヌ物ノサマ。」「——した、わたまた」

もどく。龍々ニテ老人ナドノ、病的ニ肥エタルサマ。

もぐく。又、もちく。もぢく。ウロツクサマ。

もくらちやんら。もくらく。——て、着にぐね」

もくらく。又、もぐく。もくらく。

もくりと。又、もろつと。もくりと。勃然トノ意。

「——はれた」「——出つた」

もくりくど。又、もこくど。水ノ、地中ヨリ湧キ、

血ノ血管ヨリ出ヅルサマ。」「血が出る」

もたれた。又、もたく。もたく。」「驚わ、——お

ねだ」コレヲもどらくト云フトキハ、もどくヨリ、一層甚シキザマ。

もろらかりら。又、もろかり。手足ノ動作鈍ク、事ノ

歩取ラザルサマ。」「——て、おそね」又、小兒ナドノ、

無言ニテ、静カニ遊ビ居ルサマ。」「——て、おどなし

い」又、次條ノ語ト、同意ニ用フルコトアリ。

もろらくて。又、もろく。もそく。」「脊中

わ、——痒」

もたらく。又、もたれた。又、もたく。もたく。

藥物ノ、熱シ過ギテ、柔ラカナルサマ。」「——て、ん

まぐなね」

もちく。又、もちく。もちく。」「——、おどろく」

もちやらく。又、もちやく。もちやく。もちやく。」「——、おどろく」

ものゆわす。ものをも言はず。Sはなり。」「——、おど

つただねだ」

もんく。もやく。」「わたまた、——、おもた

ね」

もやらく。又、もやらくしやらて。又、もやく

て。もやく。柔ラカナルサマ。」「んまえ」

もやりと。もやくニ同マ。共ニ濃々ニテ、モトハ、

霧ノカ、レル様ヲ云フ文語ナルヲ、カク柔ラカナ

ルニ、用ヒタルモノナリ。

もろく。盛に。諸トナリ。」「煙あでる」

やあんど。又、やんど。又、やんど。態ト。ことさら

に。」「間違つたふりして、——、ただぐ」富士谷成

章ノ挿頭抄ニ、コノ詞ヲ出シテ、左ノ如ク、口語ニ

譯セリ。

秋迄の、命も知らず、春の野に、

萩の古根を、やくやくとやく哉。

やくとのみ、枕の下に、しはたれて、

煙絶せぬ、床の浦哉。

サレバコノ語ハ、古クヨリ用ヒラレタルモノナリ。

而シテ、其ノ口語ノ譯ハ、略ボ方言ノ意ニ等シ。

やははんど。彼是ト。」「あづがいつてくれだ」左

右ヨリ、彼是ト、丁寧ニ扱フ意ナリ。

やまもきて。爲ントスル事ノ、意ノ如クナラズシテ、

イラダツサマ。」「——、しる」

やきりかたしに。すぐに。昔、戦場ニテ、敵ニ射中ナ

ラレタル矢ヲ、抜ク暇モナク、切り掛ケナガラ、當

ノ敵ニ、矢ヲ酬イテ、射返スヨリ、云ヘルモノカ。

「——、よこした」

やつこらすつこら。又、やつこらすこら。又、やつこ

らく。やつこらく。老人ナドノ、身不自由ニ

テ、モクラン、ト、歩行スルサマ。」「——て歩行く」

ちぢく。ぼろ／＼と。毛髪ノ、蓬生シタルサマ。

「——、おねだ」

ちぢく。又、ちぢくちぢく。ちぢくちぢく。

亂雜及喧擾ノサマ。——とした「——ちう、音あ

しる」

や／＼。又、や／＼の／＼。やう／＼。又、や

う／＼。やうやう／＼、下ノ三音やうとキ促メテ、や

うとキ云ビユルナリ。——、書ねだ」

やん／＼あ／＼。苦勞しながら。重キ物ヲ、挽シ

聲ヨリ云ヘルナルベシ。——、もつて来た」下ノ

えん／＼あ／＼ならニ同じ。

やん／＼。がや／＼。——、やがましい」又、や

ん／＼に同マ。

やれりれ、おゝそれ。言フガ儘ニ、待遇スルサマ。

「——て、あつかう」又 彼是ノ意。——ちう内に、こ

どしも暮れた」

ゆさ／＼。又、ゆさ／＼。又、ゆさ／＼。

ゆさ／＼と。搖々スルサマ。——、ゆする」他動詞

ノ副詞ナリ。

ゆす／＼。身體肥滿シテ、身ヲ動ストキ、體肉ノ

搖々スルサマ。——、肥ねでる」

ゆつ／＼。又、ゆるり。又、ゆる／＼。ゆる

りと。

ゆぶら／＼。又、ゆぶら。粘土、又ハ、煮物ナド

ノ、水氣多キサマ。

ゆぶら／＼。又、ゆぶら。薄皮ノ物ノ、膿ミテ、僅

カニ觸ルルモ、内部ノ液汗ノ、カナタコナタニ、流

動スルサマ。

ゆら／＼。ぐら／＼と。——、動ぐ」自動詞ノ副

詞。

わん／＼になつて。乗り氣になつて。善氣になつ

てナリ。——、あるぐ」

わん／＼にして。善シたねとして。善シ事にしてナ

リ。——、来て飲む」

わん／＼すこ／＼。又、わん／＼すこ／＼。又、わん／＼すこ／＼。

又、わん／＼。身體肥滿シテ、左右ニ傾キ歩クサ

マ。——、あるぐ」

わん／＼らわん／＼。又、わん／＼ら／＼。重キ思ヒシ

テ、態々ノ意。わん／＼／＼ト、持チ運ブ掛聲ヨリ云

ふ。——、遠は所、——持つて来た」

よね／＼よく／＼。角カスルサマ。源平盛衰記第三十

六卷、義經船越に赴ク事ノ條ニ、「手綱を控へて、跟

躑々々として、歩ませける」トアリ。コノ跟躑ハ、行ク

コト正シカラザル貌トアリテ、タユタヒ／＼、行ク

コトナリ。サレバ、コノ語ヨリ、上ノ如ク轉ジ、角カ

シテヨロメク状ヲ、形容ヒルナリ。——、すもお

とる」

よね／＼。起き、又、立ッサマ。童語。——、起きろ」

「——、立て」

よね／＼つ。やう／＼。やう／＼とキ」促メタルナ

リ。——、終ねだ」

よか／＼。又、よか／＼。よほ／＼。ヨロホフサマ。

「——て、あふなね」

よち／＼。又、よち／＼。よち／＼と。屈曲スル

サマ。——、縫つた」よち／＼ちりトモ云フ。

よつ／＼。又、よつ。善く。——、見る」

よな／＼。カナク曲リタルサマ。この字は、——、

曲つた」

よら／＼。酔客ナドノ、グラ／＼ト、歩行スルサ

マ。——、あふなね」